

# 令和2年度 飯田OIDE長姫高等学校 「地域人教育」活動報告集



長野県飯田OIDE長姫高等学校  
Iida OIDE Osahime High School

商業科

## 飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」の未来について

飯田OIDE長姫高等学校長 原 康倫

本校商業科の「地域人教育」は、平成23年度末に飯田市、松本大学、本校との三者間で「飯田長姫高等学校地域人教育推進に係るパートナーシップ連携協定」を締結し始めました。平成25年度に飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の再編統合により本校が開校し、この教育資産を継承して9年目の取り組みとなりました。



「地域人」とは、地域を『愛』し、地域を『理解』して、地域に『貢献』する人財（たから）」と定義しています。本校と松本大学、飯田市が、相互の教育方針や人材育成方針を尊重しながら協働し、相互により高い成果をあげられること、10年後を見据えて、住みやすく暮らしやすい地域のあり方を創造できる人材育成を図ることを目指しています。

この「地域人教育」をはじめ、各学科の地域と協働した様々な教育活動が認められ、昨年度から3年間文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（プロフェッショナル型）の研究開発校として採択され、学科毎に地域産学官で構成されるコンソーシアムを構築し、更なる未来を見据えて実践研究を進めています。

この事業では、「地域協創スペシャリスト」の育成を目的とし、そのための「専門力」「課題解決力」「協創力」を身に付けることを目標にしています。自らの専門性を高めることに重きを置きながら、他学科の専門性も認め協働し自らの専門に取り込むことで、新たな付加価値を創造できるプロフェッショナルの育成を目指しています。

具体的に、工業科にもこの地域人教育の良いところを取り入れ、ものづくり地域人教育を始める取り組みや、1年次の普通科目の中でも地域課題解決学習を行う上での基礎となる知識や技能を学ぶ工夫、地球規模での環境保全についてもものづくりやビジネスの諸分野で意識し持続可能な社会づくりに貢献する取り組みも包含しています。

商業科での「地域人教育」そして「課題研究」は、それら未来への取組の源泉であり拠り所である根幹のシステムとなっています。本年度はコロナ禍でスタートが遅れさらに活動も制限されましたが、アフターコロナを見据えた新たなまちづくりへの内容も盛り込み、地域の要請に対して高校生が試行錯誤で探究する地域人教育の意義はより大きく、必要性も増していると実感しています。

連携先である飯田市および松本大学ほか地域の皆様のご支援ご協力に心より感謝いたしますとともに、生徒の未来のために、今後の地域人材育成への協働体制の継続と、さらなるご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます、巻頭の挨拶といたします。

## 飯田という地域に学ぶ

飯田市長 佐藤 健

12月の成果発表会では、感染症対策に万全を期した上で素晴らしい発表を聴かせていただきありがとうございました。改めて、地域人教育を受けられる皆さんを羨ましく思います。私が高校生の頃にこのようなプログラムはありませんでした。

この地域人教育は、日本全国どこでもできるかという点、実はそうではありません。「ムトス」の精神が息づいた飯田では、地域の皆さんが自らの暮らしを自ら切り拓く、自治の活動が様々に展開されています。飯田市行政としても、地域自治区ごとに自治振興センターや公民館を設置し、そこに職員を配置し、市民の皆さんの活動支援に取り組んでいます。このような自治と学びの土壌、まさに飯田らしさを生かしたプログラムが地域人教育なのです。飯田の自治に触れ、実践を通じて地域を知り、自らのあり方を考えるというこのプログラムの中で、皆さんはどのようなことを得たでしょうか。

今年度は、コロナ禍による授業開始の遅れや時間数減少、また7月豪雨という天災の影響により予定した全体学習会も中止になるなど、例年に比べて大きな苦労があったと拝察します。その中でも、皆さんは臆することなく、地域を歩いたり公民館長さんのお話を聴いたりといった基礎的な調査から始め、仲間や地域の方々と話し合いながら、地域の課題を探り、試行錯誤して課題研究を進めてこられた様子を成果発表会から感じました。また、成果発表会では語られない、泥臭い話や努力、先が見えないもどかしさや苛立ちなどの感情もあったのではないのでしょうか。まさにコロナ禍でしか得られない学びが皆さんの中にあっただと思います。

今一度、課題研究で関わっていただいた地域の方たちの姿、自分の活動、取組み姿勢などを思い出し、「一連の体験から何を学ぶか」を振り返ってみてください。上手くいかなかったと思うことも、上手くいったと思うことも、その体験から皆さん一人ひとりが何かを掴み取ることができれば、それは成功体験と胸を張ってください。地域人教育で得た学びは、進学しても社会人になっても必ず生かされます。

皆さんの益々のご活躍をご祈念申し上げるとともに、お世話になった地域の皆さん、先生方のご努力に敬意とお礼を申し上げます。



## 学校と地域とで育む飯田の未来

松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授 白戸 洋

2020年度の地域人教育は、コロナ禍によって地域との交流がとりにくい中ではありましたが、例年にも勝るとも劣らない成果を上げたと感じています。それは地域の皆さんの取り組みに加え、教職員と公民館職員が緊密に連携して生徒の活動をサポートした結果でもあります。さらに災害と呼んでもおかしくない、コロナ禍というこれまで経験したことのない環境の中で高校生の一一人一人が今まで当たり前であったことが当たり前ではないということに気づいたからではないかと思います。自由が制限され、人とのコミュニケーションが満足にとれない日常は、高校生に地域や社会、そして人がどうあるべきかという本質的な問いかけを突き付けたと思います。例年と異なりインタビューが難しかった松本でのフィールドワークを十分な準備と地域に接することに対する楽しさによって鋭い視点から地域の課題を見つけ出したことから一段と成長していることが分かります。無くして見てその価値に気づくことが多くありますが、その意味でも高校生に深い思考と洞察力を与えた1年であったと思います。彼らは飯田の未来そのものです。厳しい環境の中から未来の希望をつかみ取った高校生に地域も勇気づけられたのではないのでしょうか。



## コロナ禍を乗り越えていく地域人教育

松本大学「地域づくり考房ゆめ」 専門員 大野 整

「できると思えばできる、できないと思えばできない」といったのはピカソであるが、本年度の地域人教育はまさにその言葉を印象付けたものである。密を避けて、ソーシャルディスタンスを保ちながら地域活動を進める。この難しさを嫌というほど感じた年である。しかし視点を変えれば、SNSが発達する中で「人と人を簡単に繋ぐことのできる社会」について改めて再考するチャンスにもなった。今年の飯田OIDE長姫高校の地域人教育は、イベント型の活動を抑えながら、発信や取材・聞き取りなどに力を入れ、地域を深く知るための努力を惜しまなかった。成果発表会を聞きながら行動を止めなかった高校生の活動に感動した。「コロナを理由にできるはずのこともやらないでいる」、日本中の地域活動の多くが陥りやすい負の流れがある中で、飯田OIDE長姫高校の活動はそうはならなかった。携帯がなかった時代を振り返り私はふと駅の伝言板を思い出した。そういえば子供の雑誌には必ずペンフレンド募集の欄があった。詰まりどのような時代でも人は人との交流手段を探し続け繋がりとうとする。人と人との交流を止めることはできない。それは人間が、自身が成長するためには行動から生まれるアイデアの付加価値がとても大きいことを知っているからであり、そこに学びの原点がある。地域人教育から学ぶことの多さに改めて驚いている。



## 今年度の地域人教育で感じたこと

りんご並木まちづくりネットワーク・コーディネーター 桑原 利彦

今年度はコロナ禍の中での取り組みということで、先生方をはじめ関係者の皆さんは本当にご苦労されたと思います。しかし、そんな状況の中でも生徒たちは実に前向きに取り組んでいたことに驚くと共に、とても頼もしく感じられました。

そして地域の方々との交流をしながらの取り組みがなかなか出来なかったせいなのか、自分たちより年下の子どもたちを対象にした取り組みが目立ちました。大人の方々からの助言も受けつつ自分たちが中心となって子どもたちを指導しながらの活動です。この事は生徒たちにとってとても良い経験になったのではないのでしょうか。学んだことは人に教えることによって単に学んだ以上に身に付くものです。

りんご並木まちづくりネットワークも含め、地域人教育を受け入れている地域の大人たちは生徒たちに自分たちの知っていることを教えることによって、実はそれを再確認したり足りない部分を学びなおしたりする機会となっています。まさに学びのウィンウィンの関係にあるのです。

地域の担い手としての実感も今まで以上に感じたのではないのでしょうか。

取り組みの中で自分たちが学んだことを、学校でのまとめの時間の中で後輩に伝え教えることでいっそう大きな効果を生み出すと思われれます。



## 未来の思考を学ぶことにつながる地域人教育

株式会社週休いつか代表取締役・本校地域協働学習実施支援員 新海 健太郎

たくさんの人に出会うということは、たくさんの価値観に触れることでもありますから、自分の思考を広げる機会になるわけです。もちろん、それを書籍に求めることも、もしかしたら、建築物や風景からも得ることができるかもしれません。

コロナ禍では「ソーシャル・ディスタンス」が常識になりました。疎遠に陥りがちですが、一方で身近な存在である家族や地域といった小単位での人付き合いが濃密になった感もあります。さらには「オンライン」という新しい場づくりが急速に拡大し、逆に人と人との「接触」が著しく増えている、そんな現象も見て取れます。

その「オンライン」では空間的制約がなくなったばかりか、大量のパケットをやり取りできるよう技術が進み、効率的に大量の人の所作、つまり価値観に触れることができるようになりました。この情報シャワーがもたらすもの。それは思慮深いダイバーシティ&インクルージョンの世界です。

「地域人教育」にしても、インターンシップにしても、より多くの人、そしてたくさんの方々の価値観に触れることとなります。しかも、それは学生、地域、会社にとって普段の動線にはない世界。未来思考を互いに学ぶ一助になればと思っています。



## 令和2年度

# 飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」活動報告集

## 目 次

巻頭言≪飯田OIDE長姫高等学校長 原 康倫≫	1
飯田市より	2
松本大学より	3
地域の方より	4
地域人教育とは	6
地域人教育の取り組み	12
「R e a d y for 地域人教育」	13
1 学年「地域人教育」	14
2 学年「地域人教育」	19
3 学年「課題研究」各グループの活動報告	
3 年生地域人教育計画	24
橋南地区	26
東野地区	36
座光寺地区	46
松尾地区	56
竜丘地区	66
伊賀良地区	76
鼎 地 区①	86
鼎 地 区②	96
全 地 区①（遠山郷）	108
全 地 区②（中心市街地）	120
地域人教育成果発表会	130
資 料	134
地域人教育PR	144

# 地域人教育とは

# 飯田OIDE長姫高等学校「地域人教育」

## 沿 革

- 2012年(平成24年) 4月18日 飯田長姫高等学校・松本大学・飯田市による  
パートナーシップ協定調印式 於：飯田市役所
- 2012年(平成24年) 4月18日 「地域人教育」開講式(商業科1～3年生240名が参加)
- 2013年(平成25年) 4月1日 飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校 統合  
→「飯田OIDE長姫高等学校」となる
- 2013年(平成25年) 4月26日 飯田OIDE長姫高校・松本大学・飯田市による  
パートナーシップ協定調印式 於：飯田市役所
- 2015年(平成27年) 5月9日 牧野光朗飯田市長による特別講義(商業科3年生78名が参加)
- 2015年(平成27年) 12月25日 課題研究発表会 ～「地域人教育」の取組とその成果～  
於：鼎文化センター
- 2016年(平成28年) 4月20日 長野県教育委員会「21世紀型教育モデル校」に指定される
- 2016年(平成28年) 12月22日 地域人教育 成果発表会  
地域連携教育とまちづくりのあり方を考える研究会  
於：鼎文化センター
- 2017年(平成29年) 4月26日 地域人教育推進委員会を組織する。以降、定期的に会を開催
- 2017年(平成29年) 6月23日 飯田下伊那地域 地域おこし協力隊員による講義
- 2017年(平成29年) 11月16日 第25回全国高等学校生徒商業研究発表大会 参加及び見学  
商業研究部による飯田水引の研究が「優秀賞」に選ばれる  
(商業科1～3年生約240名が参加) 於：ホクト文化ホール
- 2017年(平成29年) 11月24日 文部科学省職員視察調査  
高校生を対象とした学校教育と社会教育が連携した教育実践
- 2017年(平成29年) 12月22日 地域人教育 成果発表会  
地域連携教育とまちづくりのあり方を考える研究会  
於：鼎文化センター
- 2018年(平成30年) 1月11日 第11回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等  
文部科学大臣表彰
- 2018年(平成30年) 8月20日 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革の推進」  
全国の先進的な事例として紹介される
- 2018年(平成30年) 12月21日 地域人教育 成果発表会 於：鼎文化センター
- 2019年(平成31年) 4月3日 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
プロフェッショナル型」に採択される(令和3年度まで)。
- 2019年(令和元年) 8月 ベネッセ教育総合研究所月刊誌『VIEW21』にて紹介される
- 2019年(令和元年) 12月24日 地域人教育 成果発表会 於：鼎文化センター
- 2020年(令和2年) 1月24日 長野放送「信州・学びの改革～主体性・協働性・創造性を育む」  
にて紹介される
- 2020年(令和2年) 2月 リクルート進学総研月刊誌『キャリアガイダンス』にて紹介される
- 2020年(令和2年) 3月～5月 新型コロナウイルス感染症予防対策による休校措置  
学校再開を見据えた「Ready for 地域人教育」の実施
- 2020年(令和2年) 4月24日 書籍『地方創生の地域経営』(金融財政事情研究会)にて地域人  
材育成の事例として地域人教育が掲載される
- 2020年(令和2年) 12月23日 地域人教育 成果発表会 於：鼎文化センター  
万全なコロナ対策を講じて開催

# 地域人教育

飯田OIDE長姫高校で展開している「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人財を育成する教育プログラムです。飯田市と松本大学と飯田OIDE長姫高校は2012年に協定を結び、互いに協力しあって「地域人教育」を進めています。

伸ばしたい力 → 自分で考え、行動できる力

主体性 自律性	企画力 実践力	協働性 Win-Win	地域理解 持続可能な地域	郷土愛 誇り
------------	------------	----------------	-----------------	-----------

育てる人財像 → 地域の産業、暮らしの中核を担うリーダー

地域のヒト・モノ・企業をつなぎ、仕事を創る職業人	地域資源を生かした新ビジネスの起業家	地域活動に参加し暮らしと文化・伝統を支える社会人	住民・企業と協働して課題に取り組む行政リーダー
--------------------------	--------------------	--------------------------	-------------------------

## 3年間のカリキュラムマップ



地域の専門家から現地で学ぶ



大学の先生から地域について学ぶ



地域の方とのイベント準備、実施



野外でのプラレール(大盛況でした)



フィールドスタディ(地域の方に聞く)



地域の魅力、課題をまとめる、発表する

### 1年次 目標 地域を知る

<b>1, 2学期</b> <b>フィールドスタディ</b> 飯田市の中心市街地を練り歩き、街の人から地域の魅力や課題を教えてもらうとともに、自分たちでも発見をします。	<b>3学期</b> <b>地域に関する講演</b> 松本大学の教授による地域連携に関する講義のほか、地元の経営者、金融、行政の専門家から学びます。
--	--

学びの積み上げ

### 2年次 目標 地域で活動する

<b>通年</b> <b>地域イベントの運営</b> 地元で行われるイベントに運営者として積極的に参加、交流することで、世代を超えた協働とコミュニケーション力を磨きます。	<b>2, 3学期</b> <b>商品開発・情報発信</b> 地域資源を生かした商品の企画・開発の取組と、POP、広告、プレゼンテーションなどの情報発信について学びます。
---	---



ゆるキャライベントを運営する



地域の方と協働して屋台を運営する

### 3年次 目標 地域の課題解決に向け行動する

<b>1, 2学期</b> <b>地域連携企画・実践</b> 地域課題を発見し、地域資源を生かした企画をし、地域の方と協働して実践します。市民向け、観光客向けなど多岐に渡ります。	<b>通年</b> <b>地域への提言活動</b> 実践から魅力発信や課題の解決策を市長や地域へ提言するとともに、意見交換することで、次や卒業後の実践に生かします。
---	--



生徒によるイベント企画(花見、スイーツ、お茶会等)



商店街空き店舗の活用(定期的な喫茶店開店)



市長や地域の方への街づくりに関する提言活動



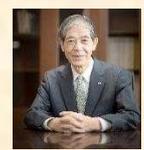
生徒自らが、地域の産業人と協働し、開発した商品の販売

地域人教育成果発表会



飯田市 佐藤 健 市長

「ムトス」の精神が息づいた飯田では、地域の皆さんが自らの暮らしを自ら切り開く、自治の活動が展開されています。地域人教育を通して、地域で活躍している様々な住民の皆さんと出会います。その体験の中で、ムトスの精神を引き継ぎ「自分で考え、行動できる力」を育み、「地域の産業、暮らしの中核を担うリーダー」となっていたただけることを期待しています。



松本大学 菅谷 昭 学長

飯田OIDE長姫高等学校、飯田市、本学による先見性に富む「地域人教育」の取組みは、今日、わが国の最大にして且つ未だ方向性の定まらない課題の一つである、少子高齢化に伴う人口減少問題の解決に向け、重要な示唆を与える方策と思います。今後、本取組みが地方の人口増加並びに再生・活性化を促す“地方創生モデル”に繋がることを期待しています。松本大学も、若年世代の「出生地定着増促進大学」として更なる努力を重ねて参ります。

# 人材サイクル構築に向けた取組事例 「地域人教育」

## 地域人

地域を「愛」し、「理解」し、「貢献」して、地域に「貢献」する人材

平成24年度に飯田長姫高校（現 飯田OIDE長姫高校）・松本大学・飯田市の3者によるパートナーシップ協定を締結。

### 地域人教育の目的

- 1 地域人教育を通して粘り強さを学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動できる地域を担う人材を育成する。
- 2 10年後を見据えた、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。



### パートナーシップ協定のイメージ



### 事業展開

- 1年生 地域人教育（専攻科必修）  
「地域を知る・地域の見方を学ぶ」
- 2年生 地域人教育（専攻科必修）  
「地域と関わる・地域に参加する」
- 3年生 課題研究  
「これまでの学びを活かした地域への主体的参加体験」

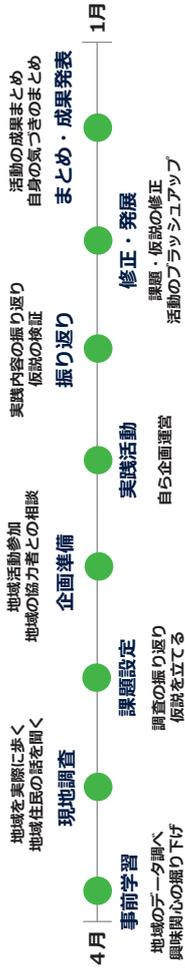
# 地域人教育の仕組



## 地域人教育のカリキュラム

学年	科目	学習内容
1 学年	【基礎】 地域人教育 (1単位・3.5h)	* 講義・演習 外部講師による講義 フィールドスタディ（松本市、飯田市）
2 学年	【応用】 地域人教育 (2単位・7.0h)	* 地域でのイベントの運営サポート 「りんご並木まつりネットワーク」に参加 年間6回程度イベントの運営サポート インターンシップを連携企業で実施
3 学年	【実践】 課題研究 (3単位・10.5h) 金曜日4～6時間目	* 地域づくり・課題解決への取り組み 地域商品開発・販売 イベント企画・運営 地域課題の取り組み（公民館との連携）

### 地域人教育（3年生）の授業プロセス



### 学びを深める要素

- 1 素直な生き方を「している人との出会い
- 2 「仲間」の存在
- 3 必要とされる「自己有用感」
- 4 考えを整理して伝える機会

# まちじゅうが教室

～長野県飯田市 天竜舟下り～



飯田OIDE長姫高校 「地域人教育」

# 身につけさせたい力＝伸びる力

経営における意思決定要素  
(経営学者：ミンツバーク)

学 力

サイエンス  
論理、思考、学問

人間性・社会性

クラブ  
経験 (失敗含む)、実績

愛郷心・矜持

アート  
想い、ビジョン

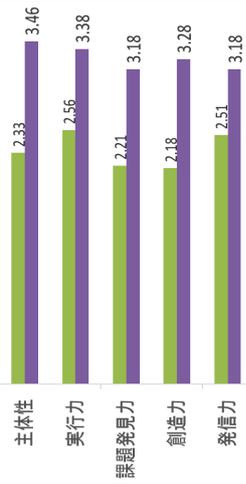
人間性・社会性

クラブ  
経験 (失敗含む)、実績

地域人教育の基礎学習における

生徒自己評価 (H28.4.10 H29.2.27)

【母集団 1年生 82名 5段階評価による平均値】



地域に飛び出すことで、様々なつながりが生まれる  
**時間** (歴史や伝統、未来とのつながり)  
**空間** (自然や科学とのつながり)  
**人間** (人と人とのつながり)

実現・充実のために求められる機能  
 地域：協働者 (共有)  
 家庭：強力な支援者 (価値観の転換)  
 高校：社会関係資本を活用する教育機関  
 自治体 (行政)：政策、財政、法整備

学 力

サイエンス  
論理、思考、学問

地域事象  
事柄 行為 営み

背景  
自然 社会 歴史

心象  
人 精神 心ころ

学び (教養) と地域社会が つながる  
気づき

学力  
向上

社会関心力  
向上

主体性  
向上

愛郷心・矜持

アート  
想い、ビジョン

地域における  
学習・経験・気づき  
を表現する

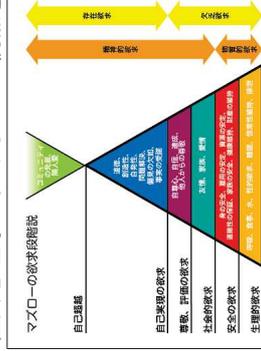
表現する上で押さえておくべきポイント

自己呈示

自己開示

地域の方 (他者)  
からのフィード  
バックの影響大

社会心理学における3つの視点を導入



【共同体感覚の構成要素】

Self	Other
Known Self	Known Other
Open Self	Open Other
Hidden Self	Hidden Other
Blind Self	Blind Other
Unknown Self	Unknown Other

【マズロー 欲求段階説】

【アドラー 共同体感覚】

【ルフト、インガム ジョハリの窓】

目指す姿 : 自己呈示と自己開示を組み合わせながら表現しあう**集団、学校、地域、家庭**  
 具体的な姿 : 地域を語り合う、人 (背景・心象) を語り合う、変容した自分や友のことを語り合う

## 飯田 OIDE 長姫高等学校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定

飯田 OIDE 長姫高等学校において実施する地域人教育プログラムの推進について、長野県飯田 OIDE 長姫高等学校(以下「飯田 OIDE 長姫高校」という。)、学校法人松商学園松本大学(以下「松本大学」という。)、飯田市は、「飯田長姫高校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定」(以下「協定」という。)を次の通り締結します。

### 1 用語の定義

- (1) 地域人  
地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材をいいます。
- (2) 地域人教育  
飯田 OIDE 長姫高校において、地域人を育てるための教育活動全体を指します。

### 2 パートナーシップ協定の目的

飯田 OIDE 長姫高校の進める地域人教育の目的とするところは次の通りです。

- (1) 地域人教育を通して結ぶ力を学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動できる地域を担う人材を育成する。
  - (2) 10年後を見据えた、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。
- 松本大学は、地域社会に支えられ、地域社会に貢献する、地域密着型の教育を目指し、平成 14 年に開学し今日に至り、地域や高等学校などと積極的な連携を図っています。
- 飯田市は平成 18 年、持続可能な地域をつくり出すための、地域を担う人材やさまざまな分野で活躍する人材を生み出す人材育成のシステムとして、地育力連携システム推進計画を策定しました。そしてこの計画の柱の一つとしてキャリア教育を位置づけ、これまで小中学校において地域や企業を結ぶ取り組みを進めてきましたが、高校生への展開を課題としていました。

飯田 OIDE 長姫高校が進める地域人教育は、松本大学の教育方針や、飯田市の人材育成方針とも合致することから、3 者のパートナーシップにより、より高い成果を上げることが狙い、協定を締結します。

本協定は、地域人教育を推進するためのそれぞれの役割分担及び協力の内容を定めるものです。

### 3 パートナーシップに関する原則

飯田 OIDE 長姫高校、松本大学及び飯田市は、パートナーシップ協定に基づき、相互の情報及び意見交換を密に行い、互いに協力し合って地域人教育の取り組みを進めます。

### 4 飯田 OIDE 長姫高校の役割

- (1) 飯田 OIDE 長姫高校は、地域人教育の主体として、授業カリキュラムを企画し、実施します。
- (2) 飯田 OIDE 長姫高校は、地域人教育の授業を進めるために、松本大学や飯田市と、情報交換や意見交換、及び調整のための会議を、必要に応じて計画し、実施します。

### 5 松本大学の役割

- (1) 松本大学は、授業計画へのアドバイス、講師の派遣、その他地域人教育を推進するために必要な支援を行います。
- (2) 松本大学は、飯田 OIDE 長姫高校の実施する、会議に参加します。

### 6 飯田市の役割

- (1) 飯田市は、授業計画づくりにむけたアドバイス、講師の派遣及び幹旋、公共施設及び機材等の貸出、その他地域人教育を推進するために必要な支援を行います。
- (2) 飯田市は、飯田 OIDE 長姫高校の実施する、会議に参加します。

### 7 その他

本協定に定めのない事項で、今後本協定を遂行する上で必要と認められる事項、また、疑義を生じた事項については、飯田 OIDE 長姫高校、松本大学及び飯田市の間で協議して、定めるものとします。

平成 25 年 4 月 26 日

飯田市 鼎名古熊 2535 番地 2  
長野県 飯田 OIDE 長姫高等学校

校長

松本市 新村 2095 番地 1  
学校法人松商学園 松本大学

学長

飯田市 大久保町 2534 番地  
飯田市

飯田市長

# 地域人教育の取り組み

# Ready for 地域人教育

## ～学びを止めない～

令和2年度は4月、5月が一斉休校措置により、校内における学習が出来ない状況となりました。そこで、地域人教育の学びを止めないために、「Ready for 地域人教育」という学習プログラムをスタートし、休校期間中の学びを本格的に学習する準備と位置づけました。

この学習で身につけることができることは以下の3つです。

- ① 自分の興味・関心に対するアンテナを高くすることができる
- ② 自分が探究したいテーマについて、前もって考えることができる
- ③ 自分が（地域）社会に対してなにができるのかを考え、そのための計画ができる

各学年における学習テーマとねらいは以下のとおりです。いずれもレポート課題としました。

### 1年生

学習テーマ	ねらい
「ダイナミックプライシング」に関する考察	飲食業におけるコロナ対応に関する一考
若年層の秋田県へのU・Iターン移住に関する考察	人口減、生活の豊かさに対する思慮
「危機状態における首長の発信力」からの考察	ポピュリズム化する政治の認知と分析

### 2年生

学習テーマ	ねらい
論文「天然痘の撲滅」からの考察	感染症に勝利した歴史の認知と分析
新型コロナウイルス感染症に関する情報収集・考察	現代の感染症に対する対峙。現実の凝視
SDGsに関する情報収集・考察	地球的課題に対する認知と分析

### 3年生

学習テーマ	ねらい
論文「天然痘の撲滅」からの考察	感染症に勝利した歴史の認知と分析
論文「りんご並木をめぐる「モノガタリ」の形成と教育的評価に関する研究」からの考察	地域資源の見える化
新型コロナウイルス感染症に関する情報収集・考察	現代の感染症に対する対峙。現実の凝視
SDGsに関する情報収集・考察	地球的課題に対する認知と分析
「危機状態における首長の発信力」からの考察	ポピュリズム化する政治の認知と分析



「Ready for 地域人教育」における学習でSDGsのことを初めて知ったという生徒は8割以上いました。

## 1年生 地域人教育報告

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動に大きな影響が出てしまいました。1年生では「地域を知る」を目標に、飯田市と松本市で2回フィールドワークを行っていますが、コロナ禍によりキャリアの日が中止となったり、現地でのインタビュー調査に制限が発生したりと計画の見直しが必要となりました。そこで従来の計画を練り直し、コロナ禍の今だからこそ、地域・自分・コロナのことが学習できるように取り組みました。

### <コロナ禍によるレポート学習>

レポート①「今は来ないで。岡山県は炎上、島根県は絶賛」

レポート②「〇〇が全国ワースト1の秋田県に若者の移住が激増している理由…世界が注目する地域に？」

レポート③「コロナとダイナミックプライシング」

レポートは、コラム記事を読みこみ問いに答える形式でした。文章をよく読めば答えがわかるもの、インターネットなどを利用して用語を調べるもの、正しい答えはないが、自分なりの答えを出すものが出題されていました。コロナ禍による、ものの考え方や地域や商店の変化などを学習することができました。空前絶後のコロナという状況の中で、何が正解で何が間違っているかなんて正しく判断することはできません。その時々、よりベターな判断をすることは、地域人教育にも生かせるのではないのでしょうか。私たちが学んでいる商業についても、コロナは決して暗い状況だけではなく新たなビジネスモデルを生まれるチャンスにもなっているのだと感じました。

### <税に関する作文応募> (夏休み課題として全員応募)

#### 一入賞一

飯田税務署長賞 1年G組 矢澤 沙那 「問題、税金ってなんでしょう」

長野県租税教育推進協議会長賞 1年G組 青山 美莉愛 「税金と生活」

長野県税務連絡協議会長賞 1年F組 赤羽 紅音 「税の大切さ」

### <自分史の作成>

夏休み期間を利用して自分史の作成を行いました。テーマは自己理解と他者理解。自分を肯定的に見つめる。他人に興味を持ってもらえるように作成し発表することです。作成されたものは、自分の名前の由来について調べる。成長順に写真を貼り付ける。今までの思い出や、人生の転機となった状況を記載するなど全員が工夫した自分史を作成していました。作成した自分史はグループごとに分かれて発表を行い、グループから代表として選ばれた者は全体の前でも発表を行いました。人前で発表することは恥ずかしさもありましたが、自分のことだけにしっかりと発表できた気がします。またコロナの影響で4月5月が休校でクラスメイトのことを知ることができていなかったため、発表を通してクラスメイトのことを知る良い機会となりました。



### <松本フィールドワーク>

秋になりコロナ禍がひと段落してきたのでフィールドワークが行われることになりました。松本大学の先生方から多大なるご協力をいただき、松本市の上土商店街を中心にフィールドワークを行うことができました。しかし松本市での滞在時間を減らすこと、インタビューに制限をかけることなど例年とは異なり、様々なことに配慮が必要でした。事前学習では、松本大学から4名の先生方に来校いただき、歴史、街並み、食べ物、観光といった観点から教えていただきました。その後、グループごとにテーマ、調査範囲、インタビュー内容などを決めて松本フィールドワークを迎えました。インタビューは地元の商店の方に限定して行いました。私たちは松本市を、城下町として見て回ることができ、水やおいしい食べ物がたくさんあることから観光地として素晴らしい地域であると感じました。しかし街を歩いてみて、休業日が重なっていたり、ゴミ箱が不足していたりと観光客への対応という面で改善の余地があると感じました。事後学習ではグループごとに模造紙にまとめて全体の前で発表をしました。グループによって感じ方や考え方が異なっていて楽しかったです。表現の仕方も工夫されていました。私たちがまとめた模造紙は松本市四柱神社に展示していただくことになりました。松本フィールドワークを通して、飯田市への興味や関心が一層高まりました。



### <フィールドワーク感想>

- お店の人や町の人達がやさしくて面白くてコミュニケーションがとりやすかったです。
- 笑顔で対応、話し相手になってくれるなど人当たりがよい。丁寧に答えてくださった。
- 松本には県外の方も多く、松本の経済は主に観光業で回っていると思った。
- 景観が城下町に合う雰囲気でもとても落ち着きました。
- とても良い町だと思った。だが、よく見ると改善点もあるんだなと色々なことを知れた。
- 私の家の横や近くにも川がありますが、苔や藻が生えていてそこまで治安がよくないので松本市の川がうらやましいです。
- 栄えた理由や過去の背景だけでなく、地域人の授業を通して地元と比べて考えることが大切だという話を聞くことができた。
- 松本で学んだことを飯田でも生かしていきたいです、
- 楽しむだけでなく宝探しや飯田と違うところなどを考えながら行えたので良かった。
- コロナの関係で事前学習があったけど、本当なら何もないうまま行っていたことを聞いて、ある程度地域の歴史や地形を知っている方が、インタビューやまとめがしやすいと思いました。
- 実際に歩いてみるにより事前学習ではわからなかったような良い点や改善点が見つかり、お話を聞いたり、写真を見たりするだけでなく実際に自分の目で見ることで新たな発見があり、より質の良い学習につながっていくと感じました。
- 今まで、話したことがなかったクラスの人とも仲良くなれたのでうれしかったです。
- 自分たちで考えて行動する力と、団結力が付いたと思う。

# 一年生

## 地域人教育活動報告

F組

石田一葉 柄澤結々 小池伶俐 酒井元気 福澤明莉 福沢心音

G組

小田原希花 久保田晃典 下原麻夢 錫木瑞夏 松下蓮

# 今年の活動



自分史の作成



松本市フィールドワーク

## 自分史

- ・成長過程を理解
- ・過去の自分と比較
- ・地域の方々、家族への**感謝**

3

## 地域資源

- ①水がきれい！
- ②食べ物がおいしい！
- ③人が優しい

4

## 課題

- ①定休日のお店が多い
- ②ゴミ箱が少ない

5

## 四柱神社でのインタビュー

「景色がいい」  
 「歴史が残っている」  
 「いい旅の場所」

6

## 東もん磯村でのインタビュー

「おいしいものがある」  
 「魅力を知ってほしい」  
 「コロナもあったが…」

7

フィールドワークにご協力いただいた  
 松本大学 大野先生と白戸先生



8

## 提案

観光客への対応が必要

課題をなくしてさらに  
 意識を高めてほしい

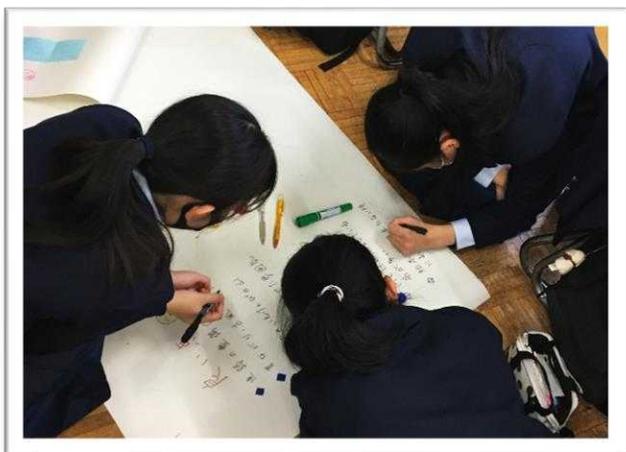
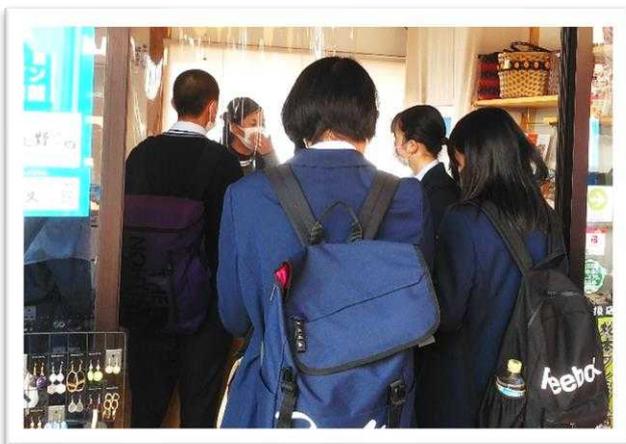


9

## 事後学習



10



## 1年間の学習を振り返って

### 1年F組 3番 石田 菜緒

私は、地域人教育を学習して地域のことを考える回数が増えたなと思います。はじめは「地域人教育って何？」というところから始まって授業の回数を重ねるたびに今まで知らうとしてなかった地域を知ることができました。1年生としては、松本フィールドワークに行って飯田と松本の魅力を調べたのが思い出に残っています。飯田と松本って聞いたら松本の方が魅力的でしょっと思ってはいたけれど、今まで見えていなかった飯田の魅力を見つけられました。何より松本ぐらい魅力的な場所にするには自分に何ができるのかなと考えられて三年生のときのグループ活動につながられるなと思いました。また、学習発表会で発表を見て、三年生が自信を持って発表していてすごいかっこいいなと思いました。1年生で学んだことと2年生で学ぶことを生かして3年生のグループ活動では、頑張りたいなと思います。大切な事を学べるので良い授業だし次の活動がとても楽しみにになりました。

### 1年F組 29番 面村 なごみ

私は今年初めて地域人教育を学んでみて、中学校の時よりもさらに地域と関わり、寄りそう学習ということが分かりました。初めは何をするのかも全く分かっていなかったけど沢山の人の話を聞いて多くの事を学びました。

例えば、自分史を書いた時は、自分の歴史について今まで振り返って考えることはあまりなかったけど、色々な事が思い出されて自分の事を振り返れて良かったです。

また、松本市に行った時は、飯田市と松本市にどのような違いがあるのか、飯田市をよりよくするにはどうしたらいいのか、など沢山考えることができて良かったです。

そして、発表会では他学年の発表が聞けてすごく参考になりました。二年生も分かりやすかったけど、三年生の発表の時の態度やスライドが各グループずつ個性にあふれていて見ていてとても関心が持てました。

来年は、もっと深く地域のことを考えていきたいです。

### 1年G組 10番 小田原 希花

私が一年間地域人教育の授業をうけてきて感じたことは、他の地域のことを知ることで、自分の地域と違うところは、どんなところか、などの疑問を抱き、地域について考えることができたということだ。初めて松本大学の白戸先生のお話を聞いた時、自分の知らない松本の魅力がたくさん出てきたので、驚いた。フィールドワークの事前学習で松本と飯田を比べたら飯田の課題点が見えてきて、「こんな課題点があったんだな」と地域について考えることができた。松本フィールドワークを行ってみて、街並みや様子を見て、課題点も見つけることができた。また、松本市は観光地として見られているため、観光客に対してのおもてなしの様子も見られた。飯田はあまり観光地として見られていないので、このフィールドワークを元に、飯田も活性化していければなと思った。来年の地域人教育でも、このような考え方とともに活動していけたらなと思う。

### 1年G組 29番 平栗 羽衣

地域人教育を通して、中学校の時にしたことのないことばかりで初めは、何をするのが全然わからなかったです。けれど、松本のフィールドワークで実際に松本について下調べをして、お店の方や地域の方にお話を聞き、行ったことはあるけれど全然知らなかった松本のことをたくさん知ることができたと思います。お店の方や地域の方に話を聞くときに、何を聞きたいのか、主旨をきちんと伝えるために「何をどの目的で、なぜ知りたいのか」を言って聞くなど工夫をしました。初めてのインタビューだったので戸惑うことも多く大変でした。また、3年生になると本格的に地域の人と関わり、それぞれ担当する地域についての授業になっていくのを課題研究発表会を通してより詳しく知りました。発表していた3年生の姿はとてがかっこよく、自分もそういうかっこいい姿に3年生になったときはなれるように1年生での学習やしたことを2年生へつなげ、さらに3年生へつなげ、やってきたことを無駄にしないようにしたいと思いました。

# 【2学年】地域人教育活動報告



2年生

生徒 F組 40人 G組40人

林 秀孝（指導教員） 山田 将晶（指導教員）

國松 秋穂（指導教員）

【ご協力いただいた方々】

インターンシップ受入企業、事業所 様

飯田市役所（公民館） 近藤 様、熊谷 様、三船 様、棚田 様

## 1 はじめに

例年、2年生は「地域で活動する」を学習のテーマとし、中心市街地（丘の上）で開催されるイベントへの参加やインターンシップ（職業体験）のほかに、県外でのフィールドスタディ、全国生徒商業研究発表大会の見学など、学校の外での活動ができることを楽しみにしていました。しかし、コロナ禍のため変更や中止になり、私たちの学習も軌道修正が迫られました。そこで、今年度の2年生の学習テーマを「3年生で地域の課題解決に向け行動するための準備をしよう」と設定し、学習内容はスキル向上、人を知る、地域に関わる、の3つに分類しました。

## 2 私たちが実施したこと

月	① スキル向上	② 人を知る	③地域に関わる
4月	休校中課題		
5月	①レポート課題（天然痘の撲滅）	②情報収集とまとめ学習（新型コロナウイルス、SDGs）	
6月	リサーチリテラシー 課題の見つけ方		
7月	思考法トレーニング		
夏休み	産業振興会作文コンクール		（企業研究）
8月			受入企業への事前訪問
9月		自己を見つめる （マインドマップ）	事前学習 インターンシップ実施 まとめ
10月		他者を見つめる （ハイパー自己紹介・他者紹介）	報告会
11月	スマホによるチラシの作成法	地域を見つめる （地理編・歴史編）	
12月		地域をみつめる （まとめ・発表）	公民館を知る
1月予定			
2月予定			地域のために活動する人たちと その背景にあるものを知る
3月予定			



図1 スマホで作成したチラシ



図2 他者紹介のようす



図3 インターンシップのようす

① スキル向上 編

スキル向上を目的とした取組として、リサーチリテラシー、課題のを見つけ方、思考力トレーニング、専門高校生の作文コンクールへの参加、地域人教育成果発表会用のポスターの制作を実施しました。

まず、リサーチリテラシーでは、調査する力の向上を目指し、山田先生から調査の種類や引用するときに気を付けること、まとめ方などの講義をしていただきました。

次に課題を発見する力の向上のために、課題のを見つけ方を学びました。ここでは、課題を探す際には鳥の目で大きく捉えることや、虫の目で詳細なものも捉えるなど両方の目を持つことの重要性や、発見した課題を整理する「ロジックツリー」についても学習しました。

そして、情報収集・デザイン力・編集する力の向上を目的としてポスターの制作を行いました。成果発表会を宣伝するにあたって使用されたポスターを手書きとスマートフォンのアプリで制作しました。

他にも、様々な考えを用いて問題解決に向かう力の向上を目指した思考力トレーニングや、学んだり体験したりしたことを言語化するのに欠かせない論理的な表現力を向上させるために、作文コンクールに参加しました。

令和2年度  
**飯田OIDE長姫高校  
地域人教育成果発表会**

日時:令和2年度 12/23(水)  
場所:飯田市鼎文化センター  
時間:8時30分~12時45分

10:41 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
10:54 伊賀良 はじめてのいがら  
10:59 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
10:59 伊賀良 はじめてのいがら  
11:04 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
11:04 伊賀良 はじめてのいがら  
11:04 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
11:04 伊賀良 はじめてのいがら  
11:04 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
11:04 伊賀良 はじめてのいがら

9:00~12:30  
**地域人教育成果発表会**  
12月23日水曜日

9:41 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
9:54 伊賀良 はじめてのいがら  
10:20 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
10:33 伊賀良 はじめてのいがら  
10:41 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
10:54 伊賀良 はじめてのいがら  
10:59 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
11:04 伊賀良 はじめてのいがら  
11:38 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
11:51 伊賀良 はじめてのいがら  
12:04 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を

**飯田OIDE長姫高校  
地域人教育成果発表会**

**— 主な発表内容 —**

1. 【コロナに負けるな!松尾に光を】 コロナでもできるイベントの調査 9:41~  
2. 【あつまれシードルの森】 地域資源であるシードルのPR 9:54~  
3. 【色の色彩~竜丘の軌跡~】 竜丘カレンダーの作成 10:20~  
4. 【みんなで集まろう!子ども食堂、フードドライブの開催】 10:33~  
5. 【子どもまつり】 美博と動物園をつなげてみよう 10:46~  
6. 【龍にある唯一って...?】 時を越えた魅力の発信 10:59~  
7. 【はじめてのいがら】 伊賀良の魅力発信 11:25~  
8. 【キッズフェスティバル~思い出作りにおいで~】 withコロナの一例にちなむようなイベントの開催 11:38~  
9. 【さあ飛び込もう!地下道へ!!】 飯田駅地下道の防犯対策 11:51~  
10. 【私の遠山郷~ここには会いたくなる人がいる~】 地域内関係人口の構築 12:04~

場所: 飯田市鼎文化センター  
日時: 12月23日(水) 午前8時30分~午後0時45分まで

マスクを付けて発表を見てね!  
後援を兼ねたコロナ対策発表会として開催いたします。

**飯田OIDE長姫高校  
地域人教育成果発表会**

① 1年生の活動報告 9:15~  
② 2年生の活動報告 9:28~

③ コロナに負けるな!松尾に光を 9:41~  
④ あつまれシードルの森 9:54~  
⑤ 色の色彩 竜丘の軌跡 10:20~  
⑥ みんなで集まろう!子ども食堂 10:33~  
⑦ キッズフェスティバル 思い出作りにおいで 11:38~  
⑧ 子どもまつり 10:46~  
⑨ さあ飛び込もう!地下道へ!! 11:51~  
⑩ 龍にある唯一って...? 10:59~  
⑪ 私の遠山郷 12:04~

Date: 12/23(wed) time: 9:00~12:30 at: 鼎文化センター

## ② 人を知る 編

人を知る編では、自分を含めて様々な視点から「人を知る」ために、他者や地域を知ることになりました。

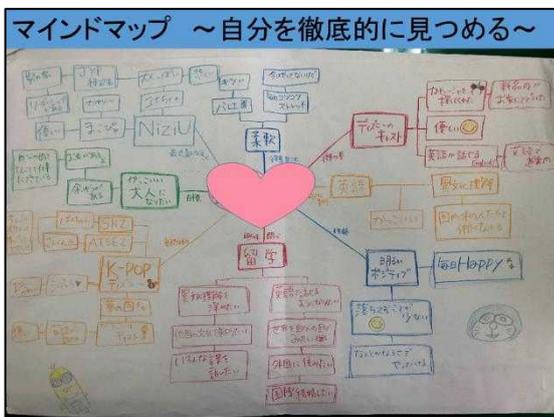
まず、自分を徹底的に見つめるために、マインドマップをつくり、自分の好きなこと、得意なこと、将来の夢や普段考えていることなど、自分の思考を表現し、見つめ直しました。

次に他者を徹底的に見つめるために、前の時間につくったマインドマップをもとにして自己紹介をしました。この時に大切だと教わったことは聞いている側の立場です。相手の言葉だけでなく、何を伝えたいのか、相手の心に想いを寄せるなどの「傾聴」について詳しく教わりました。私たちは「傾聴」に心掛けたことで、話している人にたくさん質問することができました。

す

次に地域を徹底的に見つめるために、地理と歴史について学びました。地理では、飯田下伊那の地理・地形や飯田市が 20 の地区に分かれていることを確認しました。歴史では、先生から学ぶのではなく、自分が関心あるテーマについて調べ、A3サイズのポスターにまとめ、各自が発表をしました。自分が調べたことだけでなく、他の人が調べたことを聞いたことで、飯田の歴史について幅広く学ぶことができました。

その後、飯田市の公民館主事の方からこの「地域を知る」のテーマで学ぶ機会がありました。それは、地域には必ず住民の暮らしを守ったり、活性化したりする人がいること。それはコロナの状況下でも変わらず、むしろ若い人たちが声を上げ工夫して地区の運動会が企画されたこと。それを反対するのではなく、若い人たちの活動を支援しようとする年配の人。そして、住民が一体となった運動会当日のこと。その出来事からの住民の方たちの気づき。これが飯田の地域で何年も何十年も受け継がれていること。この授業を通して、来年の地域人教育で地域に出て、地域の方と関わるのが楽しみになりました。



### ③ 地域に関わる 編

昨年まではこの学習テーマがメインで、今年私たちも地域の方と一緒にイベントを企画したり、スタッフとして運営したりするなどして、多くの人にイベントを楽しんでもらえることを楽しみにしていました。しかし、残念ながらそれは叶わなかったのですが、多くの方にご尽力いただき、なんとかインターンシップの機会を得ることができました。

商業科のインターンシップの流れは、以下のようになっています。

- その1 インターンシップ受け入れてくださる事業所さんの情報から体験したい企業を選ぶ
- その2 インターンシップ先の仮決定 & その事業所さんに関する情報や業界に関する学習（大事！）
- その3 電話にてご挨拶と打ち合わせの日時の決定（担当の方との電話にとっても緊張しました）
- その4 事業所さんに訪問し、打ち合わせ ⇒ インターンシップ先の本決定
- その5 当日（体験と報告）
- その6 まとめ 日誌の提出、発表用資料の作成など
- その7 報告会

期日は9月の10日から13日。新型コロナウイルス感染症の第2波が来る前に実施することができました。コロナ禍であったこともあり、1社あたり1人や2人といった少人数の受入れが多かったのですが、むしろこのことによって、私たち一人ひとりの意識の向上につながり、教えてくださる方のお客様に対する気配りや細やかな配慮のすばらしさを間近で感じることができました。また、商業科で学ぶ私たちですが、社会に必要なコミュニケーション能力が不足しているなどの課題も見つけることができました。

来年の地域人教育では、地域の方と関わる機会が増える場になります。インターンシップで学んだことをそのままにするのではなく、「小さなことや些細なことへの気配り」を大切に活動し、自分自身をより成長させることができる地域人教育にしていきたいです。

<h3>インターンシップの流れ</h3> <p>事前学習 事前打ち合わせ 当日 まとめ 報告会</p>	<h3>就業場所</h3> <p>医療関係 福祉関係 健和会病院 伊保園 下伊那 金谷 飯田信 みなみ など</p> <p>過去最大 47事業所</p>		
<h3>当日</h3>		<h3>報告会</h3>	

# 写真でふりかえる2年生地域人教育

## ① スキル向上 編 「SDGsアクションカードゲーム」



## ② 人を知る 編 「歴史を見つめる」発表会



## ③ 地域と関わる 「インターンシップ」当日のようす



飯田OIDE長姫高校商業科 地域人教育 3年生 年間計画

学年	3	学科	商業科		生徒数	80	
今年度テーマ	<p style="text-align: center;"><b>交流を重視した地域連携学習</b> ～社会(地域)に対して当事者意識を発揮する～</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="color: blue; font-weight: bold;">青字:学校側主催の講義および全体活動</p> </div>				<p>地域人教育で伸びる力</p> <p>① 学力                      教科力 : 地域の事象とこれまで学んだことを結びつけ、さらに発展させる                      社会探究力 : 調査や解決するための手法を身につけ、関心のある事象について探究する</p> <p>② 社会性・人間性                      課題発見力 : 地域の事象から魅力や課題を発見する                      発信力 : 自分の意見を口頭や文書でわかりやすく伝える</p> <p>③ 愛郷心・矜持                      自己探究力 : 地域の事象から自分の生き方や地域と社会のこれからを考察する                      自己表現力 : 他者の考えを受け入れながら、自分の考えや信念を表現し、互いを尊重する</p> <p>伸びるために欠かせない要素                      主体性 : 持続的で豊かな地域社会を創造するために自ら考え、自ら行動する                      協働性 : 持続的で豊かな地域社会を創造するために多様な人と協働する</p>		
学期	回	月	日	時限	学習項目	内 容	
1	4	17	4	4	レポート課題①	「天然痘の撲滅」加藤茂孝	
			5				
			6				
		24	4	4	レポート課題②	「りんご並木をめぐる「モノガタリ」の形成と教育的評価に関する研究」東京農工大学 能塚 康介	
			5				
			6				
	5	1	4	4	新型コロナウイルスに向き合う	情報収集	
			5				
		8	4	4	新型コロナウイルスに向き合う	まとめ	
			5				
			6				
		22	4	4	SDGsについて調べよう	情報収集	
			5				
		29	4	4	新型コロナウイルスに向き合う	危機状態における首長の発信力	
	5						
	6	①	5	4	4	ガイダンス①	学ぶ姿勢づくり(身だしなみ、ファイル、筆記用具持参、日誌の扱い、考査・レポート・評価など) 紹介(職員)、地域人教育・社会人基礎力の説明、調査 過去から学ぶ、市長講義事前学習、班編成
				5			
				6			
		②	12	4	4	ガイダンス②	紹介(市職員、松本大学) 講義「コロナ禍における地域人教育に期待すること」 講義「コロナ禍で多くの地域住民が困っている今、地域にどう向き合えばいいのか」
				5			
				6			
		③	19	4	4	地区や公民館を知る	公民館職員との顔合わせ、前週の講義のふりかえり 地区ガイダンス、公民館ガイダンス
				5			
		④	26	4	4	地域住民の課題とニーズを把握する①	班ごとの研究活動
5							
⑤		3	4	4	飯田市を理解する	「飯田市における社会関係資本という存在」～全国的に注目される住民自治活動～ (豪雨災害のため中止)	
			5				
⑥	7	10	4	4	地域住民の課題とニーズを把握する②	班ごとの研究活動	
			5				
			6				
⑦	17	4	4	地域住民の課題とニーズを把握する③	研究テーマの決定、研究計画の立案、仮説の設定、夏期休業中の課題の説明		
		5					
<b>夏季休業中の研究調査および実践活動</b>							
8	⑧	21	4	4	宿題チェック	夏期休業中の課題の確認、フォローアップ	
			5				
			6				
	⑨	28	4	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動	
			5				
			6				

2	⑩	4	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑪	11	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑫	18	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑬	25	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
<b>これまでの活動をまとめた中間レポート作成</b>							
2	⑭	9	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑮	16	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑯	23	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	⑰	30	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
⑱	11	6	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動			
		5					
		6					
⑲	13	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動			
		5					
		6					
⑳	20	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動			
		5					
		6					
3	㉑	4	4	(地域)課題の解決に向け行動する	テーマに沿った研究、実践活動		
			5				
			6				
	㉒	11	4	活動のふりかえり、検証をする	地域人教育成果発表会準備・報告書作成		
			5				
			6				
	㉓	18	4	活動のふりかえり、検証をする	地域人教育成果発表会準備・報告書作成		
			5				
			6				
	㉔	23 (火)	<b>(午後)リハーサル</b>				
			1	<b>地域人教育成果発表会(鼎文化センター)</b>			
			2				
3							
㉕	24 (木)	1	活動のふりかえり、検証をする	地域人教育成果発表会の振り返り、全校課題研究発表会準備・報告書作成			
		2					
		3					
3	㉖	8	4	活動のふりかえり、検証をする	全校課題研究発表会準備・報告書作成		
			5				
			6				
	㉗	15	4	活動のふりかえり、検証をする	全校課題研究発表会準備・報告書作成		
			5				
			6				
	㉘	22	<b>全校 課題研究発表会(コロナのため中止)</b>				
			4	<b>地域人教育活動報告集 完成</b>			
			5				
	6						
	㉙	29	まとめ		<b>地域人教育活動報告集 完成</b>		
			4				
5							
			6				

# こどもまつり（橋南地区） ～動物園から美博へ～



## 【研究メンバー】

唐澤 美亜 近藤 美羽 武松 梨里  
橋本 星 松下 琴実 山田 瑞稀  
横前 麗 吉川 莉央 計 8 名

吉岡 和久（指導教員）  
熊谷 祐希（橋南公民館主事）

## 【ご協力いただいた方々】

飯田動物園 様 飯田美術博物館 様 信南交通 様  
長姫製印紙 様 橋南まちづくり委員会 様  
将来構想メンバー 様 連合青壮年会 様  
飯田 OIDE 長姫高校コンピュータ制御部 様

## 1. はじめに

今年にはコロナウイルスの影響で2か月遅れてのスタートとなった。私たちは活動当初、橋南についてほとんど知らなかったため、まずは橋南地区を知ることから始めた。活動を進めていく中で、出会った地域の方々の声から課題を見つけ出し、橋南地区を回遊してもらえるように「動物園から美博へ」というテーマのもと活動を行った。

## 2. 研究課題

- ・橋南地区を回遊し、楽しみながら橋南について知ってもらい地域を活性化する。
- ・動物園、美術博物館の来客数を増やす。

## 3. 研究経過

- 6月 チーム結成
- 7月 フィールドワーク
- 8月 聞き取り調査①（橋南地区に住む地域の方々）
- 9月 聞き取り調査②（飯田動物園、飯田美術博物館、川本喜八郎記念館）  
聞き取り調査をもとに話し合い
- 10月 研究テーマ決定
- 11月 「こどもまつり」イベント準備
- 12月 12.13日「こどもまつり」イベント実施

## 4. 研究内容

### （1）橋南地区について知る

#### ①フィールドワーク

- ・グループに分かれて橋南地区を調査し、店舗や地域の方々にインタビューをした。  
街がきれいに整備されている、人が優しい、若者が少ない、空き家が多い、ラベンダーを活用してほしい、りんご並木が有名、ということが分かった。

#### ②地域の方々にお話を伺いに行く

- ・当初はりんご並木のりんごやラベンダー、空き家を使って、何か販売をすることができないかと考え、橋南地区で活動している鮎沢さん、辻村さん、古川さんにお話を伺いに行ったが、りんごをもらうことができない、使える空き家がないことを聞き断念した。
- ・来場客数に差がある施設をつなげてもっと橋南を知ってほしいという提案をいただき、動物園と美術博物館をつなぐイベントを実施することを計画した。

## (2) イベント

### ①企画の詳細決め

- ・様々な会議（橋南まちづくり委員会等）に参加し、地域の方と意見交換をした。
- ・プッチーバスを使うことと動物園にもクイズを設置することが新たに加わった。

### ②準備

- ・チラシ、ポスター作成
- ・景品準備（ガチャガチャの中に入れるキーホルダー、取扱説明書の作成）
- ・クイズ・はんこ作成

### ③実施

実施日 12/12(土).13(日)

- 内容
- ・動物園と美術博物館を両方楽しんでもらえるように3問ずつクイズを設置
  - ・プッチーのバスを利用してもらい移動する
  - ・クイズ参加者には景品をプレゼント（美術博物館にガチャガチャを設置）
  - ・12日はテックレンジャーショーの開催

## 5. 考察

私たちは橋南地区に住む地域の方々にお話を伺いに行った。その結果、飯田動物園の年間来客数は多いが、美術博物館の年間来客数は少なく寂しいという声を聞いた。そこで2か所を繋げたイベントを行うことにした。さらに、橋南地区を回遊し、飯田動物園と美術博物館を楽しみながら知ってもらい地域を活性化するという目標を立てた。イベント実施にあたり、会議への出席、景品の作成、チラシの作成などのグループに分かれて活動した。参加した会議では、私たちの準備不足で話が進まず戸惑ってしまうこともあったが、地域の方々が優しく対応してくれた。イベント当日は予想をはるかに上回る多くの方が参加してくださり、たくさんの子どもが喜ぶ姿を見ることができた。また、両日参加してくださった方も多くいて、「楽しかった」「またやってほしい」など嬉しい言葉をかけていただいた。このことから、飯田動物園と美術博物館を楽しみながら知ってもらい地域を活性化するという当初の目標は達成できた。

私たちの活動は8人のメンバーだけでなく、橋南地区の方々のおかげでここまで来ることができた。今後はこの経験を活かし、地域に寄り添って生活していきたい。

## 6. 今後の課題

- ・イベントに参加してくれた人へのアンケートを実施すればよかった。
- ・イベント後の来場客数の変化が見られなかったので、継続してきてもらえるような活動を考えればよかった。
- ・子どもまつりを一回だけで終わらせるのではなく、二回、三回と引き継いでくれたら嬉しい。

## 7. 終わりに

今年はコロナの影響で時間が少なく出来ることも限られていたので、みんなで考えたこともうまくいかず、何度も壁に直面した。しかし、活動を進めていく中で出会った地域の方々の声から課題を見つけ出し、無事イベントを成功させることができた。

1年間の活動で何も知らなかった橋南地区を知り、橋南の魅力や地域の方の温かさや優しさを感じる事ができた。



## 授業風景



## 聞き取り調査



## キーホルダー製作



## フックナー



# イベント当日の様子





スタンプカードの表紙



イベントを知らせるポスター

スライドの中で頑張ったところ

発表に合わせて文字が出るようにアニメーションをつけた

美博・動物園・川本喜八郎記念館へ

1日の来客数

美博	動物園	川本喜八郎記念館
平日 2桁	平日 200人弱	60人
休日 3桁	休日 600人	

⏪ ⏩ 🔍 🔄 🗑️

プッチーが動くようにスライドを作った

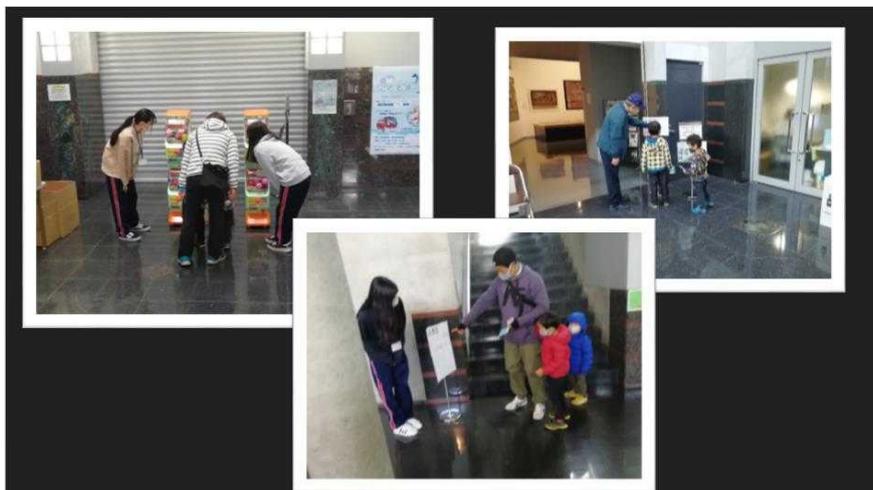
動物園



美博



3枚ずつ写真を貼ったスライドを作り、イベントの様子が分かるようにした



## 生徒感想

### 唐澤 美亜

コロナで例年より2か月も遅れて始まって、最初のうちは何をすればいいのか、意見もあまり出ず、何をするのかまとまらないまま時間だけが過ぎていき、不安でした。やっと案が出たけれど、果たしてそれは橋南に何か貢献することができるだろうか、と1から考え直したりして中々進まず、本当に課題研究発表会に間に合うのかもわかりませんでした。そんな中で、地域の方々から聞いた話を振り返ってみて、イベントを計画することに決まり、そこからは一気に話が進みました。イベント計画を始めたときは本当にイベントを開催することはできるのかわからなかったものの、何も土台がないイベントを計画し自分たちで内容を考え、地域の方にお手伝いをしてもらえることになり、思っていた以上に大規模なイベントになりました。イベントの景品を作りやイベントの内容など準備がたくさんあってとても大変でした。課題研究の授業以外でも時間を見つけて準備をして何とかイベント当日までに準備が整いました。2日間で約370人もの方がイベントに来てくれて、大成功に終わりました。大変だったけれど、頑張っってよかったなと思いました。

### 近藤 美羽

私たちはフィールドワークで地域の方から動物園と美博をつなげてほしいという課題を聞きイベントを開催することにしました。イベントをやることに対して地域の方が協力してくれるかどうかすごく不安でした。ですが、会議に参加して地域の方に話してみたところ快く引き受けて下さりとても安心しました。イベントを開催したことがなかったのでどのように準備を進めていけばいいのか全然わからなかったけど、動物園や美博の方が手伝ってくれたり、心配していた予算は橋南地区町づくり委員会を出してくれたりたくさん協力してもらいながら準備を進めていくことができました。自分たちでも、キーホルダーやポスターやスタンプなど多くのものを準備しなければならなかったので大変でした。そしてイベントの計画をしっかりと立てるためには地域の方との情報共有がすごく大切だなと感じました。当日は2日間で約374人もお客さんが来てくれて、またやってほしいなどうれしい言葉をたくさんもらいやってよかったなと改めて感じました。1からイベントを考えて開催するのはとても大変でしたが、この経験をこれからは生かしていきたいです。

### 武松 梨里

はじめ橋南地区でフィールドワークを行い、自分たちが気づいた点、地域の方から聞いたことなどをまとめ、班の中で話し合いをしたが、私は自分の意見が言えなくて、ほかの人の話を聞いたりするばかりだったけれど、話し合いを重ねていくうちに自分の意見を積極的に発表することが出来るようになった。コロナでイベントが実施できないだろうと思っていたけれど、感染予防の対策をしっかりと行い実施することができた。イベントは想像以上の参加者で、地域の方や参加してくれた方が声をかけてくれたり、感謝してくれたり、美術博物館と動物園を楽しみながら知ってもらおうという目的も達成できたので大成功だったと思う。引継ぎとして、イベントを考えると自分たちがやりたいことばかりに目を向けてしまい、「何のためにそれを行うのか」と言われ、話し合いが止まってしまったが、

もう一度フィールドワークを行い地域の方から課題点を聞き、活動の目的を考え直した。ということがあり、時間の無駄になってしまったので早い段階でたくさんの地域の方からお話を聞いたほうが良いと思う。3年間の地域人教育で学んだことを、これからの進路に生かしていきたい。

## 橋本 星

最初は橋南のことを何も知らなかった為、短くなってしまった活動時間はまず橋南を知ることから始まりました。地域の方から色々なお話をお聞きしたり訪問させていただいたりすることができ、こんな時代ですがたくさん方と交流ができてよかったです。イベントを一から考え実行することは初めての挑戦で、なかなか活動は進まず色々な困難に直面しました。大変なこともありましたが、メンバーそれぞれが得意分野を生かして頑張っているところを見て、とても感動しました。そのメンバーの姿のおかげで、私も自分ができることを頑張ろうと奮い立たせることが出来ました。イベント当日は、テックレンジャー中心でしたが、自分の出来ることを精一杯やる事が出来たと思います。イベントに来てくれた人をはじめ、地域の方々やメンバーにも喜んでもらえて、とても達成感を味わえました。地域の方のお話のおかげで課題を発見することができ、課題解決を目標にとっても達成感のある活動ができました。この活動を通じて、自分の成長を実感できました。短い期間でしたが、グループのリーダーを務めることが出来てよかったです。ありがとうございました。

## 松下 琴実

この地域人教育を通して、飯田という地域の橋南地区について今まで知らなかったことを知ることができたとし、初めて自分たちでイベントを1から企画して開催する事は難しく大変だったけど多くの地域の方や先生、主事さんの協力で最後までできたと思います。イベントを開催する事でこのコロナで多くのイベントが無くなっている中、橋南地区の子供から大人、多くの人に楽しんでもらうことができて、たくさんの嬉しい言葉をかけてもらいイベントを開催して良かったなと思うことが出来ました。このイベントを通して地域を少しでも盛り上げることが出来たと思います。私も地域人教育で多くのことを学ぶことが出来て今まで授業でやってきたことを生かしてポスターなどを作成して形にすることが出来て良かったと思います。最初は話がうまくまとまらず不安な時もあったけど無事にイベントも大成功で終わることが出来たので良かったと思います。班のみんなとも仲良くなり、協力して地域人教育を行うことが出来ました。この地域人で学んだ多くのことをこれからの自分の進路に生かしていきたいと思います。

## 山田 瑞稀

今年はコロナの影響で例年との違いが沢山あり不安が沢山ありました。ですが、班のメンバーといちから企画を考え、今までやったことない美博と動物園でのイベントを無事に成功させることができてよかったです。一番大変だった準備はテックレンジャーのキーホ

ルダー作りです。一個作るのに時間がとてもかかるため放課後も残って作りました。最初は機械の操作を覚えることができず、一度に作る量が少なかったりしましたが何とかイベントまでに210個のキーホルダーを作り終えたときはとてもうれしかったです。まちづくり会議では、最初はこの企画に賛成してくれるかととても不安でしたが、快く賛成してくれて、イベントを成功させるために色々な意見やアドバイスをしてくれてとても助かりました。当日は沢山の地域の方に協力して頂きイベントを無事に成功することができ、地域の方とも仲良くなれたのでやってよかったなって思いました。また、小さい子供たちが楽しそうに参加してくれたり、景品をみて喜んでくれたので私も嬉しかったです。

この経験を大切に、働くときに活かしていきたいです。

### 横前 麗

1年間橋南地区で活動をしてきて、最初はほとんど知らなかったものの、たくさんの地域の方々に関わり、話をする中で今まで知らなかった橋南の魅力を知ることができました。橋南地区の方々にはたくさんアドバイスを下さり、優しい方ばかりでした。

私は人前で意見を言うことが苦手で、最初はみんなの意見を聞くことばかりでした。しかし、この活動を通して、自分の意見を考え言えるようになってよかったです。

私たちのグループは、なかなか話し合いが進まずテーマが決まりませんでした。テーマが決まるとグループで協力して分担しながら効率よく活動ができたのでよかったです。今までイベントに参加したりお手伝いしたりすることはありましたが、イベントの主催者側になってみて、難しさや大変さを学ぶことができました。今年はコロナで思うように活動ができないと思っていましたが、イベントを実施することができました。地域の方々の協力や支えがあったからこそイベントは成功できたと思います。多くの方に支えていただいた感謝を忘れず、今後この経験がどこかで活かしていけたらいいなと思います。

### 吉川 莉央

橋南地区で活動をして、橋南の地域の皆さんはとても優しく温かいこと、橋南地区には魅力のある場所がたくさんあることを知りました。初めは地域のためにどんな活動をすれば良いのか全く分からず困りました。しかし橋南地区を知り、橋南の良いところ、もっと良くしたいところを聞いたり自分たちで探してみたりしたことで、話し合いで“こんなことをしてみたい！”という意見がたくさん出るようになりました。課題研究という授業は1・2年次で行う地域人教育とは違い自分たちで意見を出し合い、自分たちで行動に移していかなければいけませんでした。企画を1から考えるのはとても難しく、班の中でぎくしゃくしてしまったり、地域の方とうまく話が進められなかったりしたこともありましたが最後まで全員で協力しイベントを成功させ、たくさんの地域の方に喜んでもらうことができ良かったです。課題研究を通して自分の意見を持ちみんなに共有したり、仕事をみつけ積極的に行動したりする力が以前より身についたと感じます。この経験を今後活かしていきたいです。1年間ありがとうございました。

## お世話になった方々からの言葉

最初はどことなくぎこちなかった皆さん、打ち合わせを重ねる毎に目が輝き、自信が付いていく姿を感じていました。イベント当日は、それぞれのポジションの仕事を全うし、反省会の時はやり切った満足感が漂っていました。そんな皆さんが大きく成長した姿を見て感動しました。

これから社会に出ると常に新しい課題への挑戦が始まります。今回の貴重な経験を活かして、失敗を恐れず常に前を向いて、新しい課題に挑戦して行ってください。

橋南まちづくり委員会副会長 古川光亮 様

2日間の子ども祭り、お疲れさまでした。

最初に話をいただいた時には、実施時期や規模など決まっていなかったことが多く、実施まで辿り着けるのか心配なところもありましたが、具体的なイメージが固まった後の取り組みは目覚ましいものがあったと思います。

皆さんのイベントで、多くの方が美博に来ていただいたことも嬉しかったです。それ以上に、参加していただいた子どもたちが心から楽しんでくれて笑顔がたくさん見られたことが良かったと思います。

イベントを企画運営する中では、目的とゴールをイメージしてそこから逆算しながら準備を進めていくことが求められるため、慣れないと戸惑うことも多かったと思いますが、この経験を今後に生かして行ってください。

本当にありがとうございました。

飯田市美術博物館 尾関 様

こども祭りに関わった高校生の皆さま、企画・運営とお疲れ様でした。

とても寒い日でしたが、両日で約300人も参加者がありました。高校生の皆さまの優しい対応もあり、楽しそうな参加者が印象に残っています。

イベントを行ない想定外だったこと、それを現場で柔軟に対応したことはこれからの財産になると思います。

2日間本当にお疲れ様でした。

高校生の皆さまの、今後の大いなるご活躍をお祈りしております。

飯田市立動物園 伊藤 崇 様

橋南班の皆さん、1年間本当にお疲れさまでした。活動をしてみてどうでしたか？

悩みながらも仲間と協力して、自分たちで決めたことをやりきるという経験は、皆さんのこれからの人生にとってきっと役に立つ時がくると思います。それぞれ進む道は違うと思いますが、自分で考える事の大切さ、仲間となにか行う楽しさを感じながら、一生懸命歩いて行ってください。

みなさんと関わったことに感謝をし、私からの一言にさせていただきます。1年間ありがとうございました。

橋南公民館主事 熊谷祐希 様

この課題研究の成果は、きっと皆さんが社会に出て10年後くらいに出ると思います。その時に皆さんがどのように成長し社会とかかわっているのか楽しみにしています。

橋南地区担当職員 吉岡 和久

# さあ飛び込もう地下道へ！！（東野地区）



## 【研究メンバー】

村澤 和真 原 小桃 熊谷 優月  
久保田 渚生 清水 優月  
元島 晴菜 野々村 こより  
山田 将晶 (指導教員) 棚田 美咲 (東野公民館主事)

## 【ご協力いただいた方々】

(株) セイコーアドバンス様 信田塗装店様  
日本ペイント (株) 様 公民館の方々  
東野大獅子保存会 平沢忠雄様  
まちづくり会議 東野地区生活安全委員会の皆様  
飯田駅の皆様 東野地区の皆様  
飯田 OIDE 長姫高校 建築科 3年 杉山拓様

## 1. はじめに

当初東野地区について何も知らなかった私たちは、フィールドワークを行い、課題の発見を目指した。実際に地域を歩き、課題として「町が暗い」ということがあげられた。その中で、飯田駅の横にある地下道において犯罪が起きていることを聞き、通行人にとって通りにくい道になっているのではないかと考えた。そこで、地下道を明るくすることにフォーカスを当て、活動を行うことにした。

## 2. 研究課題

私たちは、「きれいで明るく、安心して通れるような道にする」、「地下道を明るいイメージにする」、「思い出に残るような形に残るものにする」、「犯罪が起きにくい場所にする」ということを実現するために何をすべきかと考えた。その中で、地下道壁面に絵を描くのが良いという意見が出た。絵を描くことにより、「地下道の暗い雰囲気が明るくなり、犯罪が減るのではないか」、「絵を描く時に子供たちも一緒に活動を行うことによって、将来地下道を利用するときに悪いイメージがなくなるのではないか」という仮説を設定し、地下道壁面に絵を描くことを決めた。

## 3. 研究経過

6月 チーム結成	10月20日 セイコーアドバンスさんへ協力依頼
7月 フィールドワーク	31日～11月1,3,6日 壁面下書き
8月7～9日 寺子屋イベント参加	11月7,8日 壁面色塗り
9月 壁面デザインの内容・方法の策定	AM:小学生参加イベント PM:高校生と地域の方々
21日 東野会議にて壁面デザイン案を提案	20日 壁面色塗り&完成
10月 杉山君に地下道デザインを依頼	22日 地下道お披露目会
17日 子供たちと一緒に地下道の清掃	

## 4. 研究内容

(1) 地下道デザインをするにあたって・・・

地下道をデザインする方法ややり方などを話し合い考えた案を東野の会議にて提案をすると、地域の方々は協力的で、地下道補修工事を早く行うようにしにお願いしてくれた。アドバイスや意見もいただき、その意見をもとに片面を東野の大獅子や風景のデザインにし、もう片面を桜並木の春夏秋冬を描くことにした。デザインの構成は、建築科3年の杉山くんをお願いをした。

## (2) イベント準備！

丸山・浜井場・追手町小学校・東中学校にイベント参加のチラシを配布し、地域の子供たちと地下道を清掃、さらには、地下道片側通行の許可やイベントで子供たちが簡単に楽しくできるようなアイデアを考えた。アイデアとしては、段ボールや軍手を使った桜の花びらや葉っぱなどのスタンプ作り、地下道の壁面に鉛筆でデザインの下書きなどを行った。ペンキや道具はセイコーアドバンス様、日本ペイント様に提供していただいた。その他にも東野大獅子保存会平沢様に獅子を生で見せていただいた。

## (3) 地下道色塗りイベント

2日間イベントを行い、午前中は子供たちと色塗りをし、午後は高校生と地域の方々と色塗りをを行った。子供たちは桜の幹などの塗りやすいところを分担してもらい、細かいところを私たちが行った。色の調合は信田様をお願いをし、地域の方々にも多く手伝っていただいた。子供たちからは「楽しかった」という感想を多くいってもらえた一方、ハプニングがあったり、苦情を頂いたりということもあり、多くを学ぶきっかけとなった。

## (4) 地下道お披露目会

感謝の気持ちを伝えるためにイベントに参加してくれた子供たちや協力していただいた方々、地域の方々に来ていただき、完成した地下道を見てもらい、その感想をいただいた。子供たちと協力者の方々に感謝の気持ちを込め感謝状を作成し、表彰を行った。

## 5. 考察

私たちはこれまで地下道を明るくすることで犯罪が減るのではないかとという仮説をもとに活動をしてきました。検証の結果、犯罪率の変化はいまだ確認できていないものの、お披露目会の意見交換で、「明るい地下道になり通りたい」と思ってもらえる道にできたことがわかりました。地下道を利用する人がこの道は「明るい道」とポジティブな印象を持つ、あるいは「暗い道」とネガティブな印象を持つことで心理的にどのような影響を与えるかという、小野寺・桐生2003年「空間情報が犯罪不安に及ぼす影響」によると、明るい道という印象を与えると、犯罪被害予測、つまり「この道を通ると犯罪に巻き込まれるのではないかと」という不安が小さくなると思います。つまり、私たちが描いた絵を見て、通った人の心理に「明るい地下道」という印象を与えることができれば、その人の「地下道を通ることに対する不安」や「犯罪に巻き込まれるのではないかと」という予測を低くすることができるのではないかと考えます。

## 6. 終わりに

活動を始めるまでは、東野地区について全く知りませんでしたが、活動を進めていく中で地区の魅力や人の温かさを知ることができました。製作中に声掛けをしていただいたこと、長時間の製作をずっと見守っていただいたことが私たちの励みになりました。地区の子供たちともイベントを通して関わることができてよかったと思っています。この活動は、私たちだけでは進めていくことができませんでしたが、多くの地域の方々のご協力のおかげでここまでやり遂げることができたと思います。私たちの描いた絵が犯罪を減らすことにつながればいいと思います。



活動の様子



フィールドワーク



寺子屋



地下道デザイン



地区の子供たちと地下道掃除



セイコーアドバンス & 日本ペイントへ依頼



下書き



本物を見て…

色塗りイベント



お披露目会



# 南信州新聞

月刊飯田 1 2021 P49

昭和20年12月21日第3種郵便物認可 第22613号

## 東野 地下道 皆で明るく 高校生呼び掛け色塗り

JR飯田駅北側の地下道の壁に絵を描くイベントが7、8の2日間開かれた。



東野地区の小学生やまちづくりに携わる人たちなど延べ60人が参加し、東野大獅子やリンゴ、桜並木などを描いた。地域に入って活動する飯田OIDEの「地域人教育」で東野地区を担当する生徒ら7人が、地下道の暗い雰囲気を課題に挙げ企画した。地下道約25分の両側にデザインしたのは、桜並木の四季、リンゴ、リニア新幹線、飯田駅、東野大獅子、大宮神社。

葉っぱを押しつけた木の幹や大獅子などに、子どもたちが段ボールで作ったスタンプを使って、完成した。22日には関係者のほろの模様の押しつけをする予定だといっ

迫力の東野大獅子を手掛ける参加者ら

ひらけ開運!

## あやがりクイズ

クイズを解いて開運ゲット!しちやいましょう♪  
※昨年=2020年

2 昨年、飯田駅横の地下道に地元の高校生や子どもたちによって壁画が描かれました。東野大獅子とセットで描かれた有名な舞手の名前は何でしょう?

# 南信州ナビ

南信州ナビ

【ナビ記者通信】地下道に壁画!

2020年11月27日

長野県南部の観光ガイド

## 南信州ナビ

飯田駅よこに、線路をくぐる歩行者用の地下道があります。壁は汚れたり落書きが多かったり、痴漢も出たとかで雰囲気が悪い。



この地下道の壁に絵を描いて、良い雰囲気にしたい。こう申し出たのは、OIDE長姫高校の生徒たち。これを受けて、東野まちづくり協議会、生活安全委員会なども協力。市へも申し出て、実現の運びに。作業は11/1から始まりました。下絵が出来て、11/7・8には地元の小学生らも参加。色付け作業が始まりました。地元CATVも取材です。

# ケーブルテレビ



地域を明るく安全に  
飯田駅地下道ペイント

多くのメディアに取り上げてもらいました!

## <先行研究（先行研究から考えた仮説）>

①山本・荒木・田中・鍋島（2007）「学校区における子どもの犯罪」によると・・・

1997年 神戸市 少年による子どもたちの殺傷事件

2001年 大阪教育大学附属池田小学校での児童、教職員殺傷事件

2005年 広島小1 女児殺害事件

子どもが被害者となった凶悪な事件の発生場所は学校や通学路であり、子どもたちにとって住居と並んで最も身近な生活空間で犯罪が起こっている。

山口県山口市での防犯まちづくりのモデル的な活動を行っているO地区

【小学生とその保護者によるアンケート調査（2006年10月～11月）】

「安全に通学するためにしてほしいこと」を記述回答で求めたところ、地下道に関して「明るくしてほしい」、「落書きを消してほしい」などの意見が多くあった。



東野地区ではアンケート調査ができなかったが、O地区のアンケートから分かるように、地下道を明るくしてほしいという要望は東野地区にも潜在的にあることが考えられる。そのため、地下道を研究対象にする点に関して妥当性が担保される。

②小野寺・桐生（2003）「空間情報が犯罪不安に及ぼす影響」によると・・・

地下道の印象を「ポジティブに伝える」か「ネガティブに伝える」かで、犯罪不安（この道を通ると犯罪に巻き込まれるのではという不安）がどのように変化するかという犯罪心理学の研究。

- ◆ ネガティブな情報（ex.この地下道はかなり暗い通路です）によって不安が上昇した。
- ◆ ポジティブな情報（ex.この地下道は明るい通路です）によって犯罪被害予測が低下した。



飯田駅横の地下道を通る人にポジティブな印象を持ってもらうことで、「地下道を通ることに対する不安」や「犯罪に巻き込まれるのではないかと予測」を解消させられるのではないかと！

## ■ 参考文献

小野寺理江・桐生正幸（2003）「空間情報が犯罪不安に及ぼす影響」犯罪心理学研究，第41巻，第2号。

山本善積・荒木江梨子・田中愛子・鍋島詩織（2007）「学校区における子どもの犯罪」研究論叢第3部，芸術・体育・教育・心理，第57巻，pp.225-235.

## <仮説検証>

地下道での犯罪件数や通行人は地下道をデザインした後と前ではどのように違ってくるのかということ进行调查するため飯田警察署に犯罪の話聞きに行き、生活安全委員会の方々が管理している防犯カメラを見ることにしました。犯罪件数を聞くにあたってどうやって犯罪率を出しているのかを調べたところ、犯罪数÷人口で出すことができることがわかりました。警察署にて話を聞くと地下道に絞ったものではなくいい情報はありませんでした。相談などはいくつかあったようでしたが詳しいことはわかりませんでした。

次に地下道入口にある防犯カメラを見ました。過去のデータとの比較をしたかったのですが、防犯カメラのデータが1週間で上書きされてしまいますということがわかり、過去のデータを見ることはできませんでした。とりあえず現状の通行人数を見ると朝は学生が多いこともあり、午後よりも通行者数が多いことがわかりました。映像を見て一人ずつ数えるのは大変でしたがどのくらいの人か知ることができました。

## 1年間を振り返って 生徒の振り返り

今年は新型コロナウイルスの影響により、例年よりも遅くスタートしたため、最初から最後までとても忙しかったと感じた。私の班では、地下道にペイントをするというイベントを計画し、活動してきた。活動していくにあたって必要な資材が多くコスト的に不可能なのではないかと思っていたけど東野地区の方々の協力のもと無事イベントを行うことができた。イベント当日も多くの子供達が参加してくれたおかげで多くの地域の方々と交流しながら色塗りをすることができ、とても充実した2日間になった。地域人教育を通じて多くのことを学び、多くの能力を身につけることができ、自分自身が成長できた授業だったと思う。 (久保田渚生)

今年1年間、東野地区で課題研究をして私が感じたのは、地域の方がとてもあたたかいということです。私たちが東野地区でどんな活動をしようか迷っていた時、「自分たち自身のやりたいことに熱意をもって伝えれば地域の人たちはついてきてくれる」と背中を押してくださりました。その言葉通り、イベントの準備や運営、片付けなど全ての活動に地域の方々が関わってくれ、あたたかい言葉もたくさんかけていただきました。私たちの活動が最後まで成し遂げられたのは、地域の方の協力があったからこそだと思います。このような地域の方のあたたかさを感じながら活動ができ、とてもありがたい充実した時間を過ごせてよかったです。 (清水優月)

今年は新型コロナウイルスの影響で例年よりも活動できる期間が短く、無事活動を終わられるか不安でしたが、最後までやり遂げることができてよかったです。最初は壁画ペイントをするにあたって様々な問題が出てきてしまい迷うこともたくさんありましたが、活動の最初に地域の方が熱心になれば支えてくれる人はいるといていたことを思い出し、私たちも一生懸命取り組むことができました。地域の方々にも協力していただいたおかげで素敵な絵が完成し、地域に残るもののできたので良かったです。たくさんの方と関わってとてもいい活動になったと思います。 (元島晴菜)

活動をやってきてすごく大変だと感じることもあったけど最高の思い出に残るような活動をやることができ本当に良かったです。最初は「地下道をデザインすることは本当にできるのだろうか」という不安がありました。ですが地域の方々の勢いに乗ってやっているうちにすごくいいと思えるようなものにすることができました。まさかこんないいものを描くことができるなんて思ってもいなかったのが本当に協力していただいた方々には感謝しかありません。すごくいい経験ができたなと改めて思いました。副リーダーという役割をやらせもらったのですがあまり副らしいことができず申し訳なかったです。でも楽しく活動することができてよかったです。 (原小桃)

今年度は新型コロナウイルスの影響で活動期間が約半年と短かったけど、やり遂げることができてよかったです。私は活動を始めた時に館長さんが言ってくれた「完全燃焼する気持ちで頑張れ」という言葉を大切にして活動してきました。この言葉があったから寒い地下道の作業も諦めることなく進めることができました。そして、地域の方が作業を行う日に必ず来てくれて一緒に手伝ってくれたのでスムーズに終わることができました。今回の活動では多くの地域の人に人に支えられて達成できたと思っているので感謝の気持ちでいっぱいです。グループでも何度も話し合いをして良い活動を作り上げることができたので良かったと思います。 (野々村こより)

今年度の地域人教育はコロナウイルスの影響で6月からのスタートになりました。活動期間は短かったですが、最後までやりきることができてよかったです。私たちの活動は、時間も費用もかかる大変なものなので「本当に最後までやりきることができるのか」と何度も考えました。作業の時に毎回来てくれる地域の方々や、作業中に「頑張っってね」と声をかけてくれる方がいることがとてもうれしかったです。地域の皆さんのおかげでいい絵を完成させることができました。約半年の短い時間でしたが、東野地区で活動して地域の皆さんのやさしさを知ることができて本当に良かったです。

(熊谷優月)

今年の地域人教育は、新型コロナウイルスの影響をあり、いろいろと制限がかかり不安なスタートになりました。最初の授業では、どのような形で課題研究発表会まで進めていくのかイメージもなく、主事さんや山田先生からのアドバイスをもらわなければ、私たちだけでは上手く進めることができませんでした。地域の方々に相談する際は、自分なりの言葉で伝えることができ地域の方も協力してもらうことができました。そのことから、すぐに行動に移せることや最後までやり遂げる大切さ、地域の温かさ、信頼関係の重要性についてこの1年かで考え学ぶことができ、とても充実した地域人教育でした。

(村澤和真)

## 東野公民館長 松沢卓治さんより

例年より活動時間が短い今年はどうな取り組みをするのか、結果が出せるのか不安を持って同席しました。何も恐れずに「こんな結果になったらいいな」と目標にまっすぐに向かう純粋な姿勢を感じました。

「地下道を明るくする」取組なので誰の所有で実施の許認可をとるには？荒れた壁面の処理や図案は？かかる費用は？だれが払うの？時間が制限される中で対応案件が山積。どうするの！ 思いついたのはまちづくり会議への協力依頼。幹事会で上手くは無かったけれど真剣に話す姿勢に協力者が手を挙げてくれた。協力者が協力者を呼び込み「地下道チーム」が出来上がった。子供の参加とそれを見た通りがかりの人が応援メッセージ。この人たちもチームの一員。世間知らずの生徒7人の発想は、明るい地下道と大きな人の輪を作った。人の輪の大切さと明るさをみんなの心の中に作ってくれた。「ありがとう」生徒は町の人に！ 町の人は生徒に！

## 生活安全委員長 伊東義美さんより

私は今年度初めて地域人教育に携わりました。東野地区外の高校生が来ると聞いて、何をやるのだろうか、本当に熱心にやるのか、半信半疑でした。いざ一緒に活動してみると、みなさんが一生懸命説明したり、何度も地区に足を運んだりする熱心さと頑張りを感じました。1人の仲間として、いつの間にかわたしも活動に引き込まれ、のめりこんでいました。青春時代に戻ったようで大変楽しかったです。今時の高校生はもっとチャラチャラしているものとばかり思っていました。みなさんと関わって、なんて真面目で素直な子ども達かと印象ががらりと変わりました。一緒に地区に残るものが作れて、本当によかったです。一緒に関わった生活安全委員のメンバーも、普段のやらざるを得ない活動の時とは違う雰囲気、楽しく、積極的に、仲間として関わってくれたことを嬉しく思います。一緒に活動し、高校生が地域人教育にこんなにも一生懸命取り組んでいることを知ることが

出来ました。来年度以降も、東野に来る高校生に注目し、何かできることがあれば協力したいと思います。

## 東野まちづくり会議会長 大場孝さんより

飯田 OIDE 長姫高校の君たちへ

君たちは「頑張った」最初話を聞いたときはいささかおどろいた。「地下道」を明るくしたいという思いは正直あった。どうすればいいのか方法がわからない中で君たちが「ヒント」を与えてくれた。心配していた費用の面も会計の篠田さん、生活安全の伊藤委員長、セイコーアドバンスの田中さん等大勢の皆様を協力をいただいで用意することができた。いろいろと心配はあったが、思っていた以上に「うまく」「美しく」完成したと思う。この活動を通して君たちは何を勉強できただろうか。「どんなことをするにも一人ではできないという事」「協力を頼めば協力してくれる大人の人たちが大勢いるという事」「そして完成した時の充実感」そんなことを勉強できたと思う。「大学生」になろうと「就職」して社会人になろうと「苦しい事」「つらい事」「悲しい事」いろいろあるだろう。その時は「地下道」を思い出してほしい。君たちがお父さんお母さんになった時子供たちに地下道を必ず見せてほしい。和真・渚生・小桃・晴菜・こより。二人の優月これからも頑張れよ 杉山君によろしく

## 東野公民館主事 棚田美咲さんより

やりたいことを決めてから、ノンストップで走り続けてきましたね。

みんなで知恵を絞っている姿、地区の人に一生懸命説明する姿、やってみようと前向きに取り組む姿…みなさんの頑張りを一番近くで見させてもらったこと、そして一緒に活動できたことを誇りに思います。作業の合間に公園で輪になって食べたドーナツや作業後にみんなで食べに行ったラーメン。頑張った後にみんなで一緒に食べる味は格別でした。土日もありふり構わず活動するみなさんに、なんでこんなに頑張れるのか問いかけた際、「応援してくれる地区の人の期待に応えたい。」「いいものを地区に残したい。」と答えが返ってきて、鳥肌が立ちました。そういう気持ちになれたこと、地域の方とそこまでの関係性を作れたこと、仲間になれたこと。何がそうさせたのか。それこそが、今回の活動の中で一番大きな収穫だったのではないのでしょうか。地区のために、みんな楽しんでながらひとつのことをやり遂げられたことに自信をもって、この先もそれぞれに活躍してくれると期待しています。ありがとうございました。

## 山田将晶先生より

東野地区の課題として「地下道が暗い」ことに気づき、活動をスタート。何から手を付けたら良いか皆も私も困っている中、棚田主事に多くの地域の方と結びつけてもらいました。まちづくり委員会への出席、(株)セイコーアドバンス様への資材提供依頼、小学生へのイベント協力依頼...「多くの方の協力無しにはこの活動は成功しなかった」ことは皆感じたはずです。

活動当初は消極的で、話し合いが上手くいかないことがほとんどでしたが、多くの経験を積んでいく中で、一人ひとりが自らの役割を果たすことのできるチームになったと感じます。皆の一生懸命な姿が大人を動かし、地域を巻き込むことができました。この活動を誇りに思ってください。

さて、高校を卒業すると「勉強」は終わりますが、「学び」は続きます。私たちは、表向きには「地下道の壁画ペイント」、背後では「犯罪率の変化」を追いました。「なぜ？」という疑問を持つことは人生を豊かにします。もし人生に行き詰まったら、地下道へ行き「あのときは頑張ったなあ～」と一息ついてみてはどうでしょうか。



# あつまれシードルの森（座光寺地区）



## 【研究メンバー】

今村 美月    木下 汐乃    小原 秀友  
塩澤 桃香    田間 美羽    二村 萌香  
松澤 幸作    丸山 梨紗  
河野 繁（指導教員）    永田 麻美子（座光寺公民館主事）

## 【ご協力いただいた方々】

長沼 豊 様    福田 博之 様    篠田 耕一 様  
座・女子力 様    座光寺公民館文化部 様

## 1. はじめに

私たちは座光寺地区について調べるなかで、りんごを使ったお酒「シードル」に目を付けた。そこで私たちは地域の方にシードルにまず興味を持ってもらい、シードルを飲む文化を定着させるための活動を行うことにした。

## 2. 研究課題

- (1) ターゲットを若者とし、シードルに対する若者の知名度の向上
- (2) シードルを飲む文化の定着
- (3) 座光寺の魅力として地元の方がシードルを勧めるようになる

## 3. 研究経過

- 6月 座光寺地区公民館塩澤館長との対談
- 7月 りんご農家（長沼さん、篠田さん）への聞き取り
- 8月 座・女子力との対談
- 9月 りんご農家（長沼さん、篠田さん、福田さん）への聞き取り
- 10月 スポーツ体験会でのアンケート実施 新成人実行委員会の方への企画提案
- 11月 親子会での聞き取り調査 りんごの収穫体験・農家さんへの聞き取り調査
- 12月 成人式に向けての準備
- 1月 成人式（※8月への延期が決定）

## 4. 研究内容

### (1) シードルについて知る

まず私たち自身がシードルを知るために、農家の方や地元の方への聞き取り・アンケートの実施、調べ学習などを行った。調べていく中でノンアルコールのシードルがあることもわかり試飲も行った。

### (2) 成人式でのシードルプレゼント・会場での展示

農家の方から聞いたターゲットが若者であったことから成人式でシードルを知ってもらえる活動を行うことにした。実際に飲んでもらうことがいいと考え、新成人の方にシードルを贈答品としてプレゼントすることにした。また、ここまでの活動で知った農家の方の想いを模造紙にまとめ、会場に飾ることにした。

### (3) シードルのポスター作成

新成人の方だけでなく座光寺地区の多くの方にシードルに興味を持ってもらうためポスターを作成した。成人式で展示を行うなど、今後も継続して使用することで文化の定着を目指すことができると予想される。

## 5. 考察

私たちは、座光寺地区のりんご農家さん達からお話を聞き、シードルに対する想いや課題、展望を教えてくださいました。そこでシードルの知名度を向上させ、飲む文化を定着させるための活動をしてきた。まず地元でどれくらいの人にシードルが知られているのかを知るために、地域の方に2回のアンケートを実施した。その結果からシードルをほとんどの方が知っている一方で、飲んだことがない人が多いことが分かった。このことから活動の目標を知ってもらうことから飲んでもらうことへ変更し、メインの活動を20歳となりお酒が飲めるようになった新成人の方へ成人式の場をお借りしてシードルを



PRすることに決めた。内容を検討していく中で、直接私たちが成人式に行ってPRをするのは厳しいことがわかった。そこで、シードルとパンフレットを贈答品でプレゼント、これまでの活動で知った農家さんの想いやシードルについてまとめた模造紙・この先もシードルを知ってもらうため作成したポスターの展示をすることでPRすることに決めた。しかし、1月に予定されていた成人式は新型コロナウイルス感染拡大により延期されることが決定してしまった。成人式が延期になったことで今回の活動で新成人の方にシードルをPRはすることはできなかったが、12月の課題研究発表会での感想に「初めてシードルを知った」「さらに知るきっかけになった」などの声があったことから、シードルに対する若者の知名度向上という目標については、地域外の若者ではあるが達成できたといえる。また、成人式での展示を予定していたものについては2月に行われる地区の行事時に展示してもらえることになった。ここから展示を見た人が以前よりもシードルに対して興味関心を持つことが期待できる。

## 6. 今後の課題

私たちの行ってきた活動により前よりも多くの人に座光寺のシードルを知ってもらうことができたと思う。しかし、最終的な目標であるシードルを飲む文化が定着し、地元の人が魅力として勧めるものになったとはまだ言えない。これらを実現するためにも、今回作成したポスターを作っただけで終わらず、これから継続して使用することでさらに多くの人にシードルの興味を持ってもらうきっかけになってほしい。また、次年度も継続してシードルの活動を行ってもらうことで、飯田市乾杯条例にもあるように地酒で乾杯する文化の定着を目指してほしい。特に成人式でシードルについて学び触れる機会を継続し、地域の伝統となるように公民館を中心に引き継いでほしい。

## 7. まとめ

今年度の課題研究は新型コロナウイルス感染症の影響により例年に比べ活動の開始が遅れ、活動ができる範囲も狭い状況で行われた。地域の方との交流も限られてしまったが、その中でアンケート調査や農家さんへの聞き取りをし、地域の方の声を多く取り入れながら活動することができたと思う。また、座光寺地区をフィールドとしながら、自分の出身地域に対しても深く考えることができた。私たち座光寺地区は、活動内容がなかなか決まらず話し合いの時間を多くとってきたが、その中でグループの人たちと協力して活動を行うことができた。この課題研究はもちろん私たちだけの力だけでできたものではなく、りんご農家をはじめとしたたくさんの座光寺地区の方の協力で成り立った。この感謝を忘れず、これから社会に出ても地域に貢献できるような人に成長していきたい。

# 🍏活動の様子🍏



インタビューの様子



アンケート調査





収穫体験



お・ま・け



# あつまれ シードルの森



メンバー  
今村 木下 小原 塩澤  
田間 二村 松澤 丸山

1



果物



自然



元善光寺



リニア新幹線

3



シードルのPRをしよう!!

5

## ターゲットは若者

- ♡ 魅力や特色を引き継いでほしい
- ♡ SNSによる知名度の向上
- ♡ 文化の定着には若者からが良い
- ♡ 農家さんも若者を想定

7



1月10日 成人式



※作成中

9

## 研究を行って

- ♡ 特産品、自然などの魅力を知った
- ♡ 座光寺地区の方の想いを伝えたい
- ♡ 地元の地域資源や魅力に気付いた
- ♡ 自分と地元の将来を考えた

11

座光寺には何があるんだろう？  
どんなところなんだろう？



2

- ♡ アピールできる特産品が多い
- ♡ 魅力を伝えてほしい



シードル



4

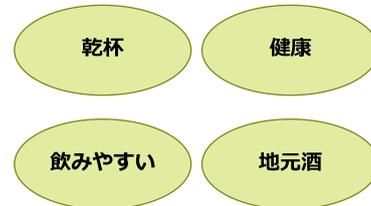
## シードルPRのねらい

- ♡ 知名度の向上
- ♡ 飲む文化の定着
- ♡ 地元民として勧める

そのためには…

6

## アピールポイント



8

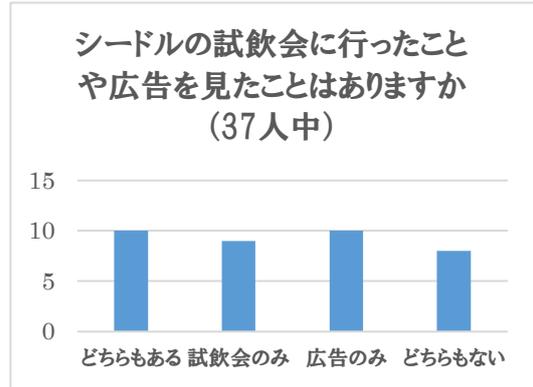
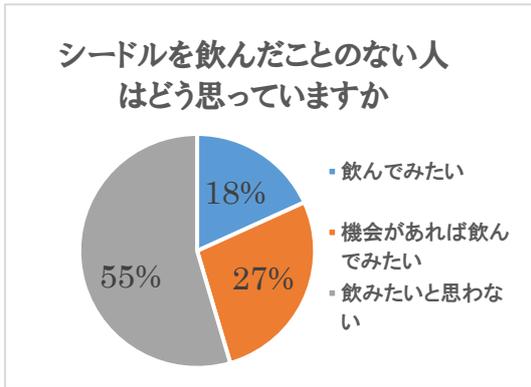
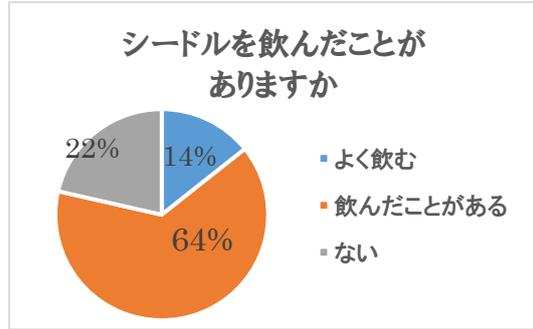
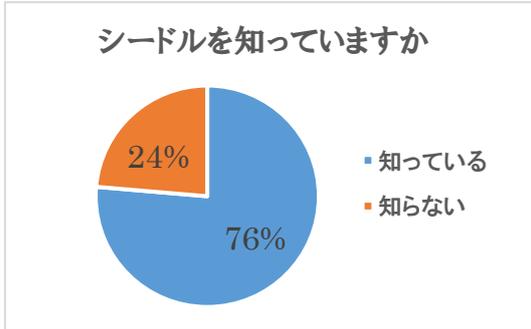
- ♡ 知名度の向上  
→ 知る機会、飲む機会◎
- ♡ 飲む文化の定着  
→ 成人式での継続を願う
- ♡ 地域の方が勧める  
→ SNSでの拡散

10

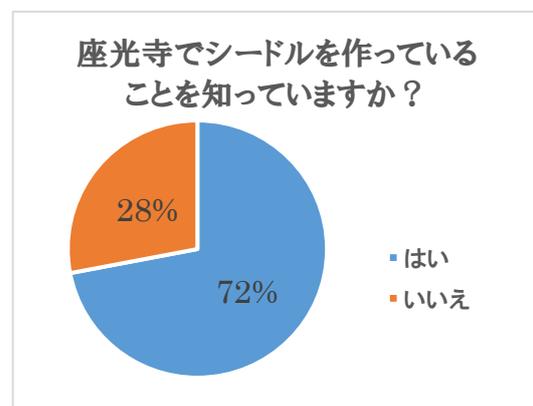
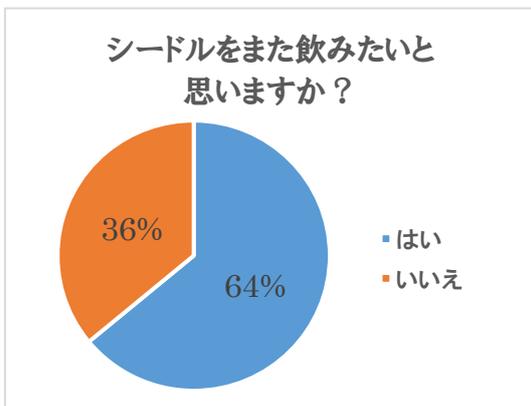
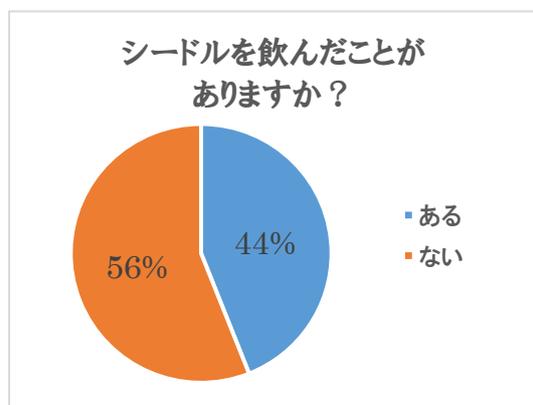
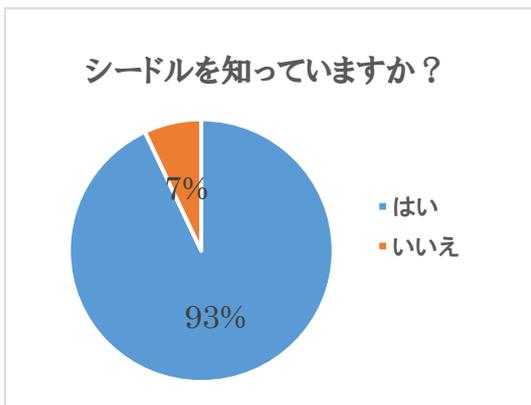
座光寺地区の皆さんお世話になりました。



●10月11日（1回目）アンケート結果



●11月1日（2回目）アンケート結果



**今年も座光寺で活動しています 飯田 OIDE 長姫高校 地域人教育**

コロナ禍の影響で例年より2ヶ月遅れで始まった今年の地域人教育。座光寺地域の課題や魅力について、地域の方に聞き取りアンケートをしたところ、座光寺地域は農園が多く、様々な果樹を育て、シードル作りもされているが、まだシードルを飲んだことがない人が多いことがわかりました。そこで高校生に近い大人として成人を迎える皆さんにシードルの魅力を紹介しようと取り組んでいます。新成人実行委員会にも聞き取りをしたり、生産者の方に協力いただきアドバイスをいただいたりして活動しています。



成人式当日には、シードル紹介ブースを会場外に設け、皆様にも見ていただけるように展示する予定で活動を進めています。

●パンフレット

**「シードル」ってどんなお酒？**

シードルとは、リンゴを発酵(アルコール発酵)させて造るアルコール飲料のことです。11世紀にはフランス・ノルマンディ地方でりんご栽培が定着し、シードルも盛んに造られました。日本でも、青森県や長野県といったりんごの産地で既存のワイナリーやシードル醸造所が増え始め、地元のりんごを使ったシードルが誕生しています。日本産のシードルは、紅玉やふじなど糖度の高いりんごをを使うことが多いのが特徴的で、繊細ですっきりとした味わいになっています。

シードルは甘口から辛口まであり、アルコール度数は2-8%くらいが一般的です。シードルはりんごを原料としているので、ポリフェノール・カリウム・リンゴ酸やクエン酸などが含まれており、健康や美容効果も期待できます。

**シードルの製造工程**

```

    graph LR
      A[収穫] --> B[洗浄]
      B --> C[破砕]
      C --> D[搾汁]
      D --> E[発酵]
      E --> F[瓶詰め]
      F --> G[貯蔵]
      G --> H[ラベル張り]
      H --> I[商品]
      
      D --> J[炭酸ガス注入]
      J --> K[瓶詰め]
      K --> L[※瓶内2次発酵]
      L --> M[貯蔵]
      M --> N[ラベル張り]
      N --> O[商品]
      
      E --> P[酵母投入]
      J --> Q[酵母投入]
      L --> R[酵母投入]
  
```

**～THE COZY～**

**<THE COZY 辛口>**  
750ml 1,980円(税込)。  
375ml 1,320円(税込)。

辛口とした喉越しで後味がよく、料理の味を引き立てます。また、焼肉をはじめとする肉料理、フライなどの揚げ物・料理にも適しています。

**<THE COZY 甘口>**  
750ml 2,123円(税込)。

爽やかな甘みで酸っぱい味わいです。焼肉・お刺身・パスタなど、どんなシーンやお料理にも相性抜群で、贈り物にも最適です。

**【販売店】**  
 ● 弘前市 座光寺産直所(およびおまかせ、りんごの里、ももりんご)  
 ● 県内の酒屋さん(高岡幸酒店、いよ(高岡)、丸木酒問屋、松置後継酒店)  
 ● ショッピングセンター内のテナントお酒のひろもち  
 ● 弘前市 郵便局  
 ● 徳田園

**【シードルを扱っている飲食店】**  
 ● 松乃亭  
 ● ロンチャイナキッチン

**～座光寺×表参道 シードル～**

**<座光寺×表参道 シードル 辛口・甘口>**  
750ml 2,000円(税込)。

原産表参道と飯田市座光寺の「りんご交流」から生まれたシードルです。爽やかな香り、心地よい味わい、たくさんの方の思いがこもったシードルです。

**【販売店】**  
● 高岡幸酒店

**農家さんの想い**

**福田 博之さん**

- シードルが世の中に広まってほしい。
- 県外の方が来たときに土産物として持って帰ってもらいたい。
- 座光寺といえばシードル！
- 農業を知ってもらいたい、好きになってもらいたい。

**長沼 豊さん**

- まずは地元の人に知ってもらい自信をもって観光客に伝えてほしい。
- 交流のアイテムとして継続したい。
- その産地でできた物の物語を分かったうえで楽しんでほしい。
- 甘口シードルは、ケーキと合わせるなどスマートに飲んでほしい。

**藤田 耕一さん**

- 県内の人が出るときに、秋葉のことを思い出してもらい、魅力を伝える。
- 高価なものなのでパーティーや誕生日に飲んでほしい。
- シードルを飲む文化を定着させたい。
- リニアに向けての名産品になってほしい。

シードルについての横断幕・ポスター・パンフレットなどの展示物を見て、シードルのアンケートを取りたいのでご協力よろしくお祈りします！

**地酒で乾杯**

座光寺で造られたシードルは、甘くてうっとりどろろとスウィキリ爽快の2種類。お土産にもおすすめですよ！

※20年度産の製造は収穫で終了されています。 他年度、販売中の製造は販売、決定的被害に被害を受けられます。

## 🍏活動を振り返って🍏

< 今村 美月 >

初めは、自分の意見を言えるのか、このチームでちゃんとやっていけるのか、コミュニケーションをとることができるのかなどいろいろな不安だらけでした。この課題研究を通して、発言することが苦手だったけど、自分の意見を言えるようにはなってきた、少しは貢献できたと思いました。地域に出てインタビュー調査を行ったとき、自分から多くの人に声をかけて多くの方とコミュニケーションをとることができました。コロナで活動期間が短くなってしまって、シードルというテーマで活動する中、できることが限られてしまい悩むことがたくさんありましたが、あまり体験できないリンゴの収穫体験もさせていただいて、いい思い出になりました。いろいろな場面で成長することができたので、次に生かせるようにしたいです。大変なこともありましたが、楽しかったです。

< 木下 汐乃 >

活動当初私は、このコロナ禍で本当に地域人教育なんて出来るのかと思っていました。実際、コロナウイルスの影響によりやりたいことができない場面も多くありました。メインの活動として考えていた成人式でのシードルのPRも成人式延期が決まり、今回の活動の中で実行することは出来ませんでした。私はこの延期の報告を聞いて、今までやってきたことが無駄になったと思いました。しかし、活動を振り返ってみると、以前よりも地域の方にシードルに興味を持ってもらうことができたと思うし、私自身シードルのことを深く知る良い機会となりました。この活動を通して、今年のようにコロナというマイナスなことがあったとしても、考え方1つで出来ることが沢山あるということ学びました。これから社会に出て生活していく中で自分にできることは何かを考えて行動できる大人になっていきたいと思えます。

< 小原 秀友 >

この課題研究を通して座光寺地区の知らなかった多くの魅力を知ることができました。今年は、コロナでできないこともあったけど逆にできることは何なのか考え、活動を進めていくことができました。コロナ禍の中、聞き取り調査や農家体験など地域の方と触れ合う機会もあったけど何事もなく課題研究をすすめることができたと思えます。なんども地域の方のお話を聞き、そのたびにみんなで話し合いをして一人一人が成長できる授業でした。授業がきついなと思ったこともあったけど最後までやりとげることができ、自分を成長させてくれたのは先生をはじめ、主事さんやグループのメンバー、地域の方あってこそだと思います。ありがとうございました。

授業での課題研究は終了となりますが、自分の地域にも地域課題がたくさんあると思うので、そこに住む地域の一員として地域課題に取り組んでいけたらいいと思えます。

< 塩沢 桃香 >

私が地域人教育で学んだことは、自分の意見を伝えることの大切さです。この授業が始まった最初のころは話し合いをしてもあまり自分から意見を言う人がいなくて、話し合いが進みませんでした。日誌にはみんな思っていることややりたいことが書いてあったので、それをみんなが伝え合わないと活動が進まないと思えました。休憩時間の時に話してみると意外とみんな意見や考えなどが出やすく、それぞれの考えていることを知ることができました。このことから、自分の意見を伝えることの大切さを学びました。これから先も、自分が思っていることや考えていることなどを人に伝えることや、逆に相手が思っていること

もしっかり聞くようにしたいです。この地域人教育で学んだことを将来仕事に生かしていきたいです。

< 田間 美羽 >

今回の課題研究では新型コロナウイルス感染症が流行している中でもアンケート調査やインタビュー調査などできる範囲で行うことができました。実際に地域に出てイベントに参加しながらアンケート調査を行ったことがあったので、初対面の方とのコミュニケーション能力が付き、実際に話しながらインタビュー調査やアンケート調査を行ったので地域の方に近い目線で課題の解決方法を考えることができましたと思います。また、私たちのグループはテーマや活動内容がなかなか決まらず他のグループより活動開始が遅れてしまいましたが、やることを分担して課題研究発表会当日には間に合うことができました。この経験から一人一人責任感を持って自分の仕事をこなすことができるようになったと思います。

< 二村 萌香 >

私は課題研究の授業を通して、今まで以上に考える力・コミュニケーション能力が特に身につきました。課題研究ではまず考えることが一番でした。班の人たちと何をしたいか、今後どうするかなど沢山考えていくうちに、まず考えるということが今まで以上に当たり前になり身に付いた力の一つだと思います。課題研究は班の仲間・担当の先生・主事さん・地域の方など沢山の人のコミュニケーションが絶えない授業でした。課題研究を進めていくうちに、色々な人とコミュニケーションのとるのが楽しくなりこの力も今まで以上に身に付いたと思います。課題研究を通して今まで以上に身に付きこれからも活かしていけることが沢山あると思うので、授業を通して学んだことを忘れずにこれからも取り組んでいきたいです。

< 松澤 幸作 >

私はこの地域人教育を通して地域の方のシードルに対する思いをすることができた。

私はこの課題研究が始まったときはなにも座光寺について知らなかった。当然シードルのことも名前は聞いたことがあるが何なのかは全く知らなかった。だが座光寺で活動するうちに座光寺の特産品や魅力を知れた。そして農家さんの気持ちに触れることができ思いその思いを私たちはもちろん、多くの座光寺地区の方々に伝えていくことができた。結果としては成人式で新成人の人にシードルをプレゼントするという計画は新型コロナウイルス感染症の影響で成人式が中止してしまいプレゼントはできずに終わってしまいましたがポスターやパンフレットを作り今後もPRできたらいいなと思う。

< 丸山 梨紗 >

私は今回の課題研究を通して地域について興味を持ち、知ることができました。コロナ禍という大変な中でスタートした課題研究でしたが、グループのみんなと今出来ることについて考え、私たちなりに地域のために出来る活動を計画することが出来ました。例年とは違い、スタートも遅く活動期間がとても短い課題研究でしたが、その中でも活動も出来たし、発表会も無事に終えることが出来て良かったです。座光寺地区のみなさんが協力してくださったおかげで活動もスムーズに進めることが出来ました。コロナ禍ではあったけど、地区のイベントにも参加させていただき、地域の皆さんと交流が出来て嬉しかったです。課題研究発表会の準備は、期間が短かったこともありとても大変でしたが、その分終わった後は達成感を味わうことが出来て良かったなと思っています。充実した課題研究になりました。

高校生の皆さん、シードルを研究テーマに取り上げて頂き、ありがとうございました。また、地元の方や若者に対して一生懸命に取り組む姿に、私も頑張らないといけないとエネルギーをもらいました。飯田の地域にシードルを飲む文化が定着するように、今後も学んだことを若者に伝えていただければありがたいです。そして、是非、皆さんの成人式にはシードルで乾杯してください。そのための2020年産シードルを保管しておきます。 座光寺地区 長沼 豊

私たちのシードル作りに込めた思いを酌んで下さり、知っているのか？飲んだことがあるのか？などを実際に地元の方にアンケートをとるなど、私たちではできない活動を通じて、貴重なデータを収集し、またその結果をもとに、成人式でシードルを飲んでいただくとする取り組みは、まさに妙案で、今後、私たちのシードル普及の取組にぜひ取り入れたいと思います。

また、生徒の皆さんの熱心な姿勢は、大変すばらしく、清々しかったです。高校を卒業され、社会で大活躍されることを楽しみにしております。 座光寺地区 篠田 耕一

座光寺のシードルに関する研究、大変ありがとうございました。ただでさえ時間的、物理的な制約がある中、さらにコロナ禍でできることが制限されている中での活動は大変だったと思います。私たち農家への取材には熱心に耳を傾けていただき、逆に私たちがハッとさせられる強烈な質問や、私たちが感心したり、ヒントになったりする発言をくれました。取材や農業体験を行う中で、皆さんが得た知識、さらには探究する意欲そのものが皆さんがこれから生きていく中で大きな糧になるでしょう。たとえ、つまずいたり、壁に当たったりした時でも小中高と今までの学びをフルに活かして、社会という荒波を進んでいってください。 座光寺地区 福田 博之

座光寺へ来てくださった皆さんへ

座光寺へ来ていただいた8人の皆さん、一年間お疲れさまでした。

顔を合わせるたびに、皆さんのやる気が増していくのを感じていました。活動時間が少なかった一年間の中で、シードルに焦点を当て、聞き取り調査し、自ら体験し、それらを実によくまとめた后感心しました。

私は、皆さんの活動をきっかけにして、座光寺の農家の営みが活発になってくれることを期待しています。またいつか座光寺へ遊びに来てください。大歓迎します。お元気で。

座光寺公民館長 塩澤 哲夫

8人の皆さん、一年間の活動本当にお疲れさまでした。

新型コロナウイルス感染症の影響で、課題研究に限らず、高校最後の学校生活が思うように送れなかったのではないのでしょうか。

課題研究のことで言えば、わたしも地域人教育に初めて関わったので、皆さんにいろいろとご迷惑をおかけしたと思います。それでも、皆さんが仲間と話し合っ自分の考えを伝える大切さや地域の方から話を聞く中で地域活動への思いを感じていただけたのであれば、とてもうれしく思います。わたしも皆さんとの活動を通して学ぶことが多くありました。ありがとうございました。

課題研究を通して感じたこと一つひとつが皆さんの財産だと思います。この経験を忘れることなく、高校卒業後も皆さんが社会で羽ばたくことを心から応援しています。

最後に、自分の住んでいる地域と同じくらい座光寺のことに関心をもって、これからも座光寺を応援してくださいね。 座光寺公民館主事 永田 麻美子

# コロナに負けるな！松尾に光を…（松尾地区）



## 【研究メンバー】

尾澤 周                      岡田 ありさ                      沢柳 李呼  
代田 琴実                      塚越 莉愛                      古川 満里菜  
御堂島 浩太                      桃澤 希美  
原 真由美(指導教員) 三船 功基(松尾公民館主事)

## 【ご協力いただいた方々】

松尾地区まちづくり委員会 様  
慈光松尾保育園 様                      鳩ヶ嶺八幡宮 様  
サンロード八幡商店街 様

## 1. はじめに

松尾地区担当となった私たちの中には松尾地区に関わりを持っている人が居なかったため、松尾公民館の館長さんに案内していただきながら、松尾地区について知ることから始めた。そこで私たちは商店街に目をつけ商店街のみなさんに話を聞いた。すると、新型コロナウイルスの影響で地区の行事がなくなって寂しいという声が多かった。そのため、「コロナでもできるイベントの企画」をテーマに活動を進めていくことにした。

## 2. 研究課題

松尾地区は、飯田市内20地区のうち4番目に人口が多い地区で子供から高齢者までバランスよく居住し、高齢化率が飯田市内の中で1番低く、様々な活動が活発に行われている。しかし、上記の通り今年新型コロナウイルスの影響で行事やお祭りがなくなり、子供たちが楽しめるイベントはゼロに…。子供たちの笑顔を見たい。一緒に楽しみたい。思い出を作ってあげたい。という共通の思いが私たちの中に生まれ、研究活動を進めることとした。

## 3. 研究経過

(4～5月) 【Ready for 地域人教育】レポート

(6月) フィールドワーク：松尾商店街へ                      聞き取り調査：商店街・館長さん

(8月) 研究内容提案 → 研究内容決定

(9月) 出張！お助け高校生①, ②

(10～11月) イベントに向けての準備(保育園へ説明→協力要請→お便り配布、ランプシェードの製作、輪投げ・魚釣り・お菓子のつかみ取りの道具製作、景品用意)

## 4. 研究内容

### (1)松尾地区って??

#### ①館長さんに松尾の説明・案内

松尾について誰一人として知らず、まずは知ることからだと思い館長さんにお越しいただき、松尾の歴史や有名なものなどお聞きし、実際に案内していただいた。

## ②商店街でフィールドワーク

サンロード八幡を中心に商店街を歩き、グループに分かれて店主さんたちへインタビューを実施した。どのお店でも共通していたことが、住みやすい、地元を大切にする、人が温かい、人通りが少ない、という声だった。

## (2)出張！お助け高校生

「出張！お助け高校生」とは、松尾地区について何も知らなかった私たちが地区の方と信頼関係をつくることを目的として行った活動である。具体的には地区の掃除を行った。

### ① 鳩ヶ嶺八幡宮（9月18日）

参拝者に見える場所はもちろんのこと、普段見られることのない本殿の裏側まで掃除した。神主さんもなかなか掃除できないらしく、落ち葉が溜まっており、直径2mほどのゴミ袋いっぱいの落ち葉を集められた。

### ② 松尾商店街（9月25日）

サンロード八幡内にあるサロンを掃除した。机、椅子、マットなど全てのものを移動させ、掃き掃除と拭き掃除、窓拭きも行った。高い場所まで拭き、用意していた雑巾は真っ黒になった。

## (3)鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップ

松尾地区で毎年2週間開催されているイベントである。私たちは、コロナ禍でも地区の人に楽しかったと感じてもらい、思い出作りの一助となる活動をしたいという目標を持ち、そのイベントの最終日に参加させていただいた。イベントのチラシにも大きく載せていただいた。

### ① 慈光松尾保育園の園児のみなさんとのランプシェード

園児のみなさんに絵を描いてもらうことで、園児のみなさんの思い出に残り、地区の方にも元気になってもらえると考えた私たちは、保育園を訪問し描いてもらった絵を使用してランプシェードを作成した。

### ② 鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップ当日

輪投げや魚釣り、お菓子の掴み取りなどをやるために多くの方が来てくれた。また、自分たちで描いた絵を見つけるために家族連れの方々がランプシェードを見に来てくれた。

## 5. 考察

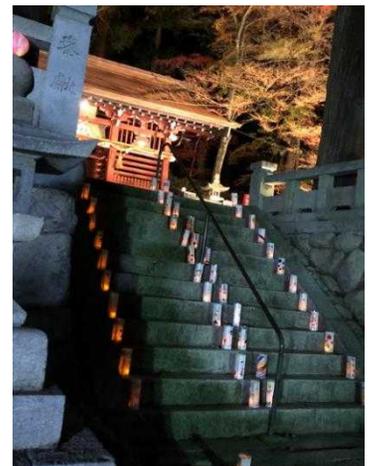
鳩ヶ嶺八幡宮や商店街の掃除を行ったことにより、地域の方との関係作りをすることができ、次のお祭りに繋げることができた。また、コロナで行事が無くなってしまい、寂しいという地区の方のために私たちの出来る範囲以内の企画をお祭りで用意し実践することができた。主催した方から「親子連れが多く見られて嬉しかった」「来年もやってほしい」などの地区の方々の声を聞くことができた。

## 6. 今後の課題

コロナ禍だったこともあり、単発的な活動になってしまったので、継続的な活動をし、少しでも長く地区の活性化に貢献できるような活動ができればよかった

## 7. 終わりに

新型コロナウイルスという問題を抱えてのスタートで、思う通りにいかないことや不安なことが多くあったが、地区の方や私たちの活動に関わってくださった方々のおかげでとても良い活動することができた。ありがとうございました。



# 活動写真

## ・フィールドワーク (7月)



## ・鳩ヶ嶺八幡宮 (9月)



## ・商店街 (9月)



・ 保育園（10月）



・ お祭り当日（10月）



・ 保育園へランプシェード返還（12月）



**慈光松尾保育園年長**  
もみじ・さくら組の皆様へ

令和2年11月

11月7日(土)～11月21日(土)に鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップが行われています。その最終日の11月21日(土)に園児の皆さんに描いていただいた絵を使ったランプシェードを展示します。

10月23日(金)に私たち保育園に伺っていただきました。もみじ・さくら組の54人の園児の皆さん一人ひとり和紙に自由に絵を描いてもらい、私たち高校生が牛乳パックに貼り付けました。

ぜひ、お子様のランプシェードを鳩ヶ嶺八幡宮(八幡宮)に展示するのでご家族で見に来てください。

説明している様子



もみじ組



さくら組



☆高校生企画☆

・さかなつり、わなげ、おかしのつかみどりもあるよ!

11月21日(土) 3:00～6:00

(食品がなくなくなり次第終了)

保育園立牌にもこんな感じでポスター表示してもらってあります。見てみてください。



飯田OIDE長姫高校  
商業科3年  
松尾地区担当班

「さかなつり、わなげ、おかしのつかみどり」のゲームが用意されています。ぜひ楽しんでください。

11/21(土)開催

**ライトアップに参画計画**

**松尾 鳩ヶ嶺八幡宮で清掃活動**

OIDE長姫商業科3年

飯田OIDE長姫高校商業科の3年生8人は、地元が実施する鳩ヶ嶺八幡宮(飯田市八幡町)のライトアップへの参画を計画している。地域活性化や地域社会に貢献できる人材を育成する教育プログラム「地域人教育」の一環。まずは活動を地区住民に認知してもらおうと、18日には同神社の清掃に取り組んだ。

小雨の中、社殿の袋いっはい集めた。生徒らは住民からの聞き取りで、11月に開催する鳩ヶ嶺八幡宮ライト

アップへの参加を決まっていた。アップへの参加を決めた。地域の保育園児や福祉施設の利用者とランプシェードを作

ら、寂しがっている状況を把握。「コロナ禍でもこんな行事があつて、松尾は頑張ったんだ。アップへの参加を決めた。地域の保育園児や福祉施設の利用者とランプシェードを作

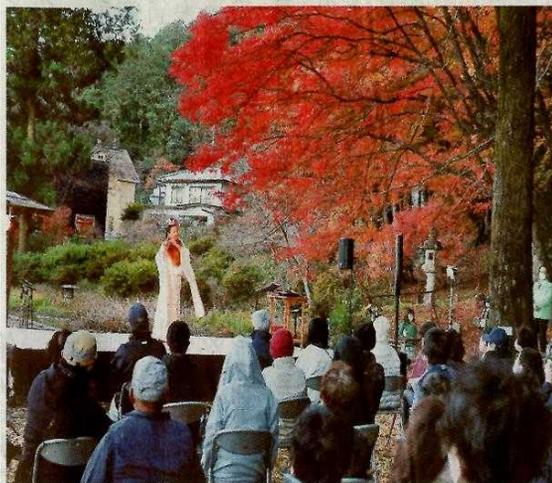


落ち葉を集める生徒ら

**夜の紅葉楽しんで**

鳩ヶ嶺 八幡宮 ライトアップイベント開催

飯田市の松尾まちづくり委員会(宮澤直人会長)は21日、鳩ヶ嶺八幡宮でライトアップイベントを開いた。八幡宮、飯田商工会議所松尾支部、JANAみなみ信州松尾支所が協力。和笛演奏者の森田梅泉さんによる篠笛コンサートや高校生と保育園児が作成したランプシェード展示など、多彩な催しが会場を賑わせた。昼間とは違つ八幡宮の紅葉を楽しんで、2



鳩ヶ嶺八幡宮で開かれた篠笛コンサート

かな曲目をフリートークを交えながら披露した。ライトアップを盛り上げた。飯田OIDE長姫高校の下を並べ、魚釣りの

かな曲目をフリートークを交えながら披露した。ライトアップを盛り上げた。飯田OIDE長姫高校の下を並べ、魚釣りの

商業科3年生も地域人教育の一環でイベントに参加。慈光松尾保育園の児童と作り上げたランプシェードを並べ、魚釣りの

「若い世代からお年寄りまで、多くの方を訪れてくれて何よと話していた。

# 松尾 地区

～コロナに負けるな！

松尾に**光**を～

人柄

住みやすさ

魅力

歴史的風景

地元愛

このコロナ禍でも  
「**楽しい思い出になった**」  
そう思ってもらえる  
活動をしたい！

知らない高校生が  
いきなりイベントを  
やっても集まらない

信頼関係の構築から始めた

松本大学准教授  
白戸先生



お祭り

ランプシェード



うちわ作成

屋台

**資金不足**

花火

ランプシェード  
作成



松尾に住んで72年  
I love Matsuo  
松尾公民館長の  
下條さん

不 便

スーパーが  
ない

交通量  
が多い

今回はこれを  
「**目標**」  
として活動しました！

神社と商店街の掃除の様子



もうこの活動はできないのか…

松尾でもお祭りを計画  
してるから参加する？



松尾地区 主事の三船さん

### イベント当日

魚釣り

輪投げ

お菓子の  
掴み取り

うちわ・屋台  
花火・ランプシェード

規模 ↓ 縮小

屋台・ランプシェード

### ランプシェードの改良



### 保育園の様子



楽しかった！

お祭りにも  
行くからね！



動員数述べ **220**人以上

掃除

お祭りに繋がらなかつたか？

お祭り

### 全体の感想

- 人と人とのつながりの信頼関係の大切さを学んだ。
- お祭りでは、子供から大人まで多くの方に楽しく喜んでもらうことができた。
- 新型コロナウイルスの影響があったが、皆が今できることを考え、すべてやりきることができた。
- 例年になく親子連れが見られて嬉しかった。
- 来年もやってほしい。

目標達成

### 協力してくださった方々

- 松尾公民館長 下條さん
- 慈光松尾保育園 園長さん  
(もみじ組・さくら組のみなさん)
- 鳩ヶ峰八幡宮神社のみなさん
- 北原履物店



## 1年間の活動を振り返って

今年は例年通りとはいかない異例のスタートとなった今回の課題研究。さらにこのコロナ禍により様々なことができない難しい状況の中私たちの企画は断念寸前まで追い込まれました。しかし窮地に追い込まれたことで自覚を持ち始め、積極的になっていきました。ピンチは人を成長させるとよく聞きますがその言葉を身をもって理解できた気がします。

当日のお祭りに向けての準備や広告作成など様々な仕事が舞い込んできましたが、メンバーで話しながらきちんと仕事を分担し当日までに完成に漕ぎ着けることができました。

当日は想定以上の親子連れの方々が来て下さり、時間はあっという間に過ぎていき、残ったのはやりきったという達成感でした。その後発表用の原稿・パワーポイントの作成に他地区よりもいち早く取り掛かり、発表に向けての準備を整え発表に臨みました。発表当日では私自身のミスがありましたがメンバーは適切な速度でそして丁寧に話しており時間こそオーバーしましたが良い発表となりました。

私は、この活動を通して飛躍的に活動できたと感じています。そしてメンバーの皆・顧問の原先生・主事の三船さん、そして松尾地区の皆さんの温かいご支援あつての活動だったので感謝の気持ちを忘れずに自分の将来を切り開くために使っていきたいです。

尾澤周

コロナの休校から始まり「何ができるのだろうか？」と不安ばかりだった課題研究でしたが、コロナだからできないと諦めるのではなく、コロナでもできることをしようと考え、活動しました。活動当初は何をしたらいいかわかりませんでしたが、主事の三船さんや松本大学の白戸先生のおかげで私たちのしたい活動が見え企画することができました。試行錯誤を重ね、慈光松尾保育園のみなさんや松尾地区の館長さん、お祭り実行委員会のみなさんなど、多くの方々に協力いただき、苦勞して迎えたお祭りでは協力してくれた園児のみなさんをはじめ、多くの子供たちや家族の方が参加していただき感謝の言葉をいただきました。松尾地区を担当し、地区の方のために企画・実行することができたよかったです。

岡田ありさ

私は、この学校の商業科に入った理由が地域人教育という授業があり、地域と関わり地域で活動することができるからです。そのため、3年生になり地区ごとで活動することをとても楽しみにしていました。例年通りにはいかないことがたくさんあり、何回も壁にぶつかりましたがそのたびに話し合い、コロナ禍だからできないと諦めるのではなくコロナ禍だからこそできる活動ができたと思います。

1年間活動してきて思いつくのは松尾地区の皆さんの笑顔です。松尾地区を知り、愛することができました。発表会では観客の心をつかむ発表が目標でした。当日の結果はトップバッターでインパクトを残すことができ最優秀賞でした。とても嬉しく達成感でいっぱいでした。楽しむときは楽しむやるときはやる個性豊かなこのメンバーだからこそできたのだと思います。今までに例がないこの1年間を活動する中で多くの人に支えられ、活動を終えることができました。

沢柳李呼

この課題研究を通して多くの松尾地区の方とかわることが出来てとても良い経験になりました。例年通りならば大きなイベントや、屋台を出して自分たちで何かを作って販売するということが出来たけれど、今年は新型コロナウイルスの影響で自分たちの思い通りの活動が出来なくて困った時もありました。ですが、地区の方に少しでも「思い出に残った」「楽しかったよ」と言ってもらえる活動をしたいという思いで活動することが出来て、今までよりも地区の方に寄り添う活動が出来たのではないかなと思います。

コロナ渦でもこんなに綺麗で大きなイベントに参加することが出来たのは松尾地区の方や主事さん、館長さん、顧問の先生のおかげです。

松尾地区を課題研究で担当することができて良かったです。

代田琴実

# 竜丘の魅力再発見！（竜丘地区）



## 【研究メンバー】

岩崎芹奈 小林由依 清水桜雪  
田間優月 中山日菜姫 宮下琴  
山崎未結  
林秀孝（指導教員）三ツ井洋樹（竜丘公民館主事）

## 【ご協力いただいた方々】

竜丘小学校3年生様 カレンダースポンサー様  
竜丘公民館長様 写真提供者様

## 1. はじめに

新型コロナウイルスの影響により、例年より遅れて課題研究がスタートしました。去年のように人との交流ができない中、竜丘地区のフィールドワークを数回重ね、竜丘地区に対する理解を深めました。

## 2. 研究課題

当初予定していたのは鶯流峡の竹を使い誰でも使える家具を作る予定でしたが、竹の加工に適した季節ではなく、さらに竹を切ったり運んだりする作業が難しく、乾燥させるのにも時間が必要なため断念することになりました。

そこで、コロナ禍で交流が減ったことから、この機会に竜丘の魅力を再発見をする方策を課題としました。

## 3. 研究経過

- 6月 公民館長 伊東さんから竜丘地区について聞く
- 7月 フィールドワーク(鶯流峡・鈴岡公園・古墳)  
竹の性質・家具のデザイン・運搬方法・設置場所の検討
- 8月 新たな活動案(写真・俳句のコンテスト、カレンダー作成)
- 9月 竜丘小学校訪問  
地域の方から写真についての講義
- 10月 俳句選び、竜丘地区の写真撮影
- 11月 スポンサー探し、カレンダーのデザイン考案、写真選び
- 12月 カレンダーの発注、商業科研究発表会、カレンダー販売
- 1月 カレンダー販売、まとめ

## 4. 研究内容

カレンダー作成の流れ

### (1) 竹を使った何かを作ろう！

竜丘地区について何も知らない私たちは、公民館長の伊東さんから竜丘地区の話聞くことから始めました。そこで鶯流峡の話題が上がり、コロナで人との交流が難しいので直接地域の方々と関わるのではなく、地域の方とその家族との交流に視点を置き、竹を使った家具の作成を考えましたが、竹の加工に適した季節ではないことと、竹の伐採・運搬作業が難しく、さらに乾燥させる時間が長いいため断念することになりました。

## (2) 次の目標探し

次に考えたのは、写真をテーマに俳句コンテストを行うものでした。高齢者が俳句を嗜んでいること、小学生が俳句の授業をしていることを知ったので、俳句を使った何かイベントを開催できないか考えました。しかし時間がないためコンテストは断念せざるを得ませんでした。

そこで、竜丘地区の魅力あふれる写真を使い、家族との会話のきっかけとして俳句を小学生に作ってもらい、写真と俳句をセットにしたカレンダーを作ることになりました。

## (3) スポンサー探し

カレンダーを印刷会社に依頼するのですが、費用が多額であることがわかりました。そこで、竜丘地区でスポンサーになってくれる企業を探すことになりました。その結果、旭松食品株式会社・Aコープあいばんいいだ店・キラヤ竜丘店・代田新聞店・三笠設備株式会社(敬称略)から支援金をいただきました。残りはカレンダーの売り上げから支払いを行います。

## (4) カレンダー作成

次にカレンダーで使う俳句と竜丘地区の写真を集める段階に移りました。俳句は竜丘小学校3年生がちょうど俳句の授業を行ったばかりで、竜丘小学校に行き、3年生と一緒に俳句を作りました。「自分の好きな季節」をテーマに授業中に1人2作品、家に持ち帰ってもらい家族で1作品詠んでもらうことにしました。その後、詠んでもらった俳句から12作品選び、その作品をひと月毎に割り振りしました。

写真は竜丘地区在住で、趣味で写真を撮っている方々から写真の提供受け、また私たちが実際に撮影をすることにしました。自分たちで竜丘地区を歩いたり、天竜舟下りを体験したりしながら、様々な写真を撮影しました。

選んだ俳句と写真を組み合わせ、カレンダーのデザインを考えました。1か月ずつ丁寧に作成し、魅力あふれるカレンダーに仕上がりました。カレンダーは12月末と1月初めに販売しました。



## 5. 考察

竜丘公民館長さんの話を聞いたり、フィールドワークをしたりした後ブレインストーミングを行い、自分たちの感じたことを出し合いました。そこで竹に重点を置き活動しようと考えましたが、調べていくうちに竹を扱うことは難しいことがわかりました。簡単そうな活動に見えても、実際は多くの時間や費用などを費やすことがわかり、「自分たち」で活動をする難しさを実感しました。

今年は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されている中で、どのように地域の方とつながり、活動していくかたくさん悩みましたが、カレンダーを作ることで少人数の人と直接的に、多くの人と間接的に関わることができたと思います。

## 6. 終わりに

私たちは、班員のほとんどが竜丘地区を知らない状態で活動を始めました。初めは、私たちの持っている感性と竜丘地区が大切にしている文化が合わないかもしれないと不安でした。実際に竜丘地区に訪れ、活動を重ねるにつれて、自然豊かな景色や古き良き町並み、地域の方の温かさに触れたことで竜丘地区の多くの魅力を知ることができました。

たくさんの方々にご協力いただいたおかげで私たちは1年間、楽しく安全に活動することができました。

・ 竜丘地区フィールドワーク 7月



・ 鷲流峡散策 10月



・天龍舟下り 10月



・カレンダー（縮小）

1月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

2月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

3月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

4月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

5月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

6月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

7月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

8月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

9月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

10月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

11月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

12月 2021

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							



自分が竜丘地区に住んでいるため、課題研究は竜丘地区以外を担当したくて竜丘地区から外れることを願っていたけれど竜丘地区になってしまい、最初は少しだけやる気にはなれなかったです。どこに何があるのかなんて知っているし、魅力なんてものを竜丘地区に住んでいて感じたことが無かったので課題研究の授業はきっと退屈してしまうと思っていました。

しかし、実際に竜丘地区を散策し、班の皆の意見を聞くにつれて見慣れていただけで魅力は身近なところにあったな、と感じるようになりました。竹ベンチが色々な要因で作成が難しくなり、次のプランの検討、カレンダーの資金集め、販売など様々な難関があり、自分だったら諦めて妥協してしまうようなことがあったけれど、皆が「絶対に成功させる」という気持ちで行動していたので最後まで諦めない気持ちでいられました。

発表会準備で何度も皆で繰り返し練習したり、パワーポイント作成で皆が意見をくれたりして、忙しかつたけれど楽しく活動でき発表会を迎えることができました。皆の考えた意見に助けられたり、何気ない一言が解決策になったりと班の皆がいたからこそその結果だと思っています。1年間、ありがとうございました。

今年は新型コロナウイルスにより時間や活動の制限があった中での地域人教育で例年通りとはいかない状況でしたが、達成感のある活動をすることができました。

実際に自分たちの目で竜丘地区を見に行ったり地域の方にインタビューをしたりするなどのフィールドワークはもちろん、アピールポイントや課題点を出し合うブレインストーミング、観光名所を体験する天竜舟下りなど地域人教育だからこそできる活動をしました。

意見を出し合う中で直接人と関わらなくても地域貢献ができる、加えて地域の魅力を再発見できる活動にしようという案にまとまった私たちは、竜丘地区の写真と竜丘小学校3年生につくってもらった俳句を載せたカレンダーを作成することに決めました。

カレンダーを作る際に時間がなかったり修正をしなければいけなかったりと問題が多くありましたが、数多くの方の協力で無事に活動を終えることができたのでよかったです。

作成したカレンダーは自分たちの手で販売したので大変でしたが、思っていた以上に多くの方が買ってくださったので嬉しかったです。

長いようで短いような地域人教育でしたが充実した1年でした。楽しかったです！

竜丘地区の担当になったものの、そもそもどこに竜丘地区があるのかわかりませんでした。私だけでなく、竜丘班のほとんどがそうだったと思います。初めに計画していた活動案がダメになり、目を付けたのが竜丘の美しい景色です。竜丘の景色をカレンダーにし、小学生の俳句を掲載すること、地元の企業に協賛をお願いすることでさらにつながりを強めていくことができました。コロナ禍の中、例年のように集まってお茶会をしたり、イベントを開催したりすることはできなかったが、それを逆手に取って今までにない方法で地域と関わっていく術を学ぶことができました。

本格的なカレンダー作りに入り、カレンダーのデザイン・使用する写真・フォントを細かく決めていきました。後に完成したカレンダーを見て自分たちで作ったとは思えないくらい完成度が高く、とてもうれしかったです。実際に店頭で販売した際は思ったよりも興味を示してくれる人が少なく、作った分販売することができるのか不安でしたが、訪問販売や校内販売で購入してくれる人がとても多く、中にはカレンダーのクオリティを評価してくれる人もいて、うれしかったです。

初めは例年よりも短い時間で満足に活動できるのか疑問だったけれど、カレンダーを通して地域と関わることができ、半年間でこれだけのことができる力があるのだと実感することができました。達成感であふれています。

私は最初のころ、竜丘地区がどこにあるのか、どんなところなのか全く知りませんでした。そのため、竜丘地区を担当すると決まった時、不安がとても大きく、1年間やり切れるか心配でした。しかし、公民館長のお話を聞いたり、自分たちで竜丘地区を歩いたりしているうちに、すごく魅力のある場所だとわかり、地域の方が困っていることや地域の問題点を一つでも多く解決したい、良いところや魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい、そう思うようになりました。また、活動をしていくうちに多くの壁にぶつかりましたが、その度に悩み、乗り越えることで成長できたと感じることもあり、学ぶことがとても多く充実した時間を過ごすことができました。

活動を通して特に私は、人との関わり方を学ぶことができました。この1年間で老若男女様々な方々と関わる機会がありましたが、全員に同じ接し方で同じ対応をするのではなく、一人ひとりと向き合い接することで、よりよい関係を築くことができ、充実した活動につながることを学ぶことができました。1年間活動を支えてくださった方々には感謝しきれないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、1年間竜丘班としてこのメンバーと活動でき、たくさんの経験ができてよかったです。

私たちは竜丘地区について本当に何も知らなかったのので、まずは竜丘を知ることから始まりました。時間がないうちで、竜丘の公民館長の話や、自分たちで実際に竜丘地区を歩いてみて、何となく竜丘地区には竹問題があるのかなと思ったらかななか竹を使った活動案から離れられなくて、竹ベンチの作成を断念した時、この1年何を目的に活動すればいいのかとても悩んだ記憶があります。

そこから、色々な案が出たけど、竜丘地区の人に竜丘の魅力を再発見してもらおうと考えてカレンダーの作成という案にまとまりました。自分たちの手でカレンダーを1から作ったので、月ごとの数字の色や、写真、自体などこだわるところはすべてこだわってできています。私は、カレンダーの作成より資金集めに取り組んでいたのでも、カレンダーのサンプルを見せてもらったとき完成度の高さにとっても驚きました。

やっと完成したカレンダーを販売するときも、買いに来てくださった方に「よくできてるね」とか、「すごいね」と声をかけてもらうことも多くありました。すごく完成度の高いカレンダーを作ることができて、自分たちの力でカレンダーを作ることができて、とても貴重な体験ができたと思います。すごくたのしかったです！

竜丘地区の魅力を広めることができ、今だからこそできる地域の人との関わりを考えた結果、竜丘地区の写真を使用したカレンダー「丘の色彩」を作成することに決まりました。カレンダーに使用する写真は地域の方に、俳句を竜丘小学校三年生に提供してもらい、地域の方と関わることもできたと思います。

カレンダーをデザインするのが初めてだったので、苦労したことが多々ありましたが、みんなで協力して分担し、カレンダーが完成しました。私はカレンダーの表紙も作成しましたが、どんな表紙にしたら目を引くのか、買いたいと思えるかを考え、インパクトもあり目を引く灯籠流しの花火の写真を使用し、題名のレイアウトも写真に合うようなものを考えて作成しました。題名は、主事の三ツ井さんにもアドバイスを頂き、竜丘にちなんで「丘」を使い、「四季」と月ごとの様々な「色彩」をかけて「色彩（しき）」に決まりました。

販売の際地域の方がカレンダーをほめてくださったり、買ってくださってとてもうれしかったです。

コロナ禍での活動だったので、例年よりスタートが遅れ、かつ大勢の人と関わることは結構つらかったのですが、活動を形にすることができてうれしかったです。そして、最初は何も知らなかった竜丘地区のことを知ることもでき、竜丘地区が好きになりました。このメンバーで活動できてとても楽しかったです。ありがとうございました。

竜丘地区という自分の全く関わりのない場所を担当すると聞いたときは、大丈夫なのかと不安しかありませんでした。

コロナウイルスが広がる中で極力人と接することなく地域貢献したいという考えの中で、初めは竹でベンチを作るという予定でしたが、カレンダーにすることで多くの方に目にしてもらえて地域の魅力を再発見してもらえるのではないかと意見がまとまりました。自分達の足で実際に竜丘地区を歩き、良さや課題に気づくことができました。カレンダーの12月に掲載した俳句は、この活動を通して関わった竜丘地区の方々が、本当に自分たちの住むこの地区に誇りをもっており、この良さを私たちが止めてしまうのではなく、つないでいきたいと思ひ詠んだものです。

店頭に立ち販売した時には、温かい言葉をたくさんかけていただき、多くの方にカレンダーを手にとってもらえとても嬉しく達成感がありました。

地域人教育を通して、どうやって自分たちの思いをより多くの方に知ってもらえるのかということをとたくさん考える機会がありました。竜丘地区の魅力を再発見してもらいたいという私たちの願いを「丘の色彩」という形に残るものにできたこと、同時に竜丘地区のことを好きになれたこと本当によかったと思っています。

## 竜丘公民館 主事 三ツ井 洋樹

「竜丘がどんなところかわからない」「竜丘に何があるかもわからない」

これが、最初に竜丘地域のことについてわかることを聞いた際、皆さんから聞かれた言葉です。

それから竜丘で活動をして時が経ちましたが、竜丘に対する印象はどう変わりましたか？

今年はコロナの影響で、地域の人と交流する機会が少なく、皆さんには竜丘の魅力に触れてもらうことができなくて申し訳なかったと思っています。

それでも、皆さんの「竜丘のために形として残るものを作りたい」、「作る過程で、地域の人たちが少しでも交流する機会を創り出すことができれば」という二つの思いから、小学生の俳句づくりと竜丘の魅力ある写真集めを掛け合わせた「竜丘カレンダー」の企画が生まれ、活動が進んでいくことになりました。あの時の皆さんの竜丘に対する気持ちがとてもうれしかったです。

カレンダー作成に向けた活動の中で、特に印象に残っているのは、竜丘小3年生との交流で「俳句のつくり方の授業」を行った皆さんの頑張り子どもたちとの交流を楽しんでいる姿です。短時間だとしても先生として授業をするという初めての経験を、いとも簡単に成し遂げた皆さんは素晴らしく、そして頼もしく思えました。授業を終えた皆さんが「楽しかったあ〜」と笑顔だったことを今でも覚えています。とてもいきいきとした顔をしていて、これからの活動もとても楽しみにになりました。

そこからはカレンダー写真集めや写真撮影、デザイン作成、協賛のための企業まわり、完成後に気付いたミスの修正(笑)、年末の寒さに耐えながらの販売。怒涛のように過ぎ去っていきましたが、7人で力を合わせて最後までやり切ったことが、何よりも素晴らしいことです。

竜丘の地域の皆さんからも、竜丘カレンダー「丘の色彩」の出来に驚きと喜びの声が多く聞かれました。その声が皆さんに直接届く機会がなく残念ですが、皆さんの活動は誇りを持っていいと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、これから皆さんは楽しいことや辛いこと、様々な経験をされることと思います。ぜひ、さまざまな人との出会いや多くの経験から、自分自身の世界を広げていって下さい。皆さんならどんなことでも乗り越えられると信じています。

様々な制約のもとで、2020年度の課題研究がおこなわれてきた。担当地域の課題を見つけ、その解決のために地域の資源を活用して実践することが課題研究である。課題は沢山あるし、その答えもひとつではない。今年度取り組んでみて、どうであっただろうか。

「メンバーそれぞれの強みが発揮できたと思う」

「住んでいる地域を、違う視点から見られて新鮮に感じた」

「形あるものを作り、その販売をして、間接的ではあるが地域と交流ができたと思う」

「ひとつのことをやり遂げた達成感がある」

「先輩方からは、大変であると言われていたが、楽しくできた」

「メンバーに恵まれて、うまくできた」

「最初の企画がうまくいかず不安であったが、修正でき楽しくできた」

コロナ禍で人と人との交流の制約からスタートした。地域フィールドワークをして「竹問題」を解決するべく取り組んだ。竹について調査する課題を通じて、簡単にはできないことを知った。地域の魅力を再発見するために地域の写真と小学生の俳句をセットにしてカレンダーを制作した。ところが完成が遅くなり、年末に地域のスーパーマーケットでの店頭販売、1月初めには企業回りをしての販売を行い、どうにか販売できた。この販売の苦労は良き思い出になると信じている。



メンバー7名および主事さんとの連携ができていたと思います。1年間の取り組みは見事でした。ご苦労様でした。

# はじめてのいから（伊賀良地区）



## 【研究メンバー】

米山 勇太 片桐 誠人 上原 里紗  
木下 ほのか 坂巻 夢乃 西川 麻緒  
原 明莉 宮澤 歩夢  
越 康恵（指導教員）  
熊谷 健太朗（伊賀良公民館主事）

## 【ご協力いただいた方々】

伊賀良まちづくり協議会 様 三和観光農園 様  
伊賀良自治振興センター 様 伊賀良公民館 様  
北林 省治 様 仲田 龍史 様  
伊賀良小学校6年1組の皆様

## 1. はじめに

伊賀良地区にはりんごの木が植えられた道路「アップルロード」がある。私たちは、アップルロードの知名度を広げるとともに、これからの将来を担っていく小学生にその経緯を知ってもらい、活動を存続してもらえるよう、世代間を「つなぐ」ことを課題とし、また伊賀良にはたくさんの美しい場所があると認知してもらうため、写真展を通し伊賀良の魅力を発信していける研究活動を行ってきた。

## 2. 研究課題

伊賀良の様々な魅力発信

アップルロードの知名度UP

アップルロードのりんごを使った、アップルパイ作り

世代を超えた地域交流

## 3. 研究経過

6月 伊賀良をフィールドワーク

8月 白戸先生に今まで話し合ったことを報告

9月 メガテンの社長さんに買い物弱者のことを聞いた、キラヤとりんごの里でアンケート調査

※当初は、社会的弱者の課題について進むことも考えたが、高校生である我々には複雑であり、かつ困難であったため、ほかの課題を研究することにした。

10月 アップルロードの知名度調査で全校へアンケート、リンゴ狩り・アップルパイ作り体験

11月 アンケート分析、伊賀良図書館で情報収集 小学生へりんごについてのアンケート調査

12月 伊賀良小学生たちとの交流会

写真展

#### 4. 研究内容

伊賀良地区の方々にいろいろな角度からお話をお聞きし、助言をいただけてきた。それらの内容から、伊賀良には、「歴史ある魅力」がたくさんあることを知った。しかし、歴史を創り上げてきた方々の“想い”は表記されていないことも多く、現在へ伝えられていないことがあるのではないかと考えた。そこで、将来この地域を担う小学生たちへ創り手の想いと一緒に魅力を伝える機会をつくり、地域に対する愛着と興味関心を高めるきっかけとなる取り組みを考えた。また、小学生と交流を深める中から聞こえてきた若者の声を地域の皆さんへ伝え、世代間を「つなぐ」活動を行った。さらに、伊賀良の魅力を多くの人に知ってもらうため、写真展を行った。

#### 5. 考察

私たちは、アップルロードのお世話を手伝っている伊賀良小学校と交流し、文字としては表記されていない「創り手の想いや歴史ある魅力」を伝えることで、地域に愛着を持ち、今後も地域の宝として、アップルロードのりんごを大切に育てていってくれるのではないかと、という仮説と、写真展を通して伊賀良の魅力を伊賀良の人に再確認してもらうことができるのではないかとという2つの仮説を立てて活動することにした。

交流会と写真展を行った結果、地域の方々からは「楽しく地域のことを知ることができた」、「身近なところにとっても素敵な場所があることが分かった」など、多くの感想を寄せていただいた。私たちの活動をきっかけとして、文字としては表記されていない創り手の想いを伝え、歴史ある魅力に興味関心を持つきっかけ作りとなる活動ができた。

#### 6. 終わりに

##### りんごチーム

初めて伊賀良地区が課題研究に加わり、何から始めればいいのかわからず、話し合いもなかなかまとまらなかったが、小学生に地域の方の「想い」を伝えたいという目標ができ、その目標に向かって班のみんなで切磋琢磨し合いなんとか交流会を成功させることができた。

##### 写真展チーム

写真展では、自分たちが予想していた以上に多くの人に来てくれてよかった。展示されている写真を見て改めて伊賀良地区には美しい景色がたくさんあるということを実感した。地域の方からもこのような声をたくさん聞くことができ、やりがいを感じることもできた。

##### まとめ

不安な思いで始まった私たちの課題研究だが、写真展や交流会を通し伊賀良の方々の優しさや、地域の魅力に触れることができ多くの方に支えられ、最後まで活動することができた。

この課題研究で学んだことを、これからの自分の人生に生かしていきたいと思う。



一年間の写真

フィールドワーク



アンケート調査



メガテン社長



りんご管理委員会  
仲田さんのお話



熊谷さんのお話



アップルパイ作り



りんご狩り



# 写真展



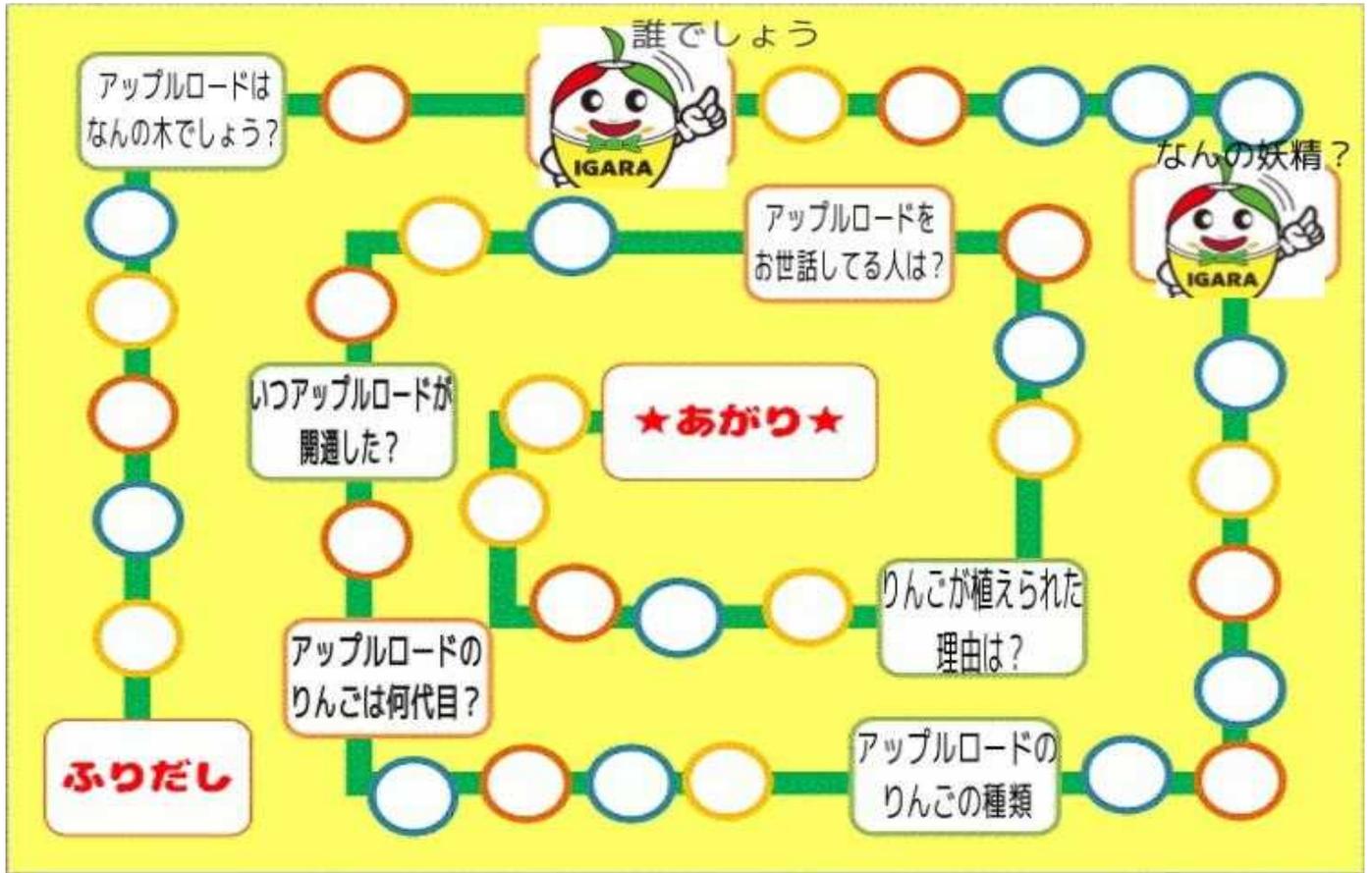
## 優勝作品



# 小学生との交流



すごろく 



「広報いがら」に掲載 

**小学生との交流会**

12月15日(水)飯田市立第一小学校で、飯田市立第一小学校の児童と、伊賀良地区の高校生との交流会が行われました。交流会では、高校生が事前に準備したクイズやゲームなどを行い、小学生は積極的に参加していました。また、高校生が事前に準備したクイズやゲームなどを行い、小学生は積極的に参加していました。



私たちは、飯田OIDE長姫高校商業科の3年生で伊賀良地区を対象に課題研究をしています。伊賀良地区は課題研究の対象地域として新たに追加された地区です。過去のデータなどは何もないので、私たちはまず伊賀良地区がどんな地区であるかを知るところから始めました。

12月には課題研究発表があるので、当日に伊賀良地区の良さを多くの人に感じてもらえるよう努力していきたいと思っています。

教育

伊賀良の写真・絵画展

このたびは、飯田市立第一小学校の児童と、伊賀良地区の高校生との交流会が行われました。交流会では、高校生が事前に準備したクイズやゲームなどを行い、小学生は積極的に参加していました。また、高校生が事前に準備したクイズやゲームなどを行い、小学生は積極的に参加していました。



# 交流会での小学生の感想

今日の5・6時間目に高校生の人と交流がありました。まず最初にアップルロードについて、くわしくわかりやすく話してくれました。そのあと、高校生と一緒にすごろくをしました。最初はきんちょうしていたけど、だんだん仲良くなれました。質問をしたり、恋バナもして楽しかったです。最後は一人ずつ高校生に名前とサインをもらいました。最後に別れるのはつらかったけど、楽しく交流できたし、アップルロードについても学べたのでよかったです。またどこかであったら話したいです。とてもやさしく話してくれたのですぐにきんちょうもなくなって仲良くできて、いい思い出になってよかったです。高校生と交流できてよかったなと思いました。

高校生との交流では、すごろくをやりました。すごろくでは、知らなかったことが知れて楽しかったです。高校生の人もたくさんお話ができたし、高校についていろいろ聞いて良かったです。

高校生との交流では、高校生の方がノリがよくて最高でした。本っ当に楽しくて、いろんな人への感謝しかないです！

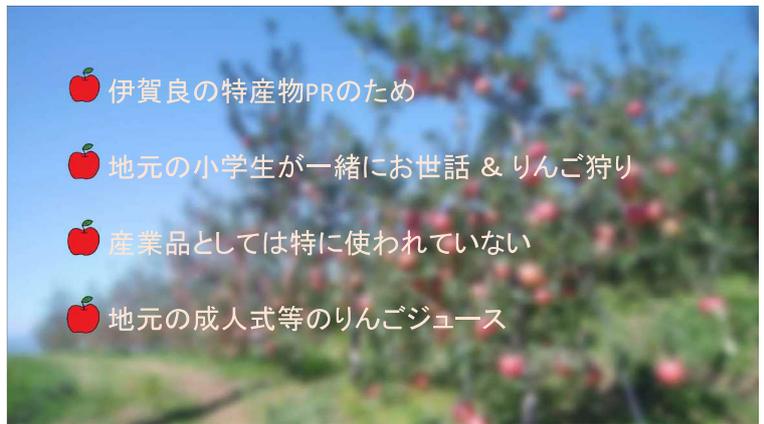
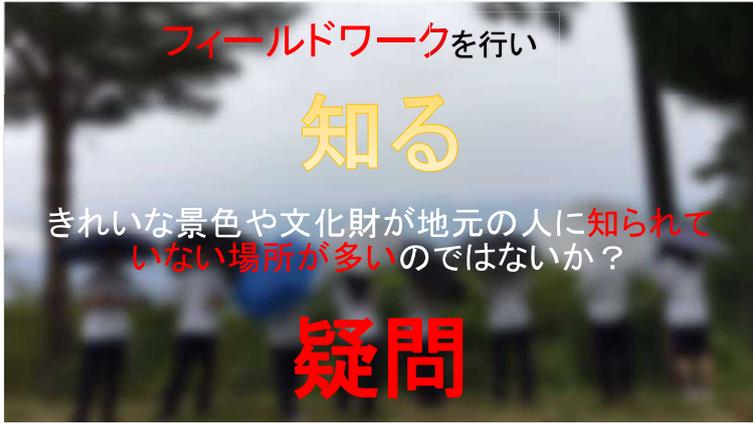
今日は、長姫高校の人たちが来てくれました。一緒にすごろくをしたり、高校生に色々なことを質問したりしました。そして、りんごとテックレンジャーのシールとアップルパイのレシピをもらいました。みんな集まっているので何だろうと思いのぞきました。すると、高校生にサインをもらっていました。なので私もサインを4個もらいました。楽しかったし、色々なことを知れました。

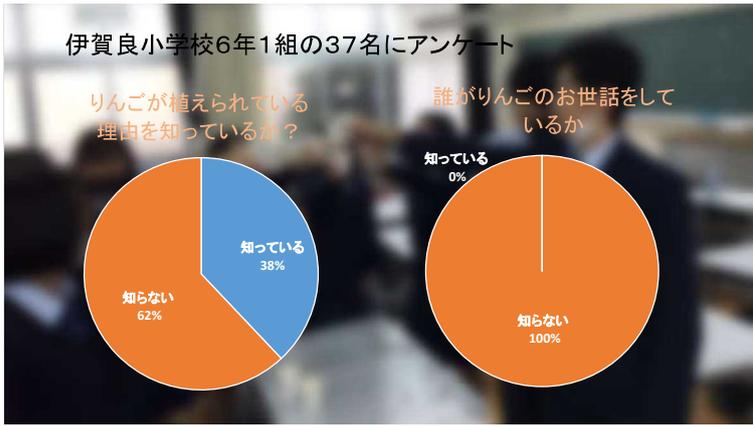
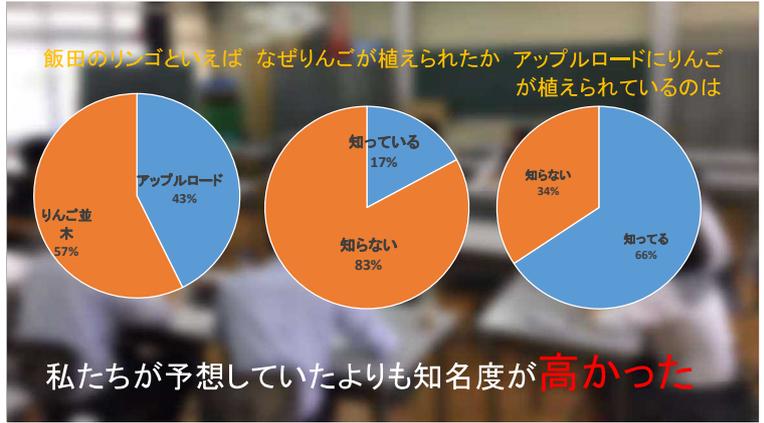
高校生と交流しました。考えた質問を聞いたりしました。恋バナもしたりして楽しかったです。今日はとても楽しく勉強できてよかったです。

高校生との交流がありました。まずはアップルロードについての説明で、すごろくの問題にもあるので、しっかり覚えめました。次に、すごろくで、丸いマスごとにじゃんけんが勝たないと進めないの、運に任せました。あとは自由に質問タイム!!楽しかったです。

今日は5・6時間目に高校生と交流をしました。高校生のみなさんはリンゴ、アップルロードについてくわしく教えてください、すごろくもしました。終わったあと、私の班の担当の方に高校について質問しました。なんでも答えてくれて、たくさん学べました。また、どこかでお会いしたいです。

今日、高校生との交流がありました。ぼくは、高校生とのすごろくで2位だったけど、楽しかったです。高校生にいろいろ質問できてよかったです。また交流したいです。





# 地域の方々と先生・主事さんからのコメント

アップルロードに関しての小学生へのアンケートやその後の接し方はまちづくりのヒントになりました。社会的弱者については、高校生には重すぎるテーマだったかも…  
コロナ禍での弱者に絞り込んでも良かったのでは…

伊賀良まちづくり協議会 会長 宮下 博

伊賀良公民館での写真コンテスト開催や伊賀良小学校の6年1組の皆さんとの伊賀良についてのクイズすごろくなどを見せていただくにつけ、飯田OIDE長姫高校商業科の皆さんの柔らかく温かい発想力に圧倒されました。皆さんの持つみずみずしい感性をますますみがいて、今後のそれぞれの立場でご活躍されることを望みます。ご縁あって学んでいただいた伊賀良のことをふとした日常のなかで折に触れ思い出していただけると嬉しいです。

ありがとうございました。

伊賀良まちづくり協議会 仲田 龍史

半年間という短い間でしたが、伊賀良についてしっかりとまとめる事が出来たことはほんとに素晴らしかったと思います。ただ、期間が短く深く追求することができない状況で大変だったと思います。伊賀良の景観から観光地として見た場合、施設の貧弱さに気づいたときに、改善策等を高校生なりの提言をしても良かったのかなと思いました。具体的に結果を出すことも大切かもしれませんが、高校生だったらこんな場所に行きたいと言う思いを伝えてほしかったと思います。出来れば来年も伊賀良の地域学習を継続していただきたいという思いでいます。私も広報部として多くの提言を発信していきたいと思います。お疲れ様でした。

伊賀良まちづくり協議会 広報部 北林 省治

伊賀良について色々調べ、教えていただきありがとうございました。このような活動を通じてみなさんが経験したことは、大きな財産だと思います。これからも、生まれ育った飯田下伊那地域に愛着をもって大きく羽ばたき、幸せになることを願っています。

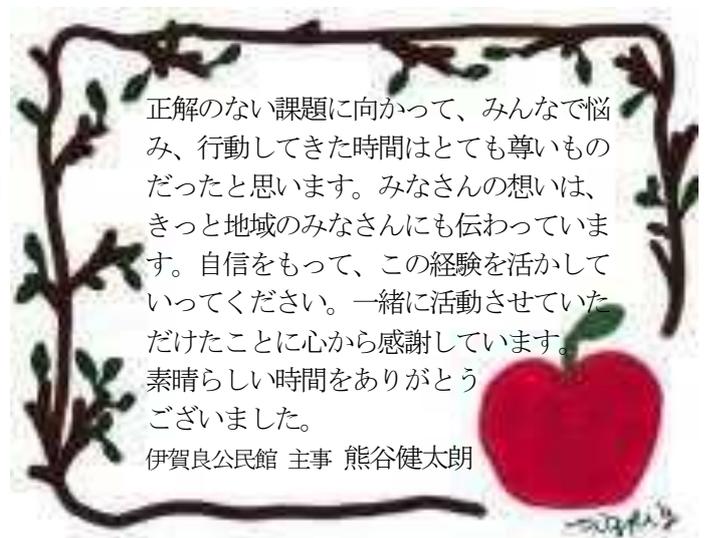
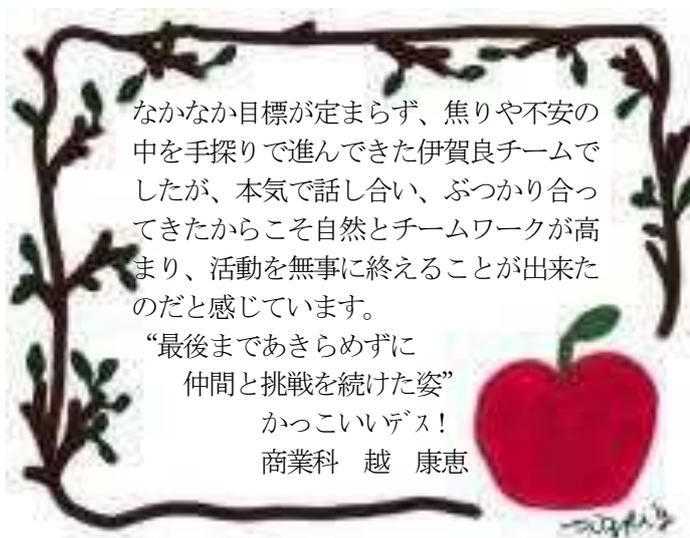
伊賀良自治振興センター 所長 福澤 好晃

伊賀良地区を取り上げていただいたことありがとうございました。ご苦労様でした。

伊賀良公民館 館長 山下 正康

ご苦労様でした。研究発表も聞かせていただき良かったです。この間はアップルロードリンゴ並木の話が中心のようでしたが、とにかく、伊賀良アップルロード開通から伊賀良は都会になってしまいました。小生は、中央道開通前の風景が目には浮かびます。

近藤 純治



伊賀良グループのみなさん  
お疲れさま。  
リーダーらしいことはあまり  
できなかったけど、みんなが  
がんばってくれたおかげで  
みんなになりました!!  
半年間ありがとうございました!

米山 勇太

はじめの伊賀良地区で最初は  
不安でいっぱいだったけれど、  
地域のあそび手さん、先生に  
助けをもらいながら最後まで  
やり切ることができて良かったです!!

坂巻 夢乃

最初は全く伊賀良のことを知らな  
かったけれど、活動を通して伊賀良  
のことを知ることができて良かった  
です! アップル1101イイねえ良かった!!

宮澤 希夢

初めてのアップルで初めての  
伊賀良! 1101で不安ばかり  
だったけれど、全員がやり切る  
ことができて  
良かった!

原 明莉

住んで7ヶ月からないことを  
知ることもできてよかった

上原 里紗

半年間ありがとうございました  
初めての土地区だったので不安  
なことが多かったけど、最後は  
しっかりまとめることができて  
良かったです。

伊賀良地区の方々、先生さん  
の皆さんありがとうございました!!

片桐 誠人

色々わからないことだらけで、  
たくさん問題にぶつかる  
不安ばかりだったけれど、  
最後まで諦めずに  
やり遂げられて  
良かった。  
伊賀良  
LOVE~O  
西川 麻緒

伊賀良地区のことを

知れてよかった

木下 ほのか



古熊の住民の方々、尾澤商店さんはじめ商店の方と出会う。ここで、栄えていた商店街、稲荷町の存在、アップロード建設前後の変化を知ることができ、商店街のことをより詳しく調べる動機につながった。

#### 【9月4日】自治振興センター所長藤本さんとの出会い

数値的なデータの確認のため、自治振興センターを訪問し、人口推移など、人や文化の流れをお聞きした。また、私達がやりたい賑わいのもととなる県の魅力発信についてお伝えすると、伝統文化と県の住みやすさをアピールしてほしいという後押しをしていただいた。ここで悩んでいた活動方針を決定することができた。

#### 【9月11日】飯田商工会議所県支部長戸崎さん、商工会議所県支所の方々との出会い

地区の特徴や商工会議所の役割・歴史、フィールドワークで見つけていた豊栄稲荷神社は、商工会議所が所有する日本唯一の神社だということを知る。そして、この神社に祀られているのはキツネの神様のお稲荷様ということも知った。そこで私たちは、この発見した魅力をどのように地区内外へ発信するかという壁にぶつかった。コロナ渦にあるこの状況を考え、イベントや和菓子を利用した商品開発は断念。話し合いを重ね、豊栄稲荷神社と飯田の伝統工芸品である水引との融合にたどり着いた。

#### 【9月25日・10月15日】関島水引店関島さんとの出会い：キツネモチーフのお守りデザイン考案！

稲荷神社にちなんでキツネをモチーフにした水引のお守りのデザインを考案した。関島さんに依頼し、制作のご指導をいただいた。水引を結った経験が少なく、各自家に持ち帰り淡路結びの練習をしました。淡路結びからキツネの形にし、両端は耳の形に。より狐らしくするために黒の水引で髭も付けた。ストラップ部分はちりめん模様にし、約120個作成。完成したストラップは、みんなの似顔絵が書かれた台紙に神社の紹介、活動への想いを記し、1つ1つ袋に入れた。

#### 【10月15日】商工会員の方々との出会い

地域の方に豊栄稲荷神社への愛着を深めてもらうため、神社の清掃(10月15日)を商工会員の方々で行った。雑草が生い茂りほこりが被った社やキツネの石像が、みんなで協力し行ったことでとてもきれいになった。

#### 【11月7日】豊栄稲荷神社秋季祭礼に参列

当日はあいにくの雨。商工会館の中での神事となった。お稲荷様の好物油揚げが備えられており、商工会の戸崎さんにお供え物の意味を教えていただいたあと、神主さんに玉串奉奠の作法を習った。玉串奉奠とは榊という木の枝にへいそくを結び付け、祈りを込めたものを神様にお供えする儀式のことです。一人ずつ前に行き、とても緊張したが貴重な体験ができた。このとき、私たちが水引で作ったきつねのお守りを、商売繁盛を祈ってお渡ししました。新聞記者の方とケーブルテレビの方が取材に来て下さった。

#### 【12月】活動の振り返り

豊栄稲荷神社をPRするポスターを制作し地区へ掲示のお願いに回った。1つ1つ振り返る中で、多くの出会いから自分たちの考えや気持ちは変化していった事を実感する。

## 5. 考察

私たちは、人が集まる目的になればと魅力発信を試みた。しかし、アンケートを取ることができず、賑わいを多くの場所に広げていく活動につながったか、明確な結果を得られてはいない。けれど、たくさんの記者の方々に取り上げていただいたことで、豊栄稲荷神社を県の魅力を地区内外に発信することはできたと考えている。

## 6. まとめ

この活動は、人から人へつながって今回のテーマである豊栄稲荷神社に行きつくことが出来た。自分の目で見て、体験すること。向き合って想いを伝えること。どうすればいいか迷っているとき、想いを聞いた地域の方が次に会うべき人につなげてくれました。やりたいことが定まらないとき、まずは一歩ずつ確実に、1つに絞る勇気も必要だと教えていただいた。そして、自分が住んでいる地域を思い浮かべながらこの活動を進めることの大切さも同時に感じる事ができた。10地区もある広い県には、まだまだ気づかない魅力があります。

新たな魅力探しにぜひ県へ！

---

## フィールドワーク

---



---

## 水引制作

---



---

豊栄稲荷神社

清掃活動

10月15日(木)

---



---

豊栄稲荷神社 秋季祭禮

11月7日(土)

---









ストラップの完成！



# 県地区ってどんなところ？

名古屋  
下山  
東郷  
西郷  
中平  
上茶屋  
一色  
上山  
切石  
下茶屋

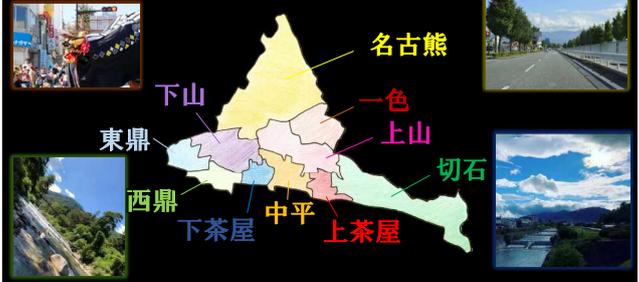
# 県にある日本唯一って...?

～時を超えた魅力の発信～

石田 ひかり 叶 珠莉 土屋 恵美 椎葉 れのん  
菅沼 結衣 牧島 流風 宮毛 涼花 森脇 万友佳

県公民館 矢澤朋子  
担当教員 武藤悠子

# 県地区ってどんなところ？



## 理想の県は...

自然  
交通  
子育て 明るい

## 8月 3日 松川沿い方面 調査



昔は商店街があり、  
栄えていた...

||

稲荷町

## 8月 6日 名古熊方面 調査

- ・アップロード建設前後の変化は？
- ・農地は残ってる？

アップロード付近は住宅街  
アップロードから離れるほど  
農地が広がる

農地・住宅街・商業施設が  
融合した地域

アップロード建設後、  
名古熊地区内で  
買い物が済むように

都会から地元に戻って来る人  
都会から移住する人が増加

アップロード建設前は**反対**

しかし  
完成後名古熊は栄え、便利に

神社は新たな魅力につながる？

交通の便に困っているという声はあまりない...  
ニーズがない上に実現性は低いかも...

一度  
原点に立ち帰ろう！！

## 9月 4日 自治振興センター藤本さん

数値的なデータを確認するため  
「県の魅力発信」について

「伝統文化と県地区の住みやすさを  
アピールしてほしい」

関島水引店  
関島さん

10月 15日  
神社の掃除



## What 端の方の地域は人が行かない

Why 行く目的がない

目的となる**魅力**を探し、

発信しよう！

## 9月11日

飯田商工会議所県支部長 戸崎さん



日本で唯一  
商工会議所が所有する**神社**！！



とよさか いなり じんじや  
豊栄稲荷神社

## 11月 7日

豊栄稲荷神社秋季祭禮



お世話になった方々より

**県公民館 館長 小西盛登さん**

地域をイメージし、フィールドワークの中から歴史ある神社を魅力の一つとして、発信ができました。伝統工芸水引を利用したお守りづくりや神事に参加する等、地域の皆さんとの交流を通して、学習が深められてよかった。

**飯田商工会議所県支部 支部長 戸崎敬さん**

県支部また、お稲荷様に注目していただいた事に感謝したい。生徒さん達と一緒に奉仕活動が出来楽しく、良い時間を過ごせたと思います。ストラップのお守りは私達では気づかなかったでしょう！次回もこのような計画が出来ればぜひご参加頂きたい。ありがとうございました。

**有限会社 関島水引店 関島正浩さん**

一昨年末よりのこのコロナ禍の中... 学生生活や諸々の活動が制約され、限られた時間の中で今回の洗練されたデザインに完成度の高い結びの「お狐様の御守り結び」が、生徒さん達の手から結びだされた事はそのクオリティの高さと共に驚くばかりです。お手伝いをさせていただいた私も、8人の生徒さんの覚への早さやそれぞれの皆さんの技量もさることながら一人一人の個性や得意分野を生かして時間を上手く使って熱意を持って活動されている姿に数年前のスタディ・エッグを思い起こしました。願わくは地域人教育...この活動が生徒の皆さんの人生の思い出の1ページになってくれれば幸いです。これから生徒の皆さんは、それぞれの進路に向かわれていくことと思います。「あの時、水引でお稲荷さんの御守りを作ったよね!!」「あの時、玉串をあげたよね!!」...って心の片隅で結構です、留めておいてください。なかなかにあることじゃありませんから。これからの皆さんのご活躍をご祈念申し上げます。楽しい時間をありがとうございました。

**県自治振興センター所長 藤本勝彦さん**

県地区の状況や歴史、まちづくりや公民館の活動や課題などを課題研究の中で高校生の皆さんが調査し、研究していただけたことは大変うれしく、有意義なことだと感じました。地域を知っていく中で今回は地域に埋もれていた歴史として豊栄稲荷神社を取り上げ、地場産業とコラボしたキツネの水引細工作成は大変面白く、商工会の皆さんも喜んでおられ、良い取り組みであったと思います。

**県公民館 矢澤朋子さん**

最初は、ぎこちなかった皆。それでも、一人一人が、ちゃんと自分のやりたい事や想いを伝え合いながら、一つ一つ皆で決めてきましたね。自分の得意な分野を担当して一つのものを作り上げていた水引制作、皆とても頼もしく輝いていました。

### 森脇万友佳

活動を進める中で、悩んだ時もいつも先生方や地域の方々の言葉に動かされ、助けられ、最後まで活動をやりきることが出来ました。私達だけではやり切れませんでした。本当にありがとうございました。

### 宮毛涼花

今年は例年よりできることが限られていたので最初は何をしたらいいか全くわからなかったけど、たくさんの方に会い一緒に作業をすることができ、自分の知らない場所を知ることが出来て良かった。

### 石田ひかり

キツネの水引を作ったり神事に参加をしたりしていろいろな活動が出来たので良かったです。水引が完成してお世話になった方々に渡したときに喜んでもらったのがすごく嬉しかったです。とてもいい経験になりました。

### 叶珠莉

初め、同じ班のメンバーが発表されたとき普段あまり話さない子ばかりで心配したけどとても楽しい課題研究でした。今年はコロナでイベントとかできなくなってしまったけど、自分達なりに課題を見つけ進められて良かったです。

### 椎葉れのん

自分の地域以外の事をこんなに深く調べた事無かったので新しい事が知れて良かったです。みんなで協力して楽しみながら研究が出来たと思います。

### 菅沼結衣

一つの地区について、約一年間活動してきて自分達なりに地域の人が喜ぶことや形に残るものが作れてよかったです。活動の中で神事や水引づくりなど貴重な体験ができました。

### 土屋恵美

今までとは違って活動できることが限られていたりして最初は悩んだけど自分たちのやりた鼎の魅力を見つけることが出来てそれを自分たちの方法で発信することが出来たのでよかったです

### 牧島流風

課題研究は絶対に行うことだけどきっかけがこの課題研究ということであり自分から鼎の良いところを見つけ、みんなに伝えたいと思えました。この課題研究を通し人と関わる事の大切さを学べたので良かったです。

1年間鼎地区のみなさまにご支援いただき、研究活動を終えることができました。地域のみなさまとの出会いが、彼女たちの心を動かし、進んでいける大きな原動力となりました。温かく受け入れてくださった地域のみなさま、矢澤さん、本当にありがとうございました。

悩み、たくさんのお話し合いを重ね行動してきたこの1年は、鼎の魅力のみならず、8人の仲間との存在と魅力をも感じる1年になったのではないかなと思います。意見が違って話合いを重ねる事、同じ作業を共にする事は、人と人をつなげる大切な要素。お互いを理解し受け入れる近道になりましたね。みんなの心はこの1年で大きく成長しました。キツネのお守りを見るたびに、この1年を、10人で研究した事を思い出しましょうね。

担当教員 武藤悠子

# みんなあつまれ！子ども食堂（鼎地区 2班）



## 【研究メンバー】

安藤 葵 北澤 真緒 黒川 豪晃  
紺野 由姫奈 南坂 悠美 羽場 夏希  
丸山 妃莉 宮島 歩夢  
鈴木 卓（指導教員）熊谷 隆幸（鼎公民館主事）

## 【ご協力いただいた方々】

お食事処 “夢” 夢かなえ食堂 様  
労協ながの 「かなえ〜る」 様  
鼎地区健康福祉委員会 様  
南信州子ども応援プラットフォーム 様  
飯田市社会福祉協議会 様

## 1. はじめに

本校が立地するこの鼎地区は飯田市の中央に位置し人口1万3千人を超え、飯田市では伊賀良地区に次いで2番目に人口の多い地域である。毎日この地区に通学し、当たり前のように歩いているこの町について、私たちはほとんど知っていることがなく、まずフィールドワークを行いこの町の地理や歴史、伝統文化などを見て回った。活動を進めていく中で、この地域の抱える課題がいくつかが見えてきたが、その中で私たちが着目したのが、「子ども食堂」の存在と子どもの貧困・孤食・孤独の問題、また高齢者や子供たち更に地域をつなぐ場が少ないという点であった。これらの点について、現状を調査し自分たちでできることに取り組んでみようという活動を開始した。

## 2. 研究課題

- 子ども食堂を必要とする子どもたち（貧困、孤食、一人でさみしい思いをしている子）にとって温かさを感じられる居場所づくり
- 鼎地区で減りつつある多世代交流を、「子ども食堂」をとおして地域コミュニティの場として復活する

## 3. 研究経過

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 6月 チーム結成               | 9月 新型コロナウイルスに関する活動指針作成  |
| 7月 フィールドワーク、子ども食堂との出会い | 10月 食事の試作、フードドライブの見学    |
| 8月 子ども食堂についての調査        | 11月 イベント開催『おいで子ども食堂』の実施 |
| 【市場調査、問題発見】            | フードドライブ同時開催             |

## 4. 研究内容

### (1) 子ども食堂の現状と問題点について

お食事処 “夢” 「夢かなえ食堂」の北村さんや労協ながの「かなえ〜る」の皆様から、子ども食堂の現状や問題点をお聞きし、この地域における子ども食堂を必要とする子どもたちの存在について理解を深めた。また、鼎公民館さんからこの地域の高齢化の状況や抱える課題についてお聞きした。

一方、子ども食堂や子どもの居場所を提供する団体として活動し「フードドライブ」「フードバンク」も行っている「南信州プラットフォーム」の方に、子ども食堂の意義や時代背景、今後の子ども食堂の方向についても話を伺い、この地域での現状や問題点もお聞きした。また、全国的な統計データも参考にしながら、現在の子ども食堂の現状と今後の方向性についても調べ研究してきた。

### (2) 子ども食堂の開催に向けて

様々な方面からお話をお聞きし調査を進める中で、課題解決の方法として私たち自らで子ども食堂を開催し、実際に存在する問題点を見つめながら、子どもの抱える課題（貧困・孤食・孤独）の解決方法を探り、お年寄りの方々の社会的なつながりを深めることができるのかを、検証することにした。

### (3) 提供する食事の試作

子どもやお年寄りの方にも好んで食べていただくことができるメニューをメインとして考えた。

特にアレルギーに配慮をしながら、またコロナ対策に対応できるような形のメニューを考え試作を行った。

### (4) フードドライブ

子ども食堂等にフードバンクを通して食材を提供するフードドライブについて、鼎地区の健康福祉委員会の方々と連携をしながらフードドライブを開催し、鼎の多くの人にフードドライブについて理解を深め、支えあえる環境づくりができると考えた。

そこで鼎地区で開催予定のフードドライブと子ども食堂を同時開催する事とした。

### (5) 子ども食堂の開催

高校生が主催する『おいで子ども食堂』を鼎上山区民センターをお借りして開催した。

子どもたちが「もう一度来たい！」と思えるような地域に寄り添う子ども食堂にしたいと考え ”おいで”と飯田 OIDE 長姫高校の ”OIDE” をかけた食堂名にした。

また多くの子どもや高齢者が食堂だけでなく居場所として利用していただくことができるように食事の提供だけでなく勉強会やレクリエーションをおこなった。

#### <内 容>

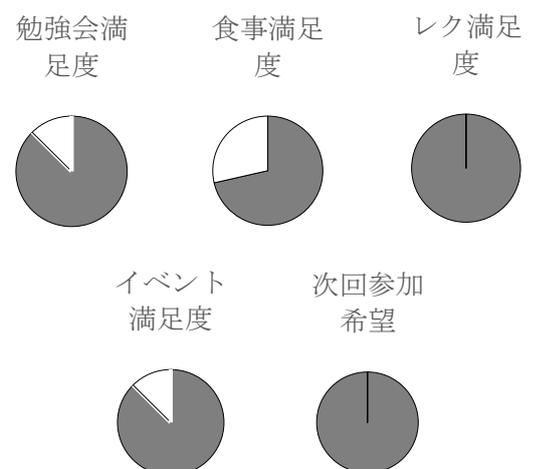
- ・勉強会・・・学年毎に分かれプログラミングの学習（高校生が指導）  
クイズ大会  
お年寄りは別会場（部屋）にてお茶会を実施
- ・調理・・・夢かなえ食堂およびかなえ～の皆さんにお手伝いを頂き、昼食の準備
- ・お食事会・・・カレー、ミニピザ、ミニオムライス、ミニカステラを調理し提供  
フードドライブの関係者にも食べて頂いた。
- ・レクリエーション・・・手作りボーリング大会、人間輪投げ大会、ビンゴゲームを開催  
子ども、お年寄り、スタッフの方も含め子ども食堂関係者全員の参加

## 5. 考察

イベント後のアンケート結果を基に、設定した2つの仮説の検証を行った。

1つ目は、先ほどのアンケートの結果や参加者・スタッフの皆さんの感想から、達成できたと考えます。私たちの想像していた以上の盛り上がりで、とても喜んでいただけました。

2つ目は、おおむね成功だったと考えます。理由としては良い点がお年寄りの方や子どもたちと交流ができたことで、改善点がレクリエーションでは交流ができなかったこと、お年寄りの人数が少なかったためもう少し集められるとよかったということです。



## 6. 今後の課題

今回の活動を通して見えてきたことは、子ども食堂を必要とする子どもの存在と、子どもが安心して学びや食事、遊びが出来る子どもの居場所の必要なことである。こうした場所の提供が貧困の子どもたちを助けるだけでなく、お年寄りの方々を巻き込んだ地域コミュニティとして今後益々重要になってくると思われる。本年度はコロナ禍の中、時間的な制約が大きくこの子ども食堂の開催も一度のみで終わってしまったが、こういった活動が恒常的に行われることが、子どもの貧困の救済や高齢者を含めた社会コミュニティの形成に必要である。

# おいで

同時開催  
県地区フードドライ  
ヴ

# こども食堂



とき 11月21日(土)

10:00~14:00

場所 上山区民センター

参加者 小学生、保護者、お年寄り

内容 ①勉強しよう

②ご飯食べよう

③楽しく遊ぼう

参加費 無料

申込・問い合わせ先

飯田 OIDE 長姫高校商業科 38-712

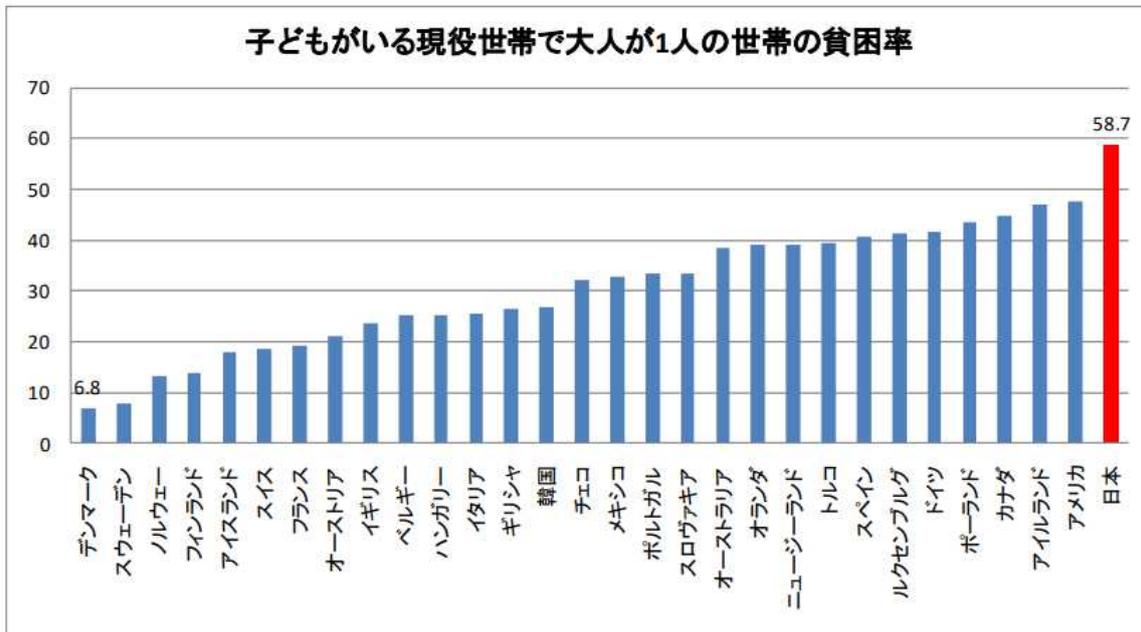
4

主催：飯田 OIDE 長姫高校  
商業科3年 課題研究(鼎  
班)

鼎公民館

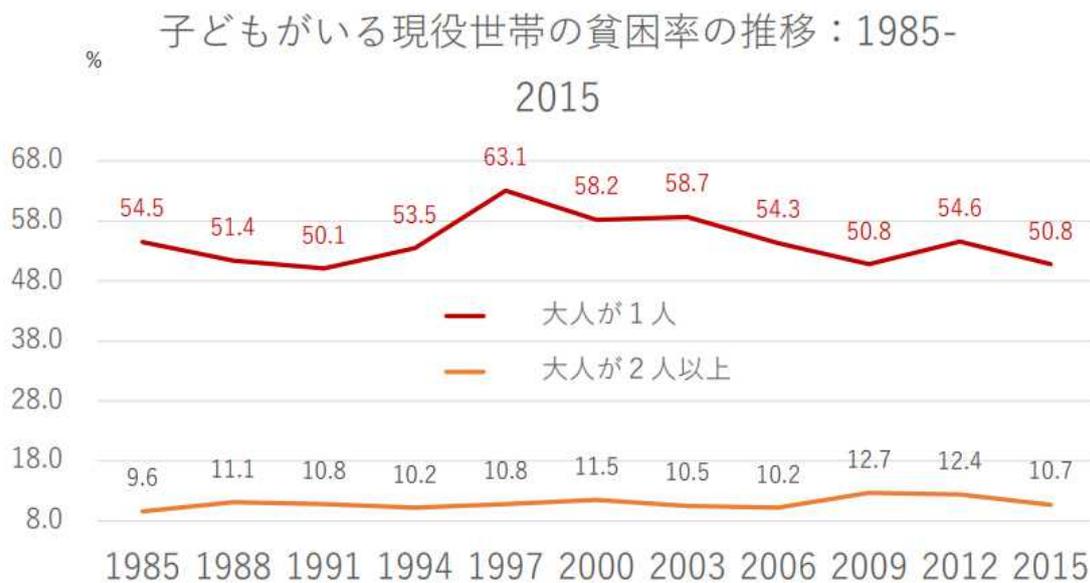
協力：夢かなえ食堂(お食事処夢)

# ひとり親世帯の貧困率は最下位



出所:厚生労働省(2009)「子どもがいる現役世帯の世帯員の相対的貧困率の公表について」報道資料2009年11月13日

# ひとり親世帯の貧困率の高さ



- 依然として50%を超える。2009年から2012年にかけて上昇。2015年には2009年レベルまで減少。

出所:厚生労働省(2017)『平成28年国民生活基礎書の概況』

# おいしく子ども食堂

## Recipe



### ミニオムライス

材料

ニキレイ 冷凍食品、チキンライス or エビピラフ  
卵、ケチャップ、牛乳

作り方

- ① たこ焼き器を用意します。
- ② 卵を2〜3個(4人分)割ります。
- ③ 卵を混ぜている間に、電子レンジでチキンライスを温めておきます。
- ④ たこ焼き器に油を多めに入れ、卵を1/3入れます
- ⑤ 卵がはかばかになるまで、チキンライスを入れます
- ⑥ くるりとひっくり返して半分の状態にします
- ⑦ さらに卵をそとぎ半分の状態になっているものでふたをします
- ⑧ 1〜2分置いたら、卵がはかばかになるので、くるとし、丸く形をととのえます。
- ⑨ お皿に盛り付けをして、ケチャップをかけて 完成

卵と牛乳は2:1の割合で入れるといいよ!



## 子ども食堂

活動制限 レベル	判断基準	イベント (レクリエーション)	お料理教室	学外活動 (聞き取り調査)	
1	長野県での コロナ指数が1	ビンゴ、手作りボリッパ 輪投げ お勉強会、お茶会	感染防止に配慮して 通常通りに実施 内容 お料理教室	感染防止に配慮して 通常通り実施 (室内◎)	1
2	長野県での コロナ指数が2	ビンゴ、手作りボリッパ 輪投げ	感染防止に最大限配慮 した上での実施 内容 高年齢がおりため 提供したとち配付	感染防止に最大限配慮 した上での実施 (室内0~10人◎ 外◎)	2
3	長野県でのコロナ指数 が3、飯田市での新規 感染者が2週間以上、 居る場合	ビンゴの景品 を提供	感染防止に配慮し 相手の情報を得た上での実施 内容 自作の提供× 店舗の提供を行う	人数制限をかけ 密にならない状態での 実施(室内△~5人) 外◎	3
4	長野県でのコロナ指数 が4以上ある、飯田市での新規感染者が 2週間以内に発生した場合	中止	中止	中止	4
5	長野県でのコロナ指数が4以上 飯田市での新規感染者が 複数居る場合 クラスターが発生した場合	中止	中止	中止	5



\*フィールドワーク・話し合い 県地区の探索!!!





\*子ども食堂 ~フードドライブ同時開催~



## <地域人教育一年間の感想>

私が3年生の授業の中で一番やりたくないと思っていたのが地域人教育でした。みんなとイベントを企画し、地域の人と協力して行う活動だと聞いていたからです。自分の意見を言うことも、注目を浴びるようなことも苦手で、自分にはとても荷が重いだらうと思っていました。

本格的に地域に出て活動するようになってから、多くの人に出会いました。みんな協力的で、多くの面で助けていただきました。知らない人と交流するのが苦手な私にも積極的に話しかけ、活動のアドバイスをくれました。今までの先輩方が地域人教育を好きになった理由もわかる気がします。

イベントを行う上で、話し合いを何度も行いました。存在しない正解を探っているような感じがして、最初は落ち着きませんでした。ですが、正解がないからこそ間違いもなく、自分の意見を少しずつ言えるようになりました。自分が考えもつかなかった意見が出たり、自分の意見から新しい案を考えてくれたりと、わくわくすることも次第に多くなっていきました。今は地域人の話し合いが楽しかったと自信を持って言えると思います。

私は地域人教育をやってきて、前の自分よりも成長できました。それがただの小さな一歩だとしても、これからの生活で大きな自信となって私を助けてくれると思います。まだ苦手意識はありますが、この学校で地域人教育をできてよかったです。  
(安藤 葵)

今年の地域人教育は新型コロナウイルスの影響によって、半年間だけの活動

という異例のスタートを切ってしまいました。当初私は、この先の活動への不安感により、あまり乗り気になっていませんでしたが、それでも時間を重ねていくうちに、自分たちがやるべき活動の前提として子ども食堂の発見、またその発見により、様々な出会いと交流を重ねました。「夢かなえ食堂の北村さん」・「労協かなえーる」の方々の話を直に伺う中で私は、子ども食堂という存在は、子どもたちとの交流を大切にしていき、子どもたちの笑顔とこれからの未来での成長を祈って繋げるための活動だと感じました。

誰かのためにそこまでの活動をしている人達を間近で見て、社会に出て仕事を始め、続けるうちに自分も地域の誰かの助けになり、役立てられるようにしたいと活動を終えてそう思いました。

今回の活動を通して私は人と人との繋がりの素晴らしさや、誰かのために優しい活動を続けていくことの凄さなど、たくさん意味のある経験ができた実感できました。そして、グループメンバーや担当の先生や主事さんとの交流を積んでみて、今までは、苦手意識を持っていた人付き合いも自分の心の持ち方で楽しくもなることを知れました。今回の活動を無駄にせずに、前に進み続けていきたいです。  
(宮島 歩夢)

今年は新型コロナウイルスの影響により、例年より二か月程遅れてスタートしましたが、このコロナ禍だからこそできることもあると思ったので僕はわくわくしていました。活動地区は鼎地区に配属され、担当の鈴木先生と主事の熊谷さんとメンバー8人で活動することになりました。全然話したことのない人が多く、最初はあまり意見を出せなかったのですが、次第に周りのメンバーとも仲良くなり意見も活発にだせるようになりました。僕たちは子供食堂をテーマに活動することにし、その中で地域の方々の優しさや人の繋がりの暖かさを感じ、改めてこの活動をやってよかったですと感じました。中でも、みんなずっと目標にしていって、たくさん準備をして迎えた実際の子供食堂のイベントでは、たくさんの方が来て楽しんでくれて、僕自身もすごく楽しく、終わった後は達成感がとてもありました。

今回の地域人教育を通して、自分の意見をちゃんと言葉にして伝えることの大切さや、地域の方の暖かさを知りました。今後の生活でも、「自分の意見をしっかりいうこと」、「困っている人がいたら手を差し伸べてあげる」2点を大切にしたいです。みんなありがとう！！！！  
(黒川 豪晃)

初めて課題研究を行って、楽しみな気持ちでしたが少し不安な気持ちもありました。始めは、鼎を知ることから始まりフィールドワークやグループのみんなで考えたり館長の話の話を聞きました。私たちは、予想以上に鼎につい

て知らないことを知ることができました。同時に鼎について少し知ることができうれしかったです。

子ども食堂を開催することになり初めてイベントを計画したり広告を作るとはとても大変で難しかったです。新型コロナウイルスを配慮しイベント内容を決めることが特に大変でした。ですがグループのみんなと何回も話し合い試行錯誤しなんとかイベントを完成させることができました。そして本場は、成功させることができました。

今年は、例年よりも始まるのが遅くやれることも限られている中でどうやって行くかたくさん悩みました。もともと、この地域人活動に憧れ高校に入ったのですが早く終わりたいと考え弱気になってしまう事もありました。でも実際にイベント開催することは本当に楽しかったし充実した課題研究になりました。一年間ありがとうございました。  
(南坂 悠美)

私は一年間課題研究をし、頑張ったことは人に自分の意見などをわかりやすく伝えることです。その場面は二回訪れました。まず、高校生が主催する「おいで子ども食堂」と鼎地区の健康福祉委員会が主催する「フードドライブ」を同時開催してもらいたいと頼みに行ったことです。教師や親以外のおとなに自分の意見を積極的に話すことは今までほとんどなく、とても緊張しました。さらに抜こう側に変更してもらいたかったため、相手を交渉する必要がありました。どう説得すればいいのかということや、自分がやりたいことをその場で端的にまとめるということはとても難しかったです。次に、課題研究発表会での発表です。私たち鼎班は、文章を暗記して発表しました。私は暗記がとても苦手で、発表前日まで覚えられずとても困難しました。しかし、発表を聞いてもらう人たちに伝えることを意識する必要もありました。だから前日は母に何度も聞いてもらい練習しました。  
(羽場 夏希)

6月から鼎地区のメンバー8人と主事の熊谷さん、担当の鈴木先生と活動してきました。最初は自分で積極的に意見を発言することが苦手でしたが、地域の人と関わることで自分の意見を積極的に伝えることの大切さを学ぶことができました。また課題について「子ども食堂」という内容はこの地区だけでなく全国の問題にもあたり、解決する課題として設定するには難しいものだと感じました。ですが、「夢かなえ食堂」の北村さん、「かなえ〜」の方々と交流し話し合いを行う中で、鼎地区の抱えている課題と子ども食堂の課題が一致し、全員が課題解決に向けて頑張ることができたと思います。

今年は新型コロナウイルスの影響により、半年遅れのゼロからの活動でしたが自分たちの納得のいく地域人教育ができたかと思っています。この8人で活動できたことはこの先一生の思い出になると思います。鈴木先生と鼎地区班、約半年の間でしたがありがとうございました。大好きです！  
(紺野 由姫奈)

この活動をふりかえってみると、「課題を見つけ、それを解決するためにはどうすればいいのか」これらを決めるまでが大変で、更に課題解決するためには私たちの力だけでなく、色んな人の力も必要で、とにかく大変なことだらけでした。フィールドワークをし、「子ども食堂」について活動し始めて、実際に自分たちで「子ども食堂」を開催することになった時、正直このイベントが成功するのかも分からず、すごく不安でした。それでも班のみんなと何度も何度も話し合い、たくさんの方々にも支えてもらい、無事成功させることができうれしかったです。鼎地区について何も知らなかった私たちが、1つの課題を解決しようと活動してきたこの1年間は、とても充実したものでした。

コロナの影響で活動し始めたのは6月からで、例年よりは活動期間が短かったですが、鼎地区の班のみんなとできてよかったです。この活動に携わり、協力してくれたみなさん。

1年間、ありがとうございました。  
(丸山 妃莉)

この1年間の課題研究の活動はとても充実したものでした。始めの頃は、なかなか鼎地区の課題が見つからなくて話し合いが多かったですが、方針が決まってからはとても忙しかったし、濃い時間だったと思います。子ども食堂については名前を知ってはいましたが、内容までは詳しく知らなかったので自分たちが実際に子ども食堂を開催できるのか、不安に思っていました。本当にたくさんの方々も携わってくれて無事に成功させることができ

ました。子ども食堂開催のための準備では夜遅くまでみんなで残ってイベントに使う道具や、しおりなどを作ってとても大変でした。でもその分すべての準備ができた時の達成感は大きかったし、そういう時間があったから班の団結力も強まり、より仲良くなれたと思います。正直、これまでより2か月も遅いスタートだったので出来ることも限られているから大々的なことはできないだろうと思っていましたが、想像していた以上に自分たちでも満足できる良い活動になったと思います。本当に楽しかったです！1年間ありがとうございました。

(北澤 真緒)

## <お世話になった皆さんより>

10月初旬ごろに、当委員会が行うフードドライブと飯田 OIDE 長姫高校の生徒さんが計画したこども食堂の同時開催しては如何かと、お誘いをいただきました。

当初話を伺う中では、同時開催することでの意義やメリットは理解できるけども一緒にやって大丈夫だろうかと思いましたが、自分で考え、発言しているのを見るにつれ、その点は解消されました。

コロナ環境下の中で、こども食堂を行うということは、慣れないこと・想定していないことが多くあったと思いますが、いくつかの団体の力も借りながら、問題を一つずつ整理し、取り組んでらっしゃいました。

同時開催の当日は、来場者・スタッフともに楽しまれているのも伺え、私ども委員会の面々も楽しませていただくとともに、フードドライブの方も多くの食材をお預かりすることができました。

今回のお誘いは、鼎地区の新しい取組のスタートには大変ありがたいことでした。改めて共同事業者として御礼申し上げますとともに、皆さんのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

(鼎地区健康福祉委員会 事務局 有吉拓人)

こども食堂の事で当社を訪問されて以来、何回か当社こども食堂スタッフも交えてミーティングを重ね、11月21日の「おいで子ども食堂」開催となりました。新型コロナウイルス感染拡大の中、開催があやぶまれましたが無事開催出来て良かったです。

高校生がこういった地域の事に関心を持たれて、地域の課題や問題点等を見付け出して自分たちの出来る事を考え企画して、実際に開催にまでこぎつける事が出来たことは、若い皆様にとっては今後の人生のなかでたいへん貴重な経験となることでしょう。今後もこういった事に関心を持たれ、私達ともまたコラボしていただければと思います。

(労協ながの かなえ〜る 飯田所長 福澤 信男さん)

鼎地区2班で活動された皆さん、お疲れさまでした。

「やりたいことをやった」活動ではなく、自分たちなりに調べ、誰かの想いや願いに触れ、考え、その上でできることに挑戦できた、良い活動だったと感じています。

この「地域人教育」は、マーケティングと似ています。課題を探り、解決手段を考え、実践し、検証する過程があります。ただ違うのは、マーケティングは利益を生み出すための手法。地域人教育は、皆さん自身の豊かな人生と幸せな社会を創り出すための学びでした。

活動を通して見えた課題や、触れた想いは大事ですが、学んだことはより尊いと思います。これからの長い人生、自分の感性を大切に、観て、考え、行動し、振り返り、豊かな人生を歩んでください。皆さんの幸せを心より祈念しています。

(鼎公民館主事 熊谷隆幸さん)

# 私の遠山郷 ～ここには会いたくなる人がいる～



## 【研究メンバー】

梅澤 那緒 櫻井 友菜 下澤 摩倫 高橋 好  
 棚田 秀樹 知久 絢音 蜂谷 夏未 若山 李乃  
 計 8名

國松 秋穂 (指導教員)

脇田 久世 (飯田市公民館 社会教育コーディネーター)

## 【ご協力いただいた方々】

(敬称略)

和田宿にぎやかし隊	酒井鉄工モーターズ
遠山郷観光協会	マルダイ養蜂場
地域おこし協力隊	殿町の茶屋 かたくり
平山様 水戸様	COM(M)PASS HOUSE & 仲間たち
ゲストハウス太陽堂	ゲストハウスやまでら
マルモ商店	釣堀 澤庄
肉のスズキヤ	木沢地区活性化推進協議会
坂本養魚場	松本大学 田開ゼミ
ばていすり草かんむり	上村・南信濃公民館
花火師 伊崎将夫 様	飯田市役所 企画課

## 1. はじめに

全地区班、通称國松班は特定の研究地域がありません。そこで私たちは各自がやりたいことを出し合い、それが実現できる場所はどこか話し合った結果、遠山郷で活動することを決めました。班員それぞれが研究テーマをもち、実践することは協力しあいながらすすめることにしました。



図1：スズキヤさんでの様子

## 2. 研究課題

私たちは7月の現地調査や9月に参加した学輪 IIDA 遠山郷エコ・ジオ・フィールドスタディなどで遠山郷の魅力探しを行い、これら調査で得た情報を糧に自分たちが遠山郷でどんなことがしたいかを明確にしました。そして、祭り、観光ツアー、食を通じた交流、商品開発(土産)、自然体験を研究課題(テーマ)に掲げ、それぞれが企画を立て、実践をしました。

- 祭り：コロナ禍でなくなった各地のお祭り。自分たちで祭りを主催し、地域の人とともに楽しめるのか。
- 観光：コロナ禍でも楽しめるマイクロツーリズムと、若者が楽しむ遠山郷ツアーを開催できないだろうか。
- 交流：遠山郷に若い人(10～20代)が集まる場所があるのか。若い人たちと交流することは可能か。
- 土産：お土産で遠山ジンギスや藤姫饅頭に代わる、日持ちする可愛いお土産を開発できないだろうか。
- 自然：遠山郷の雄大な自然をもっと体験できるアクティビティはないだろうか。

## 3. 研究経過

6月 チーム結成	10月 上村 野牧さんヒヤリング
7月 活動地域 遠山に決定 初遠山郷	南信濃で祭り打ち合わせ・宣伝 遠山フィールドワーク
8月 白戸先生 相談会	アマビエハロウィン&遠山観光ツアー
9月 学輪 I I D A 遠山郷フィールドスタディ 参加 上村 柄澤さんヒヤリング	11月 遠山ターン者との交流 in コンパス はちみつについての調査&商品開発

## 4. 研究内容

- ・祭り「アマビエハロウィン」の開催 【参加者：全員 担当：梅澤、櫻井、下澤、蜂谷】  
 遠山郷で地域づくりを実施されている和田宿にぎやかし隊の方をはじめ、多くの地域の方々に協力してもらい、上村、南信濃地区で初めてのハロウィンに関連した祭りを10月31日(土)に開催しました。飲食ブースや射的ブースなどの屋台を並べるとともに、仮装大賞などのイベントも実施し、夜には花火を上げることができました。コロナ禍のため、上村、南信濃地区に住む方限定のお祭りでしたが、地域の子もたちからお年寄りまで参加してもらえ、私たちが想像した以上の盛り上がりとなりました。後日、和田宿にぎやかし隊の方からお誘いいただき、11月21日(日)南信濃芸術祭でも射的ブースを設け、地域の幼児や小・中学生に楽しんでもらいました。
- ・若者向け遠山観光ツアー 【参加者：3F宮下、3G北澤、知久 担当：知久】  
 これまで、自分たちが訪れたりした場所や交流した人、遠山郷ならではの食事などを盛り込んだツアーを企画し、10月31日(土)に同級生2人を連れてモニターツアーを開催しました。

【行程】下栗の里 : ビュースポットで映える写真をたくさん撮影しました。  
ゲストハウスやまでら : 野牧武さん&もと子さん夫妻のあたたかいおもてなし料理に舌鼓。  
旧木沢小学校 : レトロな雰囲気満載の建物とたかね校長(猫)に癒されました。  
同級生から「とっても楽しかった。また行きたい。」などの感想をもらいました。このことから、遠山郷は地元(飯田下伊那)の高校生でも十分楽しめる地域だということがわかりました。

・Iターン、Uターンした若い人との交流会 【参加者: 棚田、若山 担当: 若山】  
シェアハウス「COM(M)PASS HOUSE」の住人、遠山さんに協力してもらい、遠山郷に住む若い人でUターン、Iターンした方との交流会を11月8日(日)に実施しました。当日は遠山名物の「遠山ジンギス」をいただきました。(Uターンとは地方で生まれ育った人が都会で就職して働き、その後また生まれた地方へ戻ること、Iターンとは都会で生まれ育った人が地方へ就職・転職することを言います。)この交流会を通して、遠山郷に若い人がなぜ戻ってきたり、移住するのかがよくわかりました。

・新たなお土産の開発 【参加者: 全員 担当: 櫻井】  
南信濃で養蜂をされている大屋敷さんに協力してもらい、遠山郷産のはちみつを生かしたあらたな商品やパッケージについて考案し、実際に制作(実践)しました。現在、販売までは至っていませんが、今後販売に向けた提案活動を実施していきます。



図2: 容器の研究

・遠山森林鉄道の跡地巡り 【参加者: 高橋、棚田、若山 担当: 高橋】  
遠山郷の森林や川に魅了されたことから、もっと自然体験ができる場所はないかと探したところ、遠山森林鉄道の跡地を散策できるということがわかり、11月15日に現地を訪れました。当日は森林鉄道の跡地を歩き、長瀬橋という場所からドローンで風景を撮影しました。天気が良く遠山の素晴らしい景色がドローンによって360度眺めることができました。

・全体統括 【担当: 棚田】

## 5. 考察 【それぞれの企画、実践について、どのような成果があったのか】

祭り: 地域の方から大変好評で、またお祭りを開催しようという声もいただきました。また、このお祭りを通して、遠山郷にぎやかし隊の皆さまや住民の方たちと仲良くなれました。遠山郷の方たちが普段からとても近い距離感で過ごされていることにうらやましく思いました。  
観光: 参加した同級生から高評価をもらい、うれしかったです。今後、おもてなしくださったいただいた野牧さんご夫婦や主事の亀井さんなど地域側の声を聞いてみたいです。また、後輩にはこのツアーをビジネスとしての検証してもらいたいです。  
交流: コロナ禍のため自粛中ですが、若い人がCOM(M)PASS HOUSEに集い、交流していることがわかりました。自分たち高校生にも関心を持ってくださり、これからの人生に役立つ様々なことを熱くお話いただきました。また、この交流から遠山郷で暮らすことを考えるようになりました。  
土産: 11月からの活動だったということもありましたが、はちみつを活用した料理を実際に作って全員で試食を経て、新たなクッキーを考案できた。また、容器を実際に購入して入れ替えるだけでも印象が変わるのかと驚きもしました。地域の方に披露し、ご意見を頂戴したいです。  
自然: 参加できませんでしたが、南アルプスのエコ登山や遠山川でのラフティングやキャニオニングも体験できることを知りました。また、釣りにも興味があったので、遠山郷での釣りの名人(松下さん)や釣り堀を経営している方(柄澤さん)にもお話を聞くことが出来ました。

## 6. 終わりに ~「関係人口」のその先へ~

遠山のことを知っているメンバーはわずか2人で、その他の6人はまったく知らない状態から研究活動が始まりました。結果として、一人一人が違うテーマを持ち行ったことで企画がたくさんでき、且つそれら企画にみんなで協力して取り組めたことが良かったです。また、私たちの活動には遠山郷の方の多くの支援がありました。そして、どの企画も私たちの想いと地域の方の想いがたくさん詰まっていたと思います。このような関わり合いがこれからも遠山郷と私たちをつないでいってくると私たちは活動を通して感じました。



図3: 下栗の里

最後に本来は一年間の活動が行えるこの地域人活動でしたがコロナ禍で活動は約半年間になってしまったことがとても残念です。できればもっと活動したかったのですが、私たち國松班は半年間で遠山郷の魅力に触れ、遠山郷の方の温かさに触れ、多くのことを経験して成長できたとともに、遠山郷の皆さんと「関係人口」になれたと思います。だからこそ、「私と遠山郷」といった離れた関係ではなく「私の遠山郷」とし、地域人教育における私たちの遠山郷物語 第1章を閉じます。第2章へと続く。(次は成人編かな?)













# 1年間の活動をふりかえって



私は最初、遠山郷がどこにあるのさえわかりませんでした。初めて遠山に行った時は自然がいっぱいだけどなんにもないなあと思いました。しかし、ゲストハウス太陽堂の水戸さんの話を聞き、ここの住民の方たちはとても親切でいい人たちなんだろうなあということがわかりました。実際にお祭りを開くことになった際、まずリモートで和田宿にぎやかし隊の方たちと話しました。緊張していましたが、いつのまにか普通に楽しく話している自分がありました。人に心を開くのに時間がかかるこの私でも、すぐに心が開けたのは、遠山郷の地域の方がフレンドリーで話しやすいからなんだと思いました。

遠山郷に行っておどろいたこともあります。「アマビエハロウィン」のチラシをにぎやかし隊の方と一緒に地域のお宅に配る際に、それぞれのお宅に勝手？に入ってしまったことです。自分の住んでいるところでは考えられないことなので、ここの地域には信頼関係があるんだと思いました。そんな地域、地域の人たちだったからこそ、お祭りが開けたんだなあと思いました。

遠山郷で活動ができ、この地域の人たちと出会うことができ、遠山郷のいい所を知ることが出来て良かったです。

地域人教育でいろんな活動をして、私自身、自分で行動にうつす力が身に付いたと思います。この授業ができてよかったです。  
(梅澤 那緒)



私は地域人教育を受けることが出来て本当に良かったと思っています。

優しくて温かく私たちを受け入れてくださる方ばかりの遠山郷で活動をするのができ、充実し、またとても貴重な経験となりました。

自分たちで企画したものを多くの協力を得ながらも実行することができた満足感や、活動を行うことで、その地域の人たちに喜んでもらったことの達成感を味わうことができました。また、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々と協力することで、世代を超えたつながりもできたと思います。こうした色々な人たちと関わる中で、遠山郷の良さやそこに住む方々の良さを感じることができました。

多くのことを学び、経験することができたのも、同じグループのみんなや、遠山郷の皆さま、脇田さん、宮田さん、亀井さん、担当の國松先生のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。  
(櫻井 友菜)



私は地域人教育が始まって、最初の頃は新型コロナウイルスの影響で何が出来るのかわかって思っただけ正直何も出来ないと思っていました。ですが、遠山郷という地域で祭りを開催することが出来て良かったと思いました。遠山郷は小さい頃行ったことはあったけど、あまり知らない地域でした。ですが活動を通して遠山地域に住んでいる方はとても優しく面白い方が多くてとても好きな地域になりました。遠山には「和田宿にぎやかし隊」という組織がありそのメンバーの方々は地域を賑やかしたいという思いが強く、一緒に祭りをやりたいと言った時も快く引き受けて下さりました。準備の時も積極的に協力してくれる姿、もっとにぎやかすために意見をくれる姿からほんとに遠山が好きなんだなと感じました。その方々の存在が地域を明るくしているということも学ぶことが出来ました。

そして、この1年間遠山郷で活動できたのは主事の脇田さんを始め南信濃、上村の主事さんの協力があったこそだと思います。地域人教育は自分自身を高める上でもとてもいい活動だと思うし、自分自身、地域人教育があってこの授業を受けることが出来てとても良かったと思います。この1年間を通して、将来もっと地域に関わりたいと思うことが出来ました。  
(下澤 摩倫)



## 1年間の活動をふりかえって



僕はこの一年間、地域人教育の授業で遠山郷について勉強してきました。僕は今まで遠山郷に行ったことがなく、どのような所なのかもよく知りませんでした。授業で遠山郷について調べていく中で、遠山郷は自然が豊かであることを知り、遠山郷の自然について勉強したいと思うようになりました。

遠山に行ってみて、最初に思ったのは山が近いということです。行く前から自然が豊ということは聞いていましたが、思っていたよりも自然が壮大で驚きました。

また、僕たちは遠山郷フィールドスタディに参加しました。僕は地形・地質チームとして、山や谷をドローンで撮影しました。ドローンで撮影することによって、人の目では見られない景色を見られたので良かったです。また、秋に遠山森林鉄道の線路跡に訪れ、そこでもドローンでの撮影をしました。遠山森林鉄道はかつて材木などの運搬に使われていた鉄道で、その跡が今でも残っているということに、驚きました。撮影もうまくいったので良かったです。

一年間の地域人教育を通して、遠山の自然、歴史、文化など色々なことを知ることができました。また、遠山郷の人たちは皆とても親切にしてくれてとても人が温かい地域だということも知ることができました。また、遠山郷の人たちは皆知り合い同士で人と人とのつながりを大切にしている地域なんだなとも思いました。僕も将来は人と人とのつながりを大切にできる大人になりたいと思います。

(高橋 好)



私はこの地域人教育を通して、こんなにも温かい心を持った方がいるのかと驚きました。私が住む下條村も地域の方々には道ですれちがう時などに挨拶をしてくれるのですが、遠山郷では挨拶だけでなく、一言二言会話をしている姿を見ました。これは地域の方々が温かい心を持っていることで、心に余裕が生まれ、ひとに優しくできる。だから優しくされた人が心に余裕ができたときに他の人にも優しくする…という、優しさが循環しているからだと思いました。私は最初、地域人教育の授業にはあまり乗り気ではありませんでした。ですが、やる前はめんどくさいと感じていても、終わるころには達成感と満足感で満たされていました。

この授業があったことで、普段では気にも留めないようなことに気が付いたり、やりたいと思っていないこともやりたくなったりするようになりました。地域人教育を行ったことで普通科しかない進学校と呼ばれるような高校に入学するより本校の商業科に入学した方が格段に良かったのではないかと、卒業間近に改めて感じました。まだまだ自分の研究テーマでやりたいことは残っていたし、この班のメンバーで何かするのももうなくなってしまうのかと考えると「まだやりたかったな」と感じるほどに楽しかったです。

(棚田 秀樹)



私は行ったことがなかった遠山郷に興味を持ち、活動場所を決めましたが、1年間の活動を通して想像していたよりたくさんの経験ができ、充実した活動になりました。遠山の方たちは私たちに様々な場面で快く協力してくださり、優しくして遠山郷のことが好きな方ばかりなのが分かり、素敵な場所だなと感じました。

私は観光がテーマで、遠山郷を楽しめるツアーを企画して実行しました。1年間で様々な活動をしました。ツアーでより遠山郷の良さを感じたり、新しい発見もできたりして自分自身が楽しんでやることができました。普段はできない貴重な体験ができ、遠山郷で地域人教育ができて良かったなと思いました。

また最初は、グループの人たちと上手く活動していくことができるか、自分で決めたテーマについて良い成果を出せるかなど不安でしたが、協力し合って活動ができ、学んだことや成長できたと思う部分が多くあったので満足できる地域人教育になりました。この授業がなかったら遠山郷に興味をもったり、地域の方たちと関わったりする機会はなかったと思うし、たくさんの発見や成長ができたので地域人教育を受けられて良かったと感じています。今後も学んだ地域の良さを忘れないでいたいと思います。

(知久 絢音)



# 1年間の活動をふりかえって



今までの先輩方はとても楽しそうに課題研究に取り組んでいた人が多かったので、私は課題研究を凄く楽しみにしていました。きっと、好きなメンバーとチームを組めると思っていたのですがメンバー決めがランダムになってしまったので一気に不安になりました。しかし運が良いことに仲の良い子たちと一緒になれたのでハッピーでした。

全地区ということでしたが、遠山郷に興味を持つメンバーが何人もいたので地区はばばっと遠山郷に決まりました。國松先生がやりたい事とかないの？例えば花火とか〜って色々提案してくれた時に花火とお祭りをやりたい！とひらめきました。みんなそれぞれ

遠山郷でやりたいことを見つけて、それぞれ組み合わせる形になりました。地域のためになることをするというよりか、自分たちがやりたいことをやろう！という國松先生の教えをモットーに取り組みました。

遠山郷の方々は会ったこともなかった私たち高校生に分け隔てなく接して下さい、たくさんご協力くださいました。そして、私が遠山郷を大好きになるための手助けをして下さいました。初めてどこかの関係人口になれて本当に嬉しかったです。自分がやりたかったことを全てできたといっは過言ではないです。本当に貴重な経験が出来ました。

遠山郷のみなさん、脇田さん、そしてなんとと言っても國ちゃん本当にありがとうございました。

(蜂谷 夏未)

この約半年くらいの時間で自分は今までよりも多くのことに挑戦し多くのことを学びました。その背景にはお世話になった遠山郷の方たちがいます。今回はそこにも触れながら遠山思い出ランキングを発表したいと思います。

## 第3位→アマビエハロウィン

皆でやった大きな企画のひとつです。大勢が集まってくれてほんとに良かったし祭り企画した4人がとっっても楽しそうでこっちも嬉しくなった。コロナ禍でも屋台が出たし美味しいもん沢山食べられて花火まで上げさせてもらってとても充実しました。

## 第2位→焼肉交流会

自分と遠山さん (COM(M)PASS HOUSE) で企画して実行出来たとても自信に繋がる企画です。地域人教育が始まってからずっと若者との焼肉交流会をしたいと思っていてそれが実現できてとても嬉しかったです。Uターン、Iターンの方とのジンギス焼肉は充実した時間になりました。遠山さんともLINEであの日の談笑のことをいじって話すくらいに打ち解けています。それがひとつの目標でもありました。そんな豊かな人間関係を築けたのも遠山の若者のみなさんのおかげです。

## 第1位→國松班焼肉

活動してきて1番楽しくて1番美味しかった日です。品川の人と繋がることの延長線上にあったこの焼肉はとても充実していました。これはお肉提供の肉のスズキヤさんに感謝です。とても優しい方たちで温かさを感じました。皆の美味しそうにジンギスを食べる姿にこっちまで嬉しくなりました。個性豊かな國松班ですが美味しいものや楽しむ時はいつもひとつになれていた気がします。

最後に今回協力してくれた、主事の脇田さん、宮田さん、亀井さん。この方たちの存在は大きかったです。何をするにもとても協力的で頼もしかったです。早朝の車で送迎とても感謝しています。太陽堂の水戸さん。いつもお邪魔する時はメロンソーダフロートを頂きました。思い出の一品です。太陽堂は誰でも歓迎しているところがとても気に入りました。マルモ商店のみちよさん。距離が近くて姉貴感が強い方です。話も面白くていつまでも話していただける先輩です。コンパスハウスの愉快的な仲間たち。色んな道の先輩たちです。あの日の交流会は楽しくて時間の流れが早かったです。

最後の最後に國松先生。1番お世話になりました。コロナ禍で大変だったと思いますが個性豊かなチームをまとめてくれてとても助かりました。この地域人教育の自分たちの担当が國松先生で良かったなと思います。この1年間ありがとうございました。END

(若山 李乃)



## お世話になったみなさん & 担当教員からのメッセージ



アマビエハロウィンはワタシたち自身思っていなかった企画で、とても新鮮で刺激になりました。また取り組みの姿勢もワタシたちにはないものがあって、勉強になりました。今回思った以上に地域の高齢の方が出てきてくれて、楽しそうにしていました。もちろん子どもたちですがコロナ禍にあって間違いなく遠山に元気をもたらしてくれた時間だったとおもいます。本当にありがとうございます！



今回とても有意義な機会を頂きましたが、3年生の時期の一時期ほんのわずかな期間だけのつながりになってしまうので、高校3年間を通じて地域も含めてお互いの成長を感じ合えるような仕組みになるといいなと思いました。同じ生徒が3年間でも良い先輩から後輩へ引き継がれるカタチでも良いですが、少し長いスパンで取り組めるとさらに深まると思います。



【和田宿にぎやかし隊一同】



人が集う場を目指してコンパスハウスという場を立ち上げて2年半。まさか自分たちよりも若い高校生も集える場所になるとは思いもしませんでした。

「この“人が集う”場所で、地元に住む若者たちと、大好きな焼き肉で交流したい！」との高校生の熱い思いから実現した交流会。年は多少離れていますが、人が集い、語らうことを大切に想う気持ちは同じであり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。人が集えばそれだけ多様な考え方や思いが共有できます。高校生がちょっぴり先輩な僕らから学ぶこともあれば、逆に若い高校生の熱い思いに僕らが心動かされることもありました。

この熱い思いはそのままに、これからも色々な出会いを作っていってもらえればと思います。そして、またこれからも気軽にふらっと来てもらえる遠山郷でありたいと思います。また遊びに来てください。

【COM(M)PASS HOUSE 遠山典宏】



一年お疲れさまでした。今年度は休校から始まり大変な一年でしたね。就職、進学的事も例年通り行かず、課題も進まず・・・。その中でも自分達のやりたい事を見つけ活動してきました。遠山 初めの印象はどうでしたか？ 今活動が終わって初めての印象はどうでしょう？実践の後、遠山に行く事がでなかったのが、卒業後ちょっとコロナが落ち着いたなら太陽堂にみんなで泊まりに行きながら思い出話をしてみませんか？

下栗のゲストハウスに泊まって夜空を見ながら下栗芋を食べるのも、コンパスハウスで焼肉、スズキヤさんと焼肉もいいね！卒業後も遠山と関わりを続け、目指せ！本物の関係人口。

最後に、1年間ありがとうございました。みんなのやりたい事を全部支援することができずにごめんね。みんなと色々出来て楽しかったです。

【飯田市公民館 学習支援係 社会教育コーディネーター 脇田 久世】



8人の生徒のみなさん。1年間の地域人教育、お疲れさまでした。物静かな性格の人や人懐っこい性格の人、元気が有り余っていてよ〜く喋る人など、8人それぞれが大変個性的なメンバーに恵まれて？ いつの間にか心を開き、この時間がとっても楽しく過ごせました。

みんなの感想を読んでいると、充実感たっぷり遠山郷のことが本当に好きになったことが伝わりますね。この経験がみんなにとってどんな意味があったのか。この先の人生の節目になんらかのいい影響があるんだろうと思います。その時はぜひ教えてください。そして、これからも共に遠山郷に関わり続けよう！ 家族を連れて行ったり、友だちを連れて行ったり、職場仲間を連れて行ったり、恋人を連れて行ったり、移住したり。「私の遠山郷」。にはまだまだ続きがありますよ〜。

私たちに関係していただいた上村、南信濃の皆さま。松本大学の田開先生と田開ゼミの皆さま。飯田市役所の亀井さん、宮田さん、脇田さん、学輪 IIDA でお世話になりました企画課の皆さま。ほか、ここに挙げきれない多くの方にも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

8人の生徒共々、これからもよろしくお祈りします！

【國松 秋穂】

# キッズフェスティバル ～思い出づくりにおいで～ (全地区2)



## 【研究メンバー】

橋爪 咲季 唐沢 杏 菅沼 彩音  
後藤 舞衣 本庄 桃夏 山下 桃々  
大倉 伊織 秦 圭佑 計8名  
高橋 茂 (指導教員) 片岡 博昭 (飯田市公民館主事)

## 【ご協力いただいた方々】

三連蔵 様 みつばつつじ 様 飯田動物園 様  
橋南公民館 (文化委員長) 今村 光利 様  
橋南公民館 (文化副委員長) 柴田 和浩 様  
りんご並木まちづくりネットワーク  
コーディネーター 桑原 利彦 様

## 1. はじめに (動機)

新型コロナウイルスの影響により、多くのイベントが中止になり、例年より静かな年になってしまった。今年も自粛期間もあり長期休暇がなく、家族で外に出かける機会が激減した。フィールドワークを行った際、イベントが思い通りにいかない聞いた。このような状況の中で地域の方と共に「with コロナ」の第一例になれるようなイベントをしようと考え活動を開始した。

## 2. 研究課題

- (1) コロナ対策をしながらのイベント開催をするため、密閉・密集・密接にならないような企画を考えた。
- (2) なくなってしまったイベントの代替イベントとして、多くの人に「with コロナ」意識してもらいながら楽しいと思ってもらえるようなイベント企画をする。
- (3) キッズフェスティバルは OIDE 長姫高校の文化祭で行っているキッズビジネスタウンをインスパイアして行うことにした。

## 3. 研究経過

6月 チーム結成	10月 ご協力していただく企業の方との打ち合わせ
7月 丘の上で活動開始	11月 詳細決定
8月 白戸教授へ相談	イベント本番
9月 方針が決まりご協力していただく企業を探す ブースの決定	12月 課題研究発表会

## 4. 研究内容

### (1) コロナ禍でできるイベント

新型コロナウイルスの影響で、地域の小学生が楽しみにしていた行事等のイベントは中止となり、様々な団体や個人の活動の発表の場が失われている。なくなってしまったイベントの代わりに「文化祭(発表の場) = キッズフェスティバル」という形で地域の方々と交流をし、体験を通じて小学生や家族に楽しんでもらいたいと考えた。

## (2) 企画・イベント開催

参加小学生37人

### ① 体験内容 お仕事…三連蔵、飯田動物園、みつばつつじ、会場アナウンス

稼ぐ…仮想通貨テックをもらう

遊ぶ…巨大マスクに願い事を書く・記念写真撮影、写真立て作り、クイズコーナー

お菓子のつかみ取り、飲食物販売

### (3) 工夫をしたこと

①チラシでの事前申し込みの段階では6人しか希望がなかった。直前に浜井場小学校に行き、帰りの会の間をいただき、全クラスで小学生に直接PRをした。このPRによって、当日参加数が大幅に増えた。

②コロナ禍らしいイベントを楽しんでもらおうと考え、巨大マスクを作成した。

## 5. 考察

7月に丘の上でフィールドワークを行い、丘の上の方々は他世代との交流をしたいと感じている人が多いということから、“交流”をテーマに活動することを決めた。私たち自身も文化祭や様々なイベントが中止となり、思い出作りができていないということから、思い出作りになる

ようなイベントを開催しようと考えた。そこで企画したイベントは「キッズフェスティバル」。最初は、公民館内だけで行うイベントを予定していたが、アドバイスをもらいリンゴ並木周辺のお店にも協力していただこうと考えた。新型コロナウイルス対策として、飯田市内の追手町小学校・浜井場小学校に申込書を配ったが、参加希望者は6人という結果になった。6人という申し込み人数から私たちは、浜井場小学校に伺い、直接宣伝を行った。イベント当日は、参加人数33人という申し込み人数を大幅に上回る子どもたちが参加してくれた。



このことから、参加してもらうには自分たちの気持ちを直接伝えることの大切さと、主催者がどんな人物かわからない状態だと、参加しようという気持ちにはならないということがわかった。また、イベントを行うに当たって、自分たちが楽しむということを大切にしていたが、自分たちが楽しむことによって周りの人たちが協力してくれた。人に協力してもらうためには自分たちが楽しいと思えるような活動をするのが大切だと感じた。このイベントを通して新型コロナウイルスの中での新しい交流の形を見つけることができ、with コロナの第一例になれたのではないかと考える。

## 6. 今後の課題

地域の方にこれからもイベントを続けてもらいたいという意見をもらったが、後輩に続けてもらいたいという気持ちを伝えることができなかったのが今後続けていくことが難しい。また、新型コロナウイルスの影響で私たちがイベントを行った頃よりも、開催することが困難になると予想され、ますますイベントを企画し、運営することができなくなるのではないかと考える。このことから、飯田市内での他世代交流が今まで以上に減ってしまうかもしれないということが一番の課題ではないかと考える。

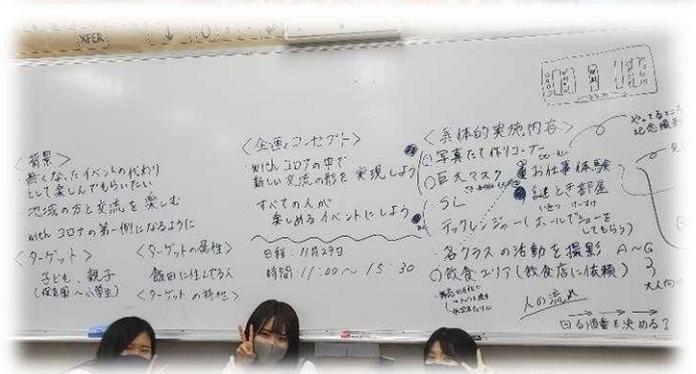
## 7. 終わりに

私たちが行ったイベントは、with コロナの第一例になるようにというテーマで行った。このイベントを通して、他の飯田市のイベントを行うきっかけになればいいと思う。この8人で一年間楽しく、お互いに支えあいながら、地域の活性化につながる活動が行えたので良かった。

一年間、私たちの活動に協力し、そばで支えてくださった主事の片岡さん、高橋先生、三連蔵の近藤さんをはじめとする地域の方々本当にありがとうございました。

# 活動内容

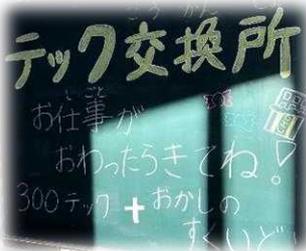
## ☆フィールドワーク・インタビュー・話し合い☆



## ☆キッズフェスティバル準備☆



### 巨大マスク



# ☆キッズフェスティバル当日☆



感染予防〇



たこ焼きのメニュー

たこ焼き	200円	スコーン	180円
豚汁	110円	スコーン	220円
お団子	160円	スコーン	240円
おにぎり	100円	チーズ	240円
おいなり	90円	ジャムクワ	240円
どら焼き	50円	チョコ	240円
ジュース	50円	菓子	240円
キャンディ	50円	カレー	240円
		白いチーズ	240円

～思い出作りにおいで～

## キッズフェスティバル

11月29日(日)

参加対象 小学生  
場所 沼田市公民館  
11:00～16:00 (最終受付 14:00)

お仕事体験で「チケット」を集める!

集めた「チケット」を使って遊ぶ!

動いたあとはごはんを食べよう!

協力してくださった方々ありがとうございました!!



11月29日(日)

# キッズフェスティバル ～思い出作りにおいで～

ターゲット:小学生 または 親子

飯田市動物園～飯田市公民館で開催

1

Withコロナの  
第一例に！！

3



三連蔵の近藤さん

「自分たちが本気でやりたいことをやった方が良い、本気でやっている人は周りも協力してくれる」

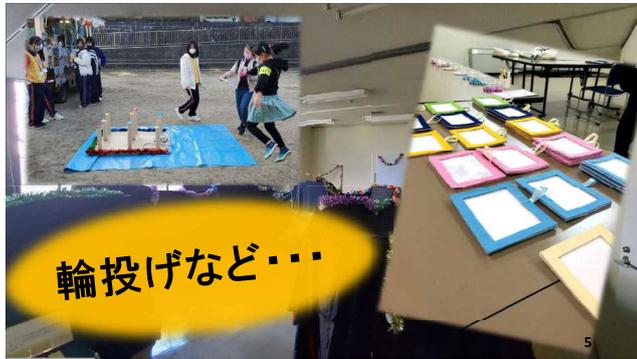
2

キッズフェスティバルとは・・・



小学生が自らお金を稼ぎ、そのお金を使って遊んだり食べたりできるようにすることで、楽しみながら金銭感覚を養うことを目的とする。

4



輪投げなど・・・

5



対面にならない工夫と  
ソーシャルディスタンスの確保！！

6



検温とアルコール消毒の徹底、  
各場所でソーシャルディスタンスの確保！！

7

なんと・・・！！！！

6人 → 33人

お仕事再チャレンジ  
内 11人

8

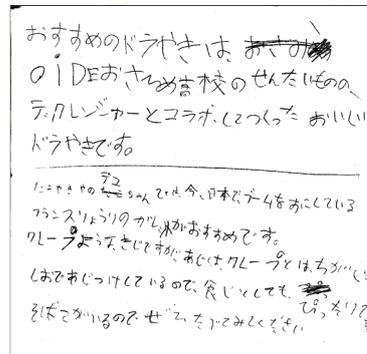


飲食ブース

完売

キッズ  
インフォメーション

9



実際の  
原稿

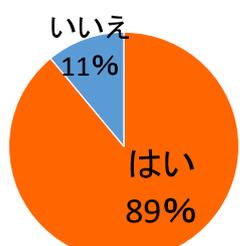
10

アンケート結果

楽しかったか



楽しい思い出になったか



11



12

～思い出作りにおいで～

# キッズ フェスティバル

11月29日(日)

場所 飯田市公民館

11:00～16:00 (最終受付 14:00)

※5年生以上で長靴を持ってこれる人は持ってきてください。

参加対象 小学生

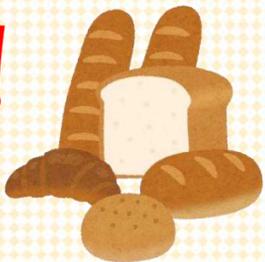
※保護者の方も是非ご参加ください!

参加費500円(保険料込み)

お仕事体験で  
「テック」を集める!

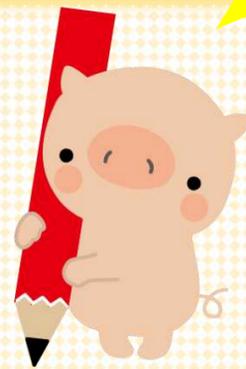
たこ焼き、パン、スコーン  
などなど

動いたあとはごはん  
を食べよう!



集めた「テック」を  
使って遊ぶ!

電車、謎解きゲーム  
写真たて作りなど!  
無料でおかしがもらえるよ!





# 1年間の活動を振り返って

## 大倉 伊織

交流したい！から始まり、文化祭をやることになり、あまり乗り気ではありませんでしたが、近藤さんの「自分たちが楽しんでできるもの」に当てはまったり、自分たちが楽しんで活動しているビジョンが見えたりしたので、この活動をしたと思えるようになりました。本当にたくさんの方々からアドバイスや意見をもらい、文化祭の企画も褒めていただいたことで、自信がつく一方、本当に参加してくれるのかな？など不安も多かったです。事前申し込みでは6人という結果で不安が大きくなったけど、その6人でも楽しんでもらいたいと思い、めげることなく、前日まで準備を頑張りました。その結果、当日は本当にたくさんの小学生が来てくれてとても嬉しかったし、諦めなくてよかったと思いました。今回のイベントを通して、集客の難しさや相手の立場になって考えることの難しさ、責任感を持ちながら活動することの大切さを実感できました。



## 唐沢 杏

新しい交流の形を見つける、With コロナの第一例となるような交流、というように私たちのグループは「交流」を重視して活動してきました。このイベントを行うことで地域の人と関わることができるのはもちろんのこと親子と一緒に写真立て作りやクイズに答えて遊ぶことで、親子でも交流ができました。

イベント終えてから達成感は強く「やってよかった」と強く思いました。楽しんでもらうことができ、自分たちも楽しめました。逆に反省することもあり、準備期間が短く効率よくできていなかったと思います。そのせいで本番バタバタしてしまったときがあり、そこは反省するべきだと思いました。でもグループのみんなと一から考え、企画し、実行できたのは信頼関係があったからだと思うし協力してくださった先生や主事さん地域の方々後輩の皆さんには本当に感謝しかないです。この地域人活動で交流することの大切さを改めて学びました。



## 後藤 舞衣

この一年間地域人教育を通して、地元の方の温かさや「交流」の奥深さを知ることができました。最初は目標や方向性が定まっておらず、とりあえず授業だからやっているという感じでした。しかし、地域の方にアドバイスをいただいたり、グループの仲間と話し合いを重ねるにつれて責任感が生まれ、私たちに関わってくれる人たちのために何とかしてイベントを成功させたいという思いが強くなりました。

私は、キッズビジネススタウンの担当をしており 協力していただける店舗の方と打ち合わせをするという仕事の中で、私たちのイベントのことを本気で考えてくださり地域の方の温かさを改めて感じる事ができました。また、当日参加してくれたボランティアの人たちは急遽お願いしたにもかかわらず、頼んだ仕事はもちろん周りを見て機転を利かせた行動をしてくれて本当に助かりました。

今回のイベントの成功は イベントに協力してくれた方々がいたからこそそのものだと思うので すべての方に感謝したいです。



## 橋爪 咲季

私はこのグループのリーダーとして1年間活動しました。最初は、グループでの活動がうまくいかや責任者としてグループのみんなをまとめられるか不安でしたが、課題研究の回数を重ねていくにつれチームワークも良くなりました。企画したイベントには多くの小学生が来てくれ、地域の方々と関わることができたのでとてもいい活動になったと思います。何より、グループみんなで活動を楽しめたので良かったです。協力してくださった地域の方々やイベントに参加してくれた子供たち、主事の片岡さん、担当の高橋先生には感謝してもしきれません。

この地域人教育では、人の前に立ち話すことや積極的に意見を出すなどリーダーとして責任感を持って活動を行うことができ、私自身も成長することができました。今回の地域人教育で学んだことを地域や社会に出ても活かしていきたいです。

## 秦 圭佑

僕たちの班は全地区ということもあり、最初は自分たちが何をすれば地域の貢献につながるのか思いつくことができませんでした。しかし、コロナ禍ということもあり「交流」の場がなくなっていることを知った僕たちは交流イベントを開催することを考えました。

事前応募では6人しか応募がなく、ほんとにイベントを開催することができるのか心配だった時もありました。しかし、開催日当日に集まった人数は30人を超え当初の計画よりも人数が多く景品などの数が足りずハプニングも起こりました。参加した子供たちから「楽しかった」「また遊ぼう」等のコメントをもらいとてもうれしかったです。今回のイベントを通してイベントを開くことの大変さが分かった一方、子供たちに喜んでもらえることの嬉しさや地域の人との交流・家族との交流の大切さを改めて感じました。

## 菅沼 彩音

私は一年間の活動を通して、さまざまなことを学ぶことができました。最初は人の意見に便乗するだけで自分の意見を持たないことが多かったのですが、活動を進めていくうちに自分の意見を持つことができ、それを積極的に人に伝えるようになれたと思います。

「新しい交流」をテーマとし、活動してきて、初めてイベントの主催者側を体験しました。イベントを行うにあたり、参加申し込み人数が少なかったり、事前準備に時間がかかってしまったりするなど大変なこともたくさんありました。しかし、そのことに対しても前向きに考えることができ、班のメンバーで相談しながら解決していくことができました。新型コロナウイルスの中でイベントを行うことで最初からできないと諦めてしまうのではなく、工夫をすることの大切さも学ぶことができました。

一年間、このグループで活動することができて本当に楽しかったです。協力してくれた地域の方々、主事さん、先生ありがとうございました。



## 本庄 桃夏

私は一年間の活動を通して、人と関わることの大切さを学びました。最初は、講演を聞いたり、事前学習をしたり、自分たちで活動をしているという実感がありませんでした。グループでの活動が始まってからも、全地区だったので何をすれば決まらないことも多く、不安を感じていました。でも地域の人へのインタビューや近藤さんからお話を聞いて、活動の目標ができてから自分たちで積極的に行動できるようになったし、イベントの準備やイベント当日も楽しむことができました。途中、参加者がうまく集まらなかったり、準備がギリギリまでかかってしまうという問題もありましたが、それをみんなで解決していくことで、活動が終わった後の達成感も大きかったです。地域の人や参加してくれた小学生もイベントを楽しんでくれていて、とても嬉しかったです。今回、私たちのイベントが成功したのも、地域の方々や協力してくださった方々のおかげなので、本当に感謝したいです。

## 山下 桃々

1年間の課題研究を通して私はたくさんの方のことを学ぶことができたと思います。今回、私たちは「新しい交流」をテーマに活動を行いました。コロナウイルスが流行し交流することが難しくなっている今だからこそ今回のイベントを通して交流とは何かということをいろんな角度から学ぶことができたと思います。交流の中にも人との交流、物の交流、感情の交流、思いの交流など色々な交流があることを学びました。また今回初めてイベントを主催する側を経験し、イベントに対する思いや主催者の思いというのを感じることも、学ぶことができました。

この1年間を通して学んだことをこれからも大切にして生活していきたいです。1年間このメンバーで楽しく課題研究を行うことができてよかったです。協力してくださった地域の方、先生、主事さんありがとうございました。



## カフェ三連蔵

近藤 サトル 様

昨年に引き続き、協力させていただきました。

立場的には協力という言葉になりますが、モチベーションとしては参加させてもらった、仲間に入れてもらったという感じです。

大人目線から見ると、もっとこうした方が、など思う事が沢山あるのですがあえてあまり口を出さないスタンスで関わらせてもらいました。

今回ちびっこの参加者が、当初6名というスタートでした。どうなるかと心配もしていましたが

大勢の参加者が集まり、本当に良かったと思います。自分たちが主体性をもって取り組んだ結果です。その原動力は何だったのか、そこが今回の大きな成果だと思います。

私自身としましても、今回の経験が生かされるといいなって、親の様な感覚をいただきました。

皆さんには明るい未来しかありません、何かあったら寄ってくださいね！



## 橋南公民館

文化委員長 今村 光利 様

私が地域人教育の取組みに初めてお手伝いさせていただいてから、もう何年になるだろう。この取組みもここ数年、随分定着してきたように思う。残念ながら今年はコロナ渦中で、例年通りとはいかなかったものの、それでもしっかりと自分たちで考え、小学生らにお仕事体験の場を企画し、成功できたことは良かったと思う。助言させていただいた私もうれしい限りだが、果たして良き助言だったか、と反省もしている。

高校生が学校を飛び出して、実社会の中からテーマを見つけ出し、取り組むことは、有意義なことだが、未知数な部分や、教育と実社会の関係の中では難しさもあるだろう。

何より問題なのは大人の性急さ。とかく大人は実利的な成果を求めがちだったり、盛り込みすぎたり、お仕着せ的に誘導してしまうくらいがあって、ややもすると計画倒れにしてしまう。たまにふと我に返って、自分の欠点を知ることあり、いい勉強になる。

我々大人もまた、行動をとともにすることで、高校生とともに学びあい、地域を高めることができれば素晴らしい活動になるだろうと、いつも思っている。これからもがんばって行ってほしいと願う。



## お世話になった 主事さんより

### 飯田市公民館 主事 片岡博昭 様

皆さんの可能性の大きさを実感しました。当初「交流」について漠然としていた皆さんが、振り返り際には実感を持って「コロナ禍でも交流が大事!」と言ったからです。

・なぜ浜井場小の児童がたくさん参加したのか?…それは、皆さんが学校へ足を運んで直接訴えたから。手をつないで一緒に帰ったから。皆さんも、「あの子来てくれたら嬉しいな」って、顔を浮かべながら願っていましたね。

・次に、なぜ皆さんが、浜井場小へ行って直接訴えたり、前日準備を頑張れたのか。…それは、協力して下さる地域の方の顔が浮かんで、協力してくれる人たちに合わせる顔が無い、中途半端なことをしていたら申し訳ないと思ったから。

・さらに、なぜ地域の方はあんなに真剣に考えてくれたのか。忙しい中、当日来てくれたのか。…それは、皆さんが何度も訪ねて相談していたから。本気度が伝わったから。

・そういえば、なぜ後輩たちが当日あんなに頑張ってくれたのか。自分たちの企画でもないのに。…それは、部活動などで日頃からの繋がりがあから。

以上4点に共通することは…そう、今回の企画を通じて、全ての人の心と行動を支えたのは「顔の見える関係」だったんです。そして、その関係をつくることができるのが「交流」だった。だから交流は大事なんだと。皆さんは課題研究を通してこれを発見したんです。イベント開催に悩む大人たちと同じ、真剣な悩みと想いが、今皆さんの中にある。「本物の研究」、できましたね。これからの人生、悩むことがたくさんあると思いますが、いつも味方です。こう思えるのも、一緒にやってきたからです。何かあったら、いや、何はなくともお越しく下さい。高橋班のみんな、ありがとう。



## 担当教員より

### 商業科教員 高橋 茂

当グループでは、「交流」というテーマで活動してきました。様々なところでイベントが中止になっていく一方で、「コロナだからできない」ではなく、「コロナだけどできる」、With コロナの第一例となるような交流を考えようと研究を進めてきました。「新しい交流の形」で人と人が一定の距離をとるなど、コロナ対策の工夫をしっかりとやりながら、参加した方も、地域の方も、運営スタッフも「楽しかった」と心が通うような交流をする。そんな思いでイベントを企画しました。

イベントの募集で小学校へチラシを持って行き、校長先生に配布をお願いしたところ、当初は6名の申し込みしかありませんでした。しかし、小学生に直接訴えた結果、当日は30名を超える参加がありました。このように「顔の見える関係」の重要性に気がつくことができたのは、大きな成果だったと言えます。また、この1年間の活動を通して、自分たちの活動に相談に乗っていただいた方、当日のイベントに協力していただいた方など、様々な人に出会いました。「頼まれたら、自分から引き受けるような人間になりたい。」「自分が地域の方の側になったら、積極的に参加していきたい。」と振り返りの中で皆さんからそのような言葉が聞けたのは、非常にうれしかったです。

最後になりましたが、今年度はコロナ禍での活動ということで、年度当初は例年通りの活動ができるか担当教員として、大変心配しておりました。しかし、コロナ禍の中、当グループが「交流」というテーマをもとに、このようなイベントを開催できたことは、地域の方々のご理解とご協力の賜物と、心より感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

DATE 地域人教育

# 令和2年度 成果発表会

商業科 ◆ 課題研究発表会

令和2年 12/23

9:00 ~ 12:45

県文化センターにて

## 発表内容

- 1 ★ 1年生の活動報告
- 2 ★ 2年生の活動報告
- 3 ★ コロナに負けるな！松尾に光を
- 4 ★ あつまれシールドルの森
- 5 ♠ 丘の色彩～竜丘の軌跡～
- 6 ♣ みんなで集まろう！こども食堂
- 7 ☀ こどもまつり
- 9 ♣ はじめてのいがら
- 10 ♥ キッズフェスティバル～思い出作りにおいて～
- 11 ♥ さあ飛び込もう！地下道へ！！
- 12 ★ 私の遠山郷 ～ここには会いたくなる人がいる～

事前申し込みの方のみ  
入場できます。

飯田市 長野県飯田OIDE長姫高等学校 松本人志

# 令和2年度 地域人教育成果発表会

期日：令和2年12月23日(水)

時間：9:00～12:45

会場：県文化センター

注意：事前申し込みの方のみ入場できます。

発表① 1年生 9:15～	発表② 2年生 9:28～	発表③ 松尾 9:41～	発表④ 座光寺 9:54～	発表⑤ 竜丘 10:20～	発表⑥ 県2 10:33～	発表⑦ 橋南 10:46～	発表⑧ 県1 10:59～	発表⑨ 伊賀良 11:25～	発表⑩ 全地区 11:38～	発表⑪ 東野 11:51～	発表⑫ 全地区J (遠山郷) 12:04～
1年生の活動報告	2年生の活動報告	コロナに負けるな！松尾に光を	あつまれシールドルの森	丘の色彩～竜丘の軌跡～	みんなが集まろう！こども食堂	こどもまつり	県にある唯一って...?	はじめてのいがら	キッズフェスティバル～思い出作りにおいて～	さあ飛び込もう！地下道へ！！	私の遠山郷 ～ここには会いたくなる人がいる～

飯田市 長野県飯田OIDE長姫高等学校 松本人志

# 地域人教育成果発表会用ポスター制作 優秀作品 (2年生)

9:00~12:30

## 地域人教育成果発表会

12月23日水曜日

9:41~ 松尾 コロナに負けるな!松尾に光を  
9:54~ 座光寺 あつまれシードルの森  
10:20~ 竜丘 丘の色彩~竜丘の軌跡  
10:33~ 県2 みんなで集まろう!こども食堂  
10:46~ 橋南 こどもまつり  
10:59~ 県1 県にある唯一って...  
11:25~ 伊賀良 はじめてのいがら  
11:38~ 丘の上 キッズフェスティバル~思い出作りにおいで~  
11:51~ 東野 さあ飛び込もう地下道へ!!  
12:04~ 遠山郷 私の遠山郷~ここには会いたくなる人がいる~

飯田市 長野県飯田OIDE長姫高等学校 松本大学 県文化センターにて

## 飯田OIDE長姫高校 地域人教育成果発表会

### — 主な発表内容 —

- 【コロナに負けるな!松尾に光を】 コロナでもできるイベントの運営 9:41~
- 【あつまれシードルの森】 地域資源であるシードルのPR 9:54~
- 【色の色彩~竜丘の軌跡~】 竜丘カレンダーの作成 10:20~
- 【みんなで集まろう!こども食堂】 こども食堂、フードドライブの開催 10:33~
- 【こどもまつり】 美博と動物園をつなげてみよう 10:46~
- 【県にある唯一って...?】 時を越えた魅力の発信 10:59~
- 【はじめてのいがら】 伊賀良の魅力発信 11:25~
- 【キッズフェスティバル~思い出作りにおいで~】 withコロナの一例になるようなイベントの開催 11:38~
- 【さあ飛び込もう地下道へ!!】 飯田駅横地下道の防犯対策 11:51~
- 【私の遠山郷~ここには会いたくなる人がいる~】 地域内関係人口の構築 12:04~

場所：飯田市県文化センター  
日時：12月23日(水) 午前8時30分~午後0時45分まで

⚠️ 事前参加申込者のみの限定公開となります。

マスクを付けて発表を見てね!  
検温や消毒などコロナ感染予防にご協力をお願いします。

飯田市 長野県飯田OIDE長姫高等学校 松本大学

## 飯田OIDE長姫高校 地域人教育成果発表会

- 1年生の活動報告 9:15~
- 2年生の活動報告 9:28~
- 3 コロナに負けるな!松尾に光を 9:41~
- 4 あつまれシードルの森 ~地域資源であるシードルのPR~ 9:54~
- 5 丘の色彩 竜丘の軌跡 ~竜丘カレンダーの作成~ 10:20~
- 6 みんなで集まろう!こども食堂 ~高校生による「こども食堂」および「フードドライブ」の開催~ 10:33~
- 7 こどもまつり ~美博と動物園をつなげてみよう~ 10:46~
- 8 県にある唯一って...? ~時を越えた魅力の発信~ 10:59~
- 9 はじめてのいがら 伊賀良の魅力発信 11:25~
- 10 キッズフェスティバル 思い出作りにおいで ~with コロナの一例になるようなイベントの開催~ 11:38~
- 11 さあ飛び込もう地下道へ!! ~飯田駅横地下道の防犯対策に関する研究~ 11:51~
- 12 私の遠山郷 12:04~

キョーン

## 令和2年度 飯田OIDE長姫高校 地域人教育成果発表会

コロナ禍の中ではありますが、感染予防を徹底し、開催致します。つきましては、事前参加申込者の限定公開となります。新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底にご協力よろしくお願いいたします。

日時:令和2年度 12/23(水)  
場所:飯田市県文化センター  
時間:8時30分~12時45分

飯田市 長野県飯田OIDE長姫高等学校 松本大学

- 9:41~ 松尾 ~コロナに負けるな!松尾に光を~  
ライトアップイベントの企画を行い、ライトアップ用に子供たちとランブシェードを作成しました!
- 9:54~ 座光寺 ~あつまれシードルの森~  
シードルを中心に活動し、ターゲットを新成人としてシードルの知名度を広げて行くことを目指しました!
- 10:20~ 竜丘 ~丘の色彩~竜丘の軌跡~  
竜丘の良さの再発見の写真と、小学生の思いを込めた俳句を掲載したカレンダーを作成しました!
- 10:33~ 県2 ~みんなで集まろう!こども食堂~  
県地区における、子どもの貧困、子供の居場所、について調査し、高校生によるこども食堂およびフードドライブの企画、開催をしました!
- 10:46~ 橋南 ~こどもまつり~  
飯田市美術博物館と協力し、博物館に気軽に来てもらえるようなイベントを計画しました!
- 10:59~ 県1 ~県にある唯一って...?~  
理想の県にするために、その魅力を迫り、歴史を探り、過去の魅力を現代に伝える活動を行いました!
- 11:25~ 伊賀良 ~はじめてのいがら~  
地元の小中学生と共にアップロードの歴史を学び、伊賀良地区の魅力やSNSで発信する活動を行いました!
- 11:51~ 東野 ~さあ飛び込もう地下道へ!!~  
飯田駅横の地下道を地元の小中学生と共にペイントを施し、安心して通れる明るい道にしました!
- 11:38~ 全地区型2 キッズフェスティバル ~思い出作りにおいで~  
飯田市動物園から飯田市公民館の周辺の商店でキッズビジネススタウンを開催しました!
- 12:04~ 全地区型1 私の遠山郷 ~ここには会いたくなる人がいる~  
様々な企画、活動を通して、発見した地域資源のほかにも同じ飯田市内に住むもの同士の間関係人口の構築について考察しました!

Date : 12/23 (wed) time : 9:00~12:30 at : 県文化センター

※事前に申し込まれた方へのみの参加となります。  
コロナ対策のため、必ずマスクの着用をお願いします。



# 令和2年度 飯田OIDE長姫高校 地域人教育成果発表会 発表内容

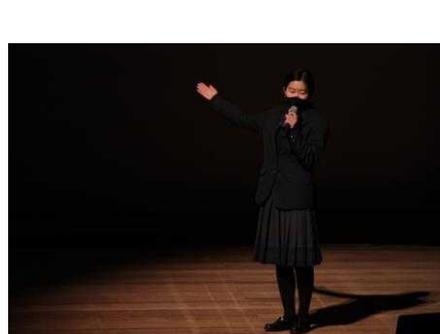
順番	発表時間	研究テーマ	発表タイトル	担当生徒	担当	地区
1	9:15		1年生の活動報告	石田 柄澤 小池 酒井 福澤 福沢 小田原 久保田 錫木 下原 松下	原 吉岡 河野	1年生
2	9:28		2年生の活動報告	新井 城下 須山 渡邊 北原 木下 桐生 澁谷	林 山田 國松	2年生
3	9:41	コロナでもできるイベントの企画運営	コロナに負けるな！松尾に光を	岡田 尾澤 沢柳 代田 塚越 古川 御堂島 桃澤	原	松尾
4	9:54	地域資源であるシードルのPR	あつまれシードルの森	今村 木下 小原 塩澤 田間 二村 松澤 丸山	河野	座光寺
			休 憩 ・ 入れ替え			
5	10:20	竜丘カレンダーの作成	丘の色彩 ～竜丘の軌跡～	岩崎 小林 清水 田間 中山 宮下 山崎	林	竜丘
6	10:33	高校生による「こども食堂」および「フードドライブ」の開催	みんなで集まろう！こども食堂	安藤 黒川 北澤 紺野 南坂 宮島 羽場 丸山	鈴木	鼎2
7	10:46	美博と動物園をつなげてみよう	こどもまつり	唐澤 近藤 武松 橋本 松下 山田 横前 吉川	吉岡	橋南
8	10:59	時を越えた魅力の発信	鼎にある唯一って・・・？	石田 叶 椎葉 菅沼 土屋 牧島 宮毛 森脇	武藤	鼎1
			休 憩 ・ 入れ替え			
9	11:25	伊賀良の魅力発信	はじめてのいがら	上原 片桐 木下 坂巻 西川 原 宮澤 米山	越	伊賀良
10	11:38	withコロナの一例になるようなイベントの開催	キッズフェスティバル ～思い出作りにおいで～	唐沢 大倉 後藤 菅沼 橋爪 本庄 秦 山下	高橋	全地区2 (丘の上)
11	11:51	飯田駅横地下道の防犯対策に関する研究	さぁ飛び込もう地下道へ!!	久保田 熊谷 清水 野々村 原 村澤 元島	山田	東野
12	12:04	地域内関係人口の構築	私の遠山郷 ～ここには会いたくなる人がいる～	梅澤 櫻井 下澤 高橋 棚田 知久 蜂谷 若山	國松	全地区1 (遠山郷)

# 地域人教育成果発表会 写真集

令和2年12月23日

飯田市鼎文化センター

※感染症対策のため、限定公開



資料

---

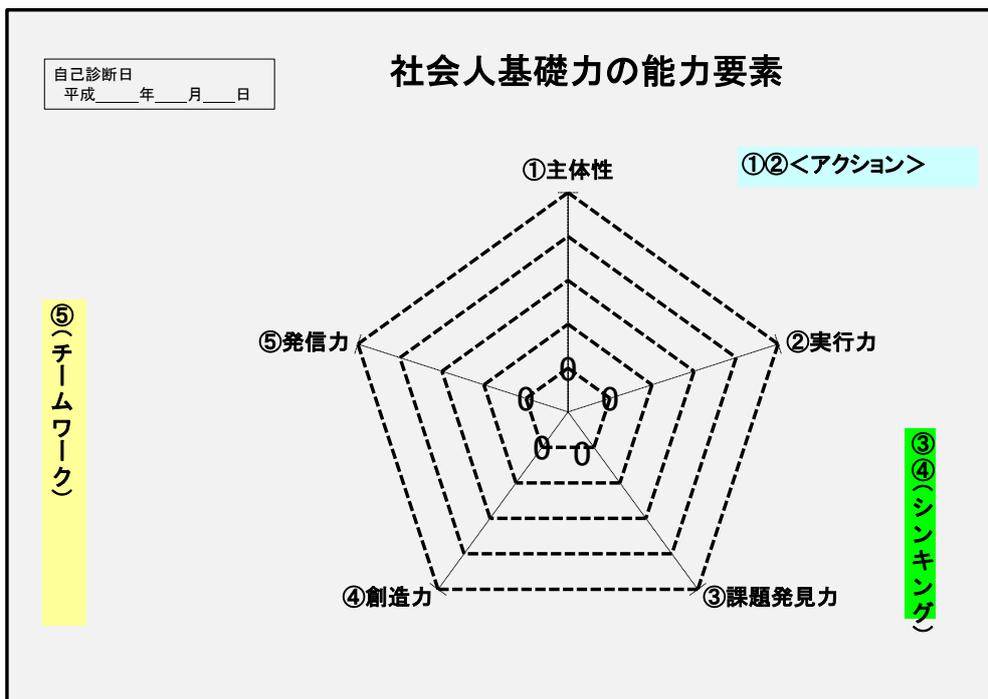
経済産業省2006年提唱「社会人基礎力」の12の能力から、地域人教育推進委員会において特に地域人教育で育成したい能力を5つに絞り込み、毎年学習前と学習後の調査を実施している。

社会人基礎力の自己診断シート					年 組 番 氏 名
★今の自分にはどの程度社会人基礎力があるだろうか？					
分類	能力要素	内 容		評価	自己評価
Ⅰ 前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	物事に進んで取り込む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り込む。	いつでも、積極的に取り込むことができる。	5	
			積極的に取り込むことが、ややできる。	4	
			内容によって、取り込むことができる	3	
			指示があれば、取り込むことができる。	2	
			なかなか、取り込むことができない。	1	
Ⅱ 考え抜く力 (シンキング)	② 実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけではなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り込む。	いつでも、自ら目標を設定し、確実にやりとげることができる。	5	
			自ら目標を設定し、がんばってやりとげることができる。	4	
			内容によっては、やりとげることができる。	3	
			言われたことを、目標を設定して行動することができる。	2	
			言われたことを、目標を設定して行動することができない。	1	
Ⅲ チームワーク (チームワーク)	③ 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。	いつでも、現状を分析し目的や課題を明らかにして明確に提案できる。	5	
			現状を分析し、目的や課題を明らかにして提案できる。	4	
			内容によっては、現状を分析し目的や課題を明らかにして提案できる。	3	
			現状を分析し、目的や課題を明らかに出来るが、提案までできない。	2	
			現状を分析、提案ができない。	1	
Ⅲ チームワーク (チームワーク)	④ 創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。	創造力がある	5	
			課題に対して、新しい解決方法を考えることができる	4	
			内容によっては、新しい解決法を考えることができる。	3	
			誰かと相談しながら、新しい解決法を考えることができる。	2	
			新しい解決方法を考えるのは、苦手。	1	
Ⅲ チームワーク (チームワーク)	⑤ 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 既存の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。	いつでも、自分の意見を相手に理解してもらい的確に伝えることができる。	5	
			自分の意見を相手に理解してもらい伝えることができる。	4	
			内容によっては、自分の意見を相手に理解して伝えることができる。	3	
			自分の意見を相手に理解してもらえたか、確認しながら伝えることができる。	2	
			自分の意見を相手に理解して伝えることができない。	1	
				合計	

経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」委員会中間報告より NPO法人「OCP総合研究所」が抜粋

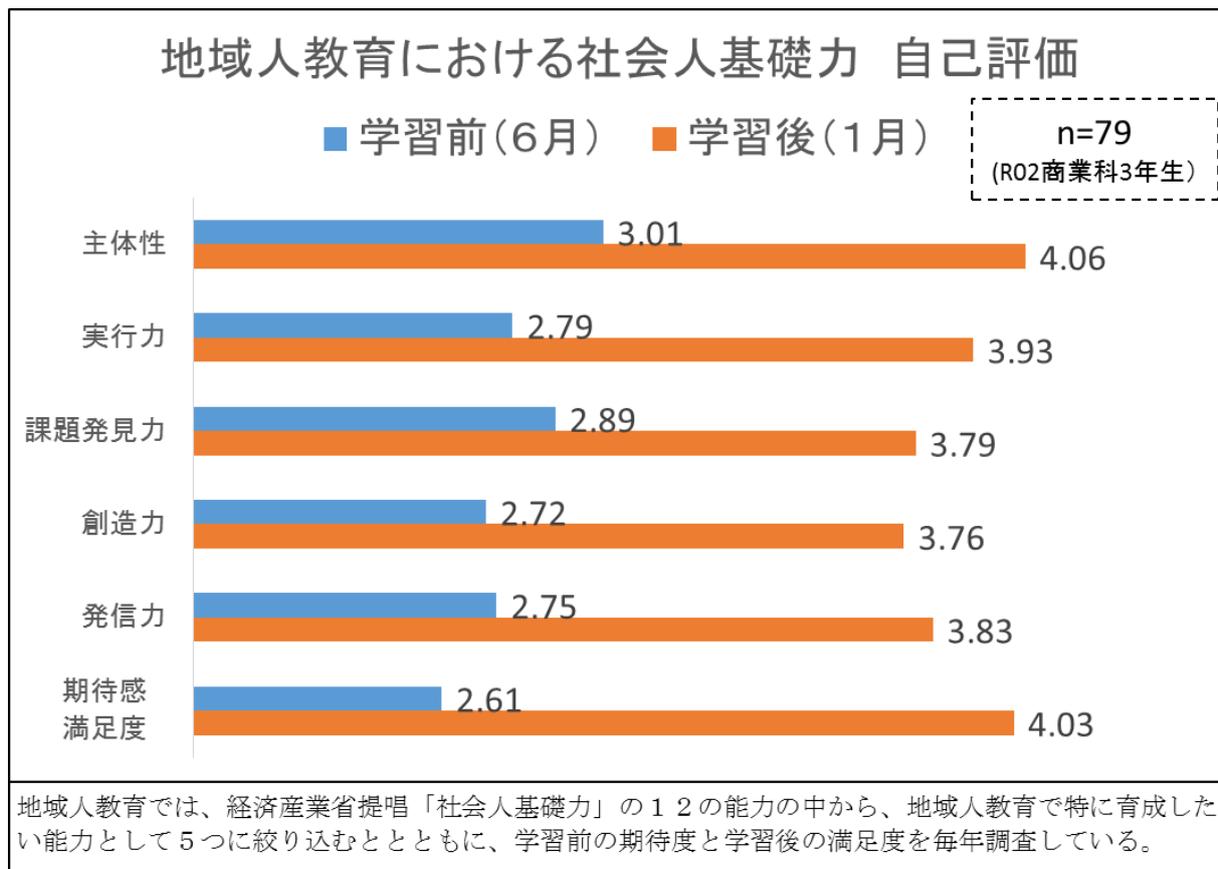
### 社会人基礎力による能力要素<レーダーチャート>

★自己評価した点数を記入し、5角形になるように線でむすんでみよう！ さて、どんな5角形になったかな？どの力が足りないだろうか？  
★ 次回の授業で自己分析をしてみよう！



1 社会人基礎力 自己評価より

（各指標5段階評価による平均値）



上記の結果からの分析（昨年までとの比較から）

- 1 学習後の数値が全ての指標で上回っている。コロナ禍により、研究活動の期間は短かったが、課題が見えやすく、地域側の協力体制や応援も大きかったことが要因ではないだろうか。
- 2 学習前の期待感が昨年と比較し、0.5上昇している。このことは地域人教育の認知が広がり、入学目的の一つにもなっている生徒が増えたことや「楽しい」という面で高い期待感を有していることが推察できる。期待度が高い生徒たちの傾向として、学習後の満足度は若干上がっているか、変化がないか、下がっている者もいる。今後は多様な人たちと苦しみを乗り越え、成長できるといった真の期待感をもたせられるよう、確かな情報を関係者に伝えていく必要がある。

＜ 文責 R02 地域人教育担当 國松 秋穂 ＞

B 年間ふりかえりアンケートより (記述式)

①今年度は休校を経て、コロナ禍の中で実施した地域人教育でしたが、あなたが地域人教育で地域の方と関わり、達成できたと思う事柄、達成できなかったと感じる事を書いてみましょう。

【達成できたこと】

- ・地域の方とは、イベントを主催する側としてイベントに対して提案をもらったり協力してもらったりして交流することができた。小学生とは、宣伝のときや当日会話することで交流できた。
- ・人に話しかけたり、質問することは苦手だなと思っていましたが、やっていくうちに慣れ。関わりのお大切さは前からわかっているけど避けてきたので、地域人教育で克服しようと頑張った。
- ・コロナの影響でほとんどのイベントが中止になった中、自分たちで1からイベントを考えて実行できたことはすごくいい地域貢献になったと思う。
- ・自分が最初に「こうしたい！」と思ったことができたのが良かったし、地区のものをたくさん活用したイベントを行い、すごく喜んでもらうことができてうれしかった。
- ・竜丘地区を知ることで自分が住んでいる地域について考えるようになって良かった。
- ・知らない地域だったが、フィールドワークを通して課題や魅力を見つけられたことから、自分の地域にも知らないことはたくさんありそうだなと感じた。
- ・地域の方に協力してもらい、子ども食堂を開催し、成功させることができた。
- ・班のみんなで話し合いをする中で出てきた「地域の方と私たちが win-win になる地域人教育！！」は地域の方にも喜んでもらえたとし、私も一生懸命最後までやりきることができたとの達成できた。
- ・最初は「アップルパイをつくりたい」という軽い気持ちしかなかったが、地域の方と関わり、たくさんお話を聞いていくうちに、アップルロードの歴史は、りんごに込められた想いを伝えたいという大きな目標に変わり、授業日数が少ない中、最後までやり遂げることができました。
- ・松尾地区を愛することができた。
- ・東野公民館長松澤さんから「やりたいことをやってみて、駄目だったらやめればいい」という言葉を聞いて、いろいろなことに挑戦できるようになった。
- ・地下道にペイントすることはコスト的にも不可能だと思っていたけれど、自分たちの意志を地域の方々に伝えたことで、この大がかりなイベントを成功させることができたと思う。不可能だと思っていたものを可能にすることができたということが班として大きな達成になったと思った。

【達成できなかったこと】

- ・交流の場をつくるだけでなく、それを継続していくということも考えられればよかった。
- ・地域がよくなるために、アンケートをとるなどの調査を行えば深い交流ができたかなと思う。
- ・成人式でのシードルのイベントと検証がしたかった。(コロナの影響で延期)
- ・その場その場で自分から意見・質問・発言をすることが足りなかった。地域の方ともっとふれあいたい思いがあるだけに、悔いが残った。
- ・イベントの対象が小さい子どもたちだったため、大人の方をあまり巻き込むことができなかった。
- ・地域の方とあまり仲良くなれなかった。もっと自分から話しかけてみたりすればよかった。
- ・スタッフの人たちともう少し仲良くなって楽しんでイベントができると良かった。
- ・コロナの影響もあり、親密なところまで活動することができなかった。
- ・課題を解決するためのイベントを行ったが、地区の課題の解決することができたのかわからない。
- ・時間がなくて検証、立証することができなかったのが残念だった。

②「社会人基礎力の自己診断シート」を完成させ、その結果を見ながら、1年間の活動を振り返って、あなた自身が成長したこと、頑張ったこと、変わったことなどを具体的に書き出してみよう。

- ・自分からホワイトボードに書き出すことをした。
- ・活動を進めるうちに、自分でやることを探して行動ができるようになった。
- ・人の意見に合わせるだけでなく、自分の考えや発想を伝えられるようになった。また、他の人が出した意見から「もっとこうできないか」などをプラスに考えられるようになった。  
(この他にも主体性、実行力の向上に関する意見多数)
- ・成長したことは自分の意見をわかりやすく伝える力です。イベントの協力依頼の際、地域の方に対して、なぜそのイベントを開催したいのかやメリットについてお伝えしました。先生以外の大人に自分の意見を伝える経験は初めてでしたが、自分なりに言葉を考えて伝えることができました。
- ・同じグループの仲間や先生、主事さんにもしっかりと伝わるように発信することができた。
- ・取り組んだ成果をわかりやすく伝える表現力とパソコンを活用する技術力  
(この他にも発信力、表現力に関する意見多数)
- ・地域人成果発表について、「いい発表会にしたい」という思いから頑張ろうと立ち上がり、本気で取り組んだからこそ、一皮むけた自分がこの1年でできたのだと思っている。
- ・グループ活動の重要性についてよく知れるようになり、自分の考え方を変えられるものとなった。
- ・地域の方と関わり、社会人として、地域の一員として成長できてよかった。
- ・相手が何をしてくれたら喜んでくれるのか。どんな思いをもって来てくれるのか、協力してくれるのか。といった相手のことを第一に考え、想像する力、そして、その想像したことを実際に創造する力が身についたと思う。
- ・リーダーとして、みんなに意見を求める側になったことで、問いかけたときにスッと自分の意見や思い、考えを発信してもらえるのは、話がスムーズに進むし、雰囲気も良くなる、とてもありがたいことなんだと感じた。日に日に内容が濃くなるグループの話し合いに自分の成長だけでなく、グループの成長を感じた。みんなの意見をしっかりとすくい上げられるように、ちょっとしたつぶやきも聞き逃さないとか、表情とかも見て、もう一度問いかけて思っていること全部惜しみなく言ってもらえるように頑張った。
- ・地域人教育をとおして、自分の持っていなかった能力を身につけることができ、成長できた。
- ・イベントの企画を一から自分たちでやってみるとたくさんの方々の協力が必要なことがわかった。協力してくれる人たちに挨拶にいたり、連絡を取ったりなど、しなければいけないことを主事さんから学ぶことができた。
- ・もともと地域の人とかと関わることは好きだったけど、さらに地域のことについて考えて行動したり、関わったりすることが好きになれてよかった。
- ・自分が成長できたところはよくわからないですが、他の人の活動に積極的に関わることで、自分の力だけで解決できないことも友だちとすることで効率が悪くても解決できることが多くなるし、やる気が出ることを改めて感じた。
- ・社会人基礎力はあまり変化がなかったが、普段からいろいろなことに興味をもつようになったし、自分から考えるようになったことかなと思う。昔からいろいろなことに興味をもたなかった自分が「こんなことやってみたい!」と思うようになった。
- ・特に変化がない。

③ 1年間の活動を振り返って、グループが成長したこと、頑張ったこと、変わったことなどを具体的に書き出してみよう（自分以外のメンバーがグループに貢献できたことも含めて書きましょう）。

- ・グループ全体で積極性が上がった。
- ・はじめは話し合いにならなかったが、後半は互いに意見するなど、いい雰囲気が進められた。
- ・意見が食い違ってちょっと悪い空気が流れることもあったけど、最終的にはお互いの意見を尊重し合いながら活動することができた。
- ・最初は誰かの意見を採用するかといった話し合いだったけれど、会を重ねるにつれて、いくつかの意見を組み合わせたり、話している中で新しい意見が出てきたりするようになった。
- ・活動を始めたばかりの時はみんなあまりしゃべらなかったせいか全体的に暗かったと思う。でも、今では笑いの絶えないくらい明るいグループになったので、とても変わったなと思う。
- ・それぞれに役割があって、誰か一人がサボっているということがなく、一人ひとりがしっかりと活動して貢献できていたので良かった。
- ・同じ班の仲間はそれぞれ尊敬するところがあり、仲間と一緒にいると私も頑張ろうと思えた。
- ・グループでの成長は「協力」だと思う。始めのころに比べて「手伝う」や「仕事を見つける」この2つが大きく変わった気がする。
- ・イベントの内容を決める前まではみんなバラバラな方向を向いて活動をしていたけど、イベント当日までの準備や当日はみんな責任感が強くなり、イベントを成功させることができたので、一人ひとりが成長でき、グループ全体も成長できたと思う。
- ・商業研究部ワープロ班の人がいたので、タイピングが速く、いろいろ作成するときにとってもありがたかった。
- ・班のメンバーそれぞれが研究テーマを持っていたこともあり、バラバラな行動になるかと思っていたけど、互いに協力しながら進められたし、困ったことがあったり手伝ってほしいことがあったときに助けてくれる人がたくさんいた。班として協調性や積極性が身についた。
- ・イベントのために〇〇さんと〇〇さんは、地域の方と交渉など大事な役割をしてくれたと思う。
- ・一人ひとりに強みがあって、お互いをカバーしながら活動できた。パソコンに強い人、人と話すのが上手い人、文のまとめが上手い人、雰囲気を良くしてくれる人など。
- ・ある人はノートにしっかりとメモをしてお互いに的確なアドバイスをくれて、ある人は自分の特技を生かしてみんなのことを明るくしてくれて、ある人は得意の部分を見つけるだけでなくグループを盛り上げてくれて、ある人は目立たなくても静かにみんなを支えてくれて、ある人はどんな仕事も積極的に取り掛かりいろんな仕事をしてくれて、ある人は誰よりもグループを引っ張ろうとすばやく且つ明確に指示を出してくれて、ある人はけがなどがあって活動も大変だったけど自分のできることをきっちりこなして、グループに貢献してくれた。自分がリーダーであるのがもったいないくらい、みんなが主役のようで、とても頑張ってくれました。
- ・この授業は性格がはっきり出る授業なので、好き嫌いがはっきり分かれた。
- ・正直、グループ全体で成長したことや変わったことはないと思う。
- ・少しリーダーに任せきりになってしまった。

④ 1年間の活動を振り返って、困ったことや苦労したことを教えてください（書きにくい場合は、具体的な場面をあげてみよう）。また、そのときにどのように対応したのかも教えてください。

- ・活動する期間がすごく短かった（同意見多数）
- ・コロナのことを配慮しなければいけなかった（同意見多数）
- ・イベント開催を悩んだが、白戸先生からのアドバイスもあり、自分たちで運営指針を作成し、対策を行いながら活動レベルに合わせて行動することができた。
- ・イベントの参加者がどのくらい来るのか、まったく想像がつかない中での準備だったので、景品をどのくらい用意すればいいのかわからなくて苦労した。
- ・準備に取り掛かるのがイベント2日前となり遅かった。
- ・放課後の活動は強制ではないからといって、なかなかメンバー集まらなくて困った。
- ・イベントの参加者を募集したとき、前日まで小学生6人しか集まらなくて困った。
- ・イベントの際の安全管理。特に子どもたちの危機回避のため、様々な工夫をした。
- ・仕入の際の数量や値段を決めること。総合実践でやっていたけど実際にやってみると難しかった。
- ・「こうしたいね」って話しても授業の最後に「それは意味があるのかな」などと言われて“今の時間なんだって”ってなるときもあったけど、みんなで新しい案を考えて実施できたのが良かった。
- ・手伝ってくれた地域の方が、さらに良くするために考えてくれていたんだとは思いますが、会うたびにこれもこれもで考えることが増えたり、これはもっとこうできないかと言われてたり、ちょっと大変だと感じる場面が多かった。
- ・地区の会議に参加して、高校生の意見を求められたとき、深いところまで考えていなかったから、答えるのに困った。
- ・大人の方と話し合うこと。とても緊張しました。
- ・班の人が考えた案を改善した方がいいと思っても否定するような気がして言い出せなかった。
- ・今日の地域人教育は何をするのかという予定の連絡が全くなって困った。外に出るときは特に。
- ・パソコンの使い方がわからなくて、写真や動画をパソコンやスライドに入れるのに苦労した。
- ・制作したカレンダーがなかなか売れなかった。
- ・資金集め。クラウドファンディングも考えたが、時間がなかった。廃材などでなんとかした。
- ・研究テーマに関する活動に必要な費用をどうするのか困った。
- ・地域の人が高校生にやってほしいことが私たちの考えと一致しないことがあった。
- ・色塗りが想像以上に大変だった。
- ・発表に向けての原稿やスライド期間の仕事の効率が悪く、結果一人への負担が大きくなりすぎた。
- ・課題が定まらず大変苦労した。話を聞くばかりでなく、自ら課題を探すべきだったかもしれない。
- ・発表会の準備の際、グループでやる人とやらない人で二極化してしまった。
- ・何回かアンケートをとったが、自分たちが思っていたのとは逆の結果が出て、悩んだ。
- ・地域の人の話から、課題が想像以上に大きすぎて、何をやればいいのか考えるのが大変だった。
- ・そもそもやる気のない人や、人と協力できない人と活動するのは無理だと思う。
- ・一人でテーマを持っていたので、自分で考えないといけないところが多かったので苦労した。
- ・自分たちが楽しむだけでなく、地域の人にも受け入れてもらえるイベントにするにはどうしたらいいのか難しくて困った。
- ・zoomをすることがあったが、実際に会って話しているわけではないので、話がしにくかった。

⑤ 1年間の活動を振り返って、今だからこそわかる、反省事項と改善案（あれば）を教えてください（自分自身のことでも、グループ活動のことでも構いません）。また後輩への引継ぎも含めて、気を付けておくべきことを書いてください。

- ・ 早め早めに。前もってやればやるほど、良いイベントや活動になる。
- ・ 活動のときに自分から積極的に動かないと、グループのメンバーからの印象が悪くなる。
- ・ メンバーや先生、主事さん、地域の方に対して、聞く耳をもつこと。
- ・ 関わる地域の方の想いを聞くこと。もっと聞きたかった。
- ・ 相手の意見に興味・関心をもてると良い。
- ・ お世話になった地域の方はもちろんだけど、メンバーや先生、主事さんに感謝しながら活動することが大切。
- ・ 担当の先生や主事さんに頼りすぎないこと。
- ・ グループ編成は、本当にぐちゃぐちゃ混ざった班にするか、自分たちがやりたいグループにするかどっちかにするのが良いと思う。1番いいのは、自分がやりたいって思うことができる班。
- ・ 自分たちの学年はコロナの影響でやりたい地区とか選ぶことができなかつたけど、もし自分たちで選ぶことができるのであれば、自分のやりたいことを明確にして地区を選び、自分の意見をしっかりもてるとよいと思う。
- ・ 普段仲がいい人と同じグループの方が意見を出しやすいし、話し合いが進むんじゃないかと思う。
- ・ 普段関わりのないメンバーでしたが、知らなかったお互いのことを良く知れたし、地域人教育のおかげで普段もよくなるようになった。後輩たちには、同じグループになった人のことをもう一度よく知ること、良いところも悪いところも認め合うこと、そして、自分の気持ちをちゃんと相手に伝えること。を大切にしてください。
- ・ 自分たちが楽しむことが1番だと思う。でも楽しいことをするには、多少の努力も揉めごとも必要だと思う。どんな人たちとでも協力することが1番だと思う。
- ・ 班のメンバーのことを詳しく知っていた方が、活動を進めていくなかでやりやすい。
- ・ 研究テーマを決めるときに、地域の課題に目を向けるだけでなく、地域の良いところ、周りにもっと知ってもらいたいことに目を向けることも大切。
- ・ 気を付けておくべきことは、したいことが地域のためになるのかということをしっかり考えた方が良いということ。
- ・ イベントの計画は細かいところまで決めておくこと。
- ・ 活動内容はできるだけ早くに決めて、段取りに多くの時間を割く方がいい。
- ・ 何をするか決めたら、おおまかな流れを紙とかなんでもいいから書き出した方がいい。
- ・ 活動しているときは、たくさん写真を撮っておくのが大切。
- ・ イベント後の検証活動ができていない。イベント後も継続できるようなことを考えればよかった。
- ・ 地域の人に“こんなことをしてみたい”ということを伝えると、一緒に考えてくれて積極的に協力してくれるので、最初から地域の人と関わり、たくさん案を出していくと良いと思う。
- ・ 発表会では、初めてその活動を知った人に伝わりやすくするために、事前のアンケートや数値で出せるものや地域の人の声などはしっかり残しておくが良い。
- ・ プレゼンの講座があってもいいかも。
- ・ グループ全員で行動！ 全員でやらなきゃ意味がない！ 自分から行動する。
- ・ ノートはしっかり記入しておこう。メモはあとあと大事になる。

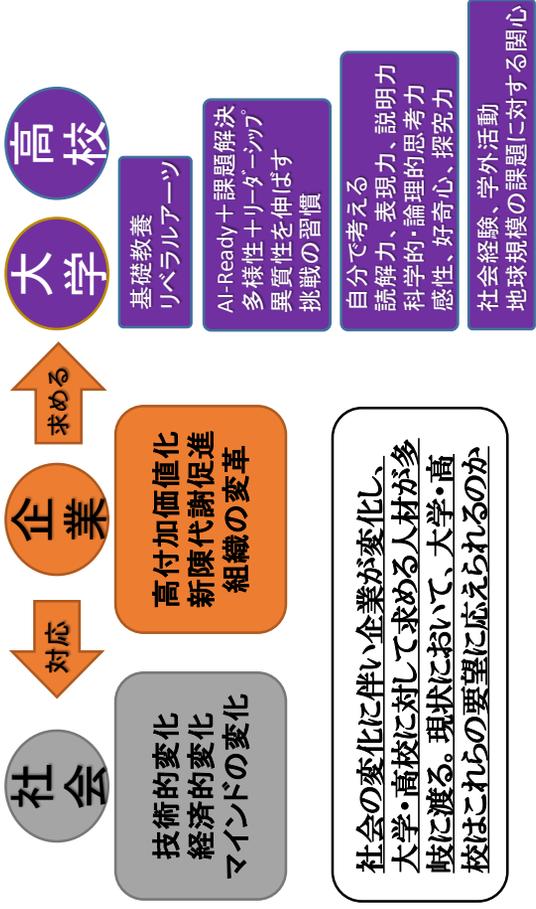
⑥この授業に対する、年度初めの期待感と現在の満足度を教えてください（1が最小、10が最大）。

また、その満足度の理由（1年間の感想）を教えてください。

- ・コロナ禍でもイベントやたくさんの方ができたので、とても楽しかったし、良い経験になった。
- ・地域の方と一緒に観光をテーマにしたイベントができてうれしかった。
- ・そんなに話をしたことがなかった人とも話せるようになった。
- ・O I D E長姫の商業科を選んだ理由が地域人教育で、地域と関わることができるからである。活動では、行いたかった運動会に1から関わり一緒につくりあげることができなかったが、コロナ禍でもイベントを開催することができたし、発表会でも聞いてくれる人の心をつかむことができて良かった。
- ・自分から考えて、行動できるようになって地域人教育をやってよかったです。
- ・想像よりも大変だったけど、それを班のみんなと乗り越えたときの達成感とか、みんなで協力する楽しさを知ることができた。こんなに楽しいのに、大切なことも学べるし、長姫の商業科で良かったと思った。
- ・大変なことがほとんどだけど、先生も同じ立場にたって悩んでくれるし、思うようにやらせてくれる、とてもいい授業でした。
- ・社会に出て必要になる人間性を学ぶことができた。
- ・最後は時間がなく、朝や放課後も活動する中で「もうやめたい」「やりたくない」と思うことが何度もあった。発表が終わった後、主事さんに「感動して泣きそうだったよ。お疲れ様。」と声をかけてもらえて、頑張ってよかったと思うことができた。
- ・同じ班の人と仲良くなれたし、自分の意見をみんなに伝えられるようになった。
- ・やってみて、一つの何かに向かって頑張る仲間は、思っていた程不安もなく、楽しめた。
- ・たくさんの人と出会い、グループとしても、一人ひとりが大きく成長し、あっという間に感じるくらい濃い時間で終わるのが、悲しいとも感じました。もっといろいろな活動がしたかった。このメンバーでもっといろいろなことをしてみたかった。
- ・地域人教育をやりたくてこの高校に入学したので、期待度は高めだったけど、期待以上の濃い活動ができてとてもよかった。
- ・2学期にカレンダーの案が出てから、写真を集めたり、資金提供をお願いしに会社に出向いたり、自分たちでカレンダーのレイアウトを考えたり、小学校に行って俳句づくりをお願いしたり、実際にキラヤに行って販売まですることができてうれしかった。半年間でこれだけのことをできる力があるのだと実感することができた。例年どおりでなくても活動に満足している。
- ・活動していくなかでシードルという新たな飲み物や多くの魅力を知ることができ、興味をもつことができた。地域人教育を通して、多くのことに触れ合い、成長することができた。
- ・私が話すときに目を見たり、頷いたりしながら聞いてくれて、話しやすかったしうれしかった。
- ・授業だから、地域の方に協力をお願いしたからやるから、協力してくれる人のため、参加するのを楽しみにしてくれている小学生のために。という風に考え方が変わっていった。  
この地域人教育を通して、クラスで深く関わらなかった人ともすごく近づけたと思うし、同じ気持ちを共有することの喜びを学んだ。「交流」をキーワードに取り組んできたが、自分たちが1番深い「交流」ができたのではないかと思う。
- ・活動内容があまりなくて、最初のうちは授業の3時間があっても進展なしの時とかもあった。
- ・グループ内で考え方の違いなどから、意見が割れたり、話がまとまらなくて大変だったこともあり、そんなに満足できなかった。
- ・活動当初に比べ、グループ内の関係が良くなったかと言われるとそうでもない。
- ・スタートが遅かったことから、去年より大変だったと感じる。先輩たちが言っていたような楽しい活動ではなかった。コロナの影響もあると思う。
- ・もっと誰か一人に任せるのではなく、グループで話し合い、一緒に準備できたら良かった。
- ・コロナのせいで行動も時間も制限がかかっちゃって思うように活動できなくて後悔する部分もある。
- ・最初はワクワクしてこの授業に取り組んでいたけど、結構悩むし、疲れます。楽しいことも辛いこともあります。社会に出て働くようになると、こんなことが毎日のかなって思いました。だから、社会に出るいい練習ができたと感じています。

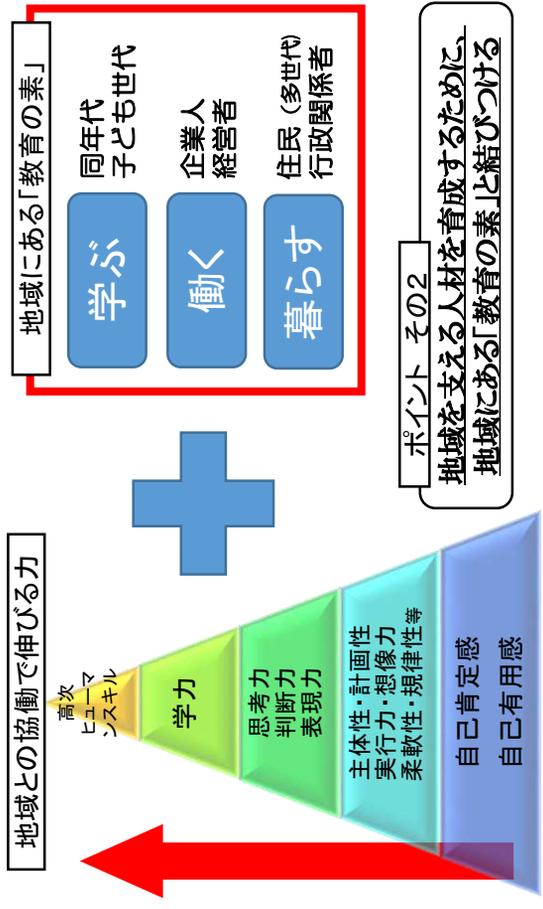
# 地域と協働した学びを実現させるために ～「地域人教育」の基礎概念～

現状整理：社会の変化に対応できる教育・人材育成

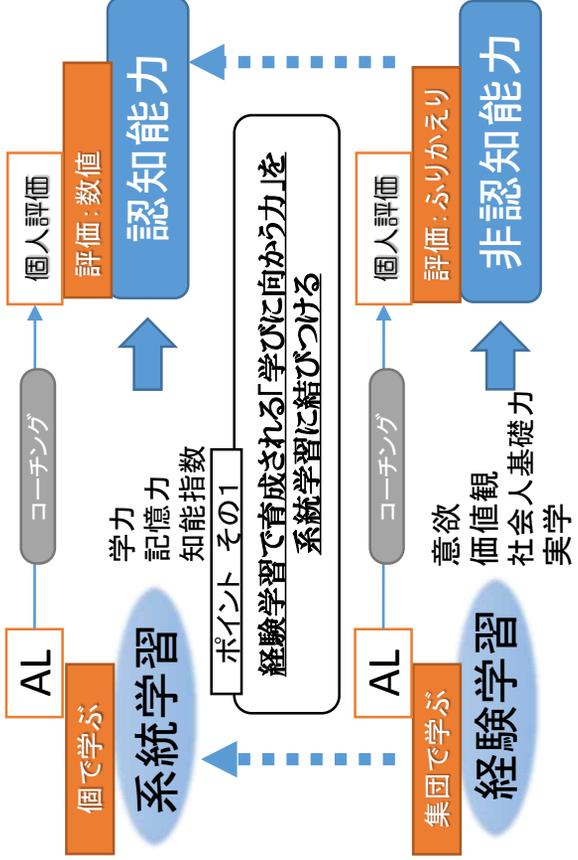


社会の変化に伴い企業が変化し、大学・高校に対して求める人材が多岐に渡る。現状において、大学・高校はこれらの要望に応えられるのか

高校教育改革の実現② ～地域を支えるための力を育む～



高校教育改革の実現① ～Society5.0に向けた力を育む～



高校教育改革のその先 ～持続可能な地域をつくるための教育～



PR

# 飯田OIDE長姫高校 地域人教育

## facebook



地域人教育の情報発信中です。



右のQRコードを読み取り、ぜひご覧ください。



## 地域人教育ポスタ



**飯田 O I D E 長姫高等学校**  
**「地域人教育」活動報告集バックナンバー**  
**【ダウンロード版】**

閲覧には Microsoft OneDrive のインストールが必要な場合があります。

PDF が閲覧できるパソコンおよびタブレット、スマートフォンでご覧ください。

**平成 28 年度**

発行日：2017 年 2 月 24 日

170 ページ

PDF サイズ：36.3MB



閲覧パスワード Akiya2016

**平成 29 年度**

発行日：2018 年 2 月 22 日

164 ページ

PDF サイズ：34.0MB



閲覧パスワード Mizuhiki2017

**平成 30 年度**

発行日：2019 年 2 月 28 日

180 ページ

PDF サイズ：40.4MB



閲覧パスワード Akamon2018

**令和元年度**

発行日：2020 年 2 月 28 日

90 ページ

PDF サイズ：11.0MB



閲覧パスワード Curry2019

## 令和2年度 地域人教育 推進委員

### [松本大学]

白戸 洋 (松本大学総合経営学部)

向井 健 (松本大学総合経営学部)

大野 整 (松本大学地域づくり考房『ゆめ』)

### [飯田市役所]

秦野 高彦 (飯田市公民館)

近藤 善彦 (飯田市公民館)

片岡 博昭 (飯田市公民館)

脇田 久世 (飯田市公民館)

熊谷 祐希 (橋南公民館)

棚田 美咲 (東野公民館)

永田 麻美子 (座光寺公民館)

三船 功基 (松尾公民館)

三ツ井 洋樹 (竜丘公民館)

熊谷 隆幸 (鼎公民館)

矢澤 朋子 (鼎公民館)

熊谷 健太郎 (伊賀良公民館)

### [飯田O I D E長姫高校]

原 康倫

福澤 竜彦

國松 秋穂

河野 繁

越 康恵

鈴木 卓

高橋 茂

林 秀孝

原 真由美

武藤 悠子

山田 将晶

吉岡 和久

(生徒)

1年生：76名 2年生：80名 3年生：79名

## 編 集 後 記

本報告集の発刊にあたり、ご多忙の中、原稿の執筆を快く引き受けて頂いた関係者の方、様々な場面でご協力頂いた地域の皆様方にこの場を借りて、御礼申し上げます。

私はこの報告集の編集に発刊当初から関わり、本報告集で第5号となりました。今年度も発刊をでき、大変嬉しく思います。発刊当初はどのような構成にするか、非常に苦慮しましたが、皆様方よりご意見等もいただき、現在のような構成になりました。今年度の報告集には、各グループとも生徒全員、個人の感想を掲載しております。

来年度も本校の地域人教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(商業科・「地域人教育活動報告集」編集係 高橋 茂)

今年度、生徒たちが主体となって本報告集を編集することをめざし、3年生による「活動報告集編集委員会」が立ち上がり、刊行に至りました。しかしながら、まだまだ教員が介することが多くあったことが反省点です。136ページからの年間ふりかえりは今年度初めて掲載しました。ほかも含め、手に取っていただいた皆さまにはぜひ率直なご意見・ご感想を頂けたら幸いです。

次年度以降、1年生から3年生までの生徒たちが主体となる本委員会が組織され、地域の方と一緒に本報告集を制作・編集・刊行する日がきっと来ることを願っています。

(商業科・「地域人教育活動報告集」編集係 國松 秋穂)

令和2年度  
飯田OIDE長姫高等学校

**「地域人教育」活動報告集**

発行日 令和3年3月1日

編集・発行 長野県飯田OIDE長姫高等学校 商業科  
〒395-0804

長野県飯田市鼎名古熊2535-2

TEL 0265-22-7117(代)

FAX 0265-53-4995

印刷 龍共印刷株式会社 120部

令和2年度

「地域人教育」

活動報告集

飯田OIDE長姫高等学校

商業科